



アルティメットシリーズ
オーナーズハンドブック

アシスタンス

代理店ネットワーク

McLaren Auckland	24 時間: +64 0508 MCLAREN
McLaren Bangkok	24 時間: +66 813 594 300
McLaren 福岡	24 時間: +81 120 838 680
McLaren Gold Coast	オーストラリア Allianz ロードサイド アシスト: 1800 626 768
McLaren Hong Kong	24 時間: +85 262 828 073
McLaren Jakarta	24 時間: +62 811 163 0122 BlackBerry® ピン: 24C64DC7
McLaren Kaohsiung	24 時間: +88 680 021 8208
McLaren Kuala Lumpur	24 時間: +60 193 396 888
McLaren Melbourne	24 時間: +61 283 382 188 オーストラリア Allianz ロードサイド アシスト: 1800 626 768
McLaren 名古屋	24 時間: +81 120 838 680
McLaren 大阪	24 時間: +81 120 838 680
McLaren Seoul	24 時間: +82 234 826 565
McLaren Singapore	24 時間: +65 64 304 888

McLaren Sydney

24 時間: +61 283 382 188

オーストラリア Allianz ロードサイド
アシスト: 1800 626 768

McLaren Taipei

24 時間: +88 680 021 8208

McLaren 東京

24 時間: +81 120 838 680

McLaren カスタマーサービス

+44 148 326 1500

英国営業時間

client.services@mclaren.com

オーストラリアのみ: けん引/ロードサイドアシスタンス用として記載
されている番号に連絡してアシスタンスを受けられなかった場合、ま
たはディーラーがアシスタンスを提供できない場合は、1800 626 768
までご連絡ください。

マクラーレン代理店の連絡先の詳細については、サービス & 保証冊子
を参照してください。



目次

- 1.01 運転の前に
- 2.01 運転操作装置
- 3.01 インstrument
- 4.01 センターディスプレイ
- 5.01 快適機能と便利機能
- 6.01 メンテナンス
- 7.01 車両データおよび用語集
- 8.01 適合性に関する情報
- 9.01 アイルトン・セナ財団

はじめに

はじめに

運転する前に本書をよく読み、McLarenとその機能についてご理解ください。本書には、お客様に McLaren が提供する利点や喜びを最大限にお届けするために必要な情報が記載されています。

本書では、McLaren Senna でご利用いただけるすべてのオプションおよび機能について説明しています。一部の記述（ディスプレイおよびメニュー機能に関する説明を含む）は、モデル、国別仕様、オプション装備またはマクラーレン認定アクセサリーの有無によって、お客様の車両には該当しない場合があります。

i 注意: 本書に掲載されている画像は、お客様の車両の状態とは完全には一致しない場合があります。

お客様のマクラーレンに付属されている書類は、車両の一部を構成するうえで不可欠なものです。車両を売却される場合には、必ず付属書類も同時に引き渡してください。

本書の内容は、必要な情報をすぐに見つけられるよう、章に分かれています。

運転の前に

運転席に着いた後に運転の準備を整え、すべての操作装置への安全かつ容易なアクセスを確保するために行う必要がある設定を詳しく説明します。

運転操作装置

この章は、お客様のマクラーレンの装備と運転操作装置、および運転中にそれらの操作装置を最も効果的に使用するための方法を詳しく説明します。

インストルメント

この章では、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）の機能の操作方法を含め、折り畳み式ドライバーディスプレイについて説明します。

センターディスプレイ

この章は、車両の各種設定の表示、変更手順を含め、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）について説明します。

快適機能と便利機能

快適な運転環境を得るためのシステムや機能について説明します。

メンテナンス

ここでは、お客様のマクラーレンのメンテナンスについて説明します。冬季にマクラーレンを運転する際のアドバイスや、海外で運転する際に不具合が発生した場合の対応策、その結果生じる可能性がある問題への対応方法についても説明します。ヒューズやランプに関する情報、パンク時の対処方法を説明します。

車両データおよび用語集

お客様のマクラーレンの様々なシステムに必要なフルードの仕様やその分量については、この章を参照してください。また、お客様のマクラーレンや車両の性能に関する具体的なデータが必要な場合もこの章を参照してください。

技術用語集では、McLarenに搭載されているいくつかのより複雑なシステムについても簡単に説明しています。より詳しい情報をお求めの場合は、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

索引

目次と索引は、必要な情報を素早く見つけるために役立ちます。

はじめに

本書についての情報

McLarenは最新の技術を採用し、つねに先を行く技術を搭載するため車両仕様を更新し続けています。したがって、McLarenは隨時設計、装備および技術的機能を変更する権利を留保します。

© McLaren Automotive Limited.

McLaren Automotive Limited の書面による許可なく本書の一部または全部を複製、翻訳もしくは再版することを禁じます。

お客様のマクラーレンに搭載されている装備は、車両や市場仕様により本書の画像とは異なる場合があります。

当社のアプリケーションに含まれるすべての情報、図および仕様は、利用可能なデータに基づいており、発行の時点では正確です。地域の制限や規制により、ご利用いただけるオプションは市場によって異なる場合があります。このアプリケーション内の図は、必ずしもお客様の地域の市場でご利用いただける仕様またはオプションを反映しているとは限らず、オプション装備を示している場合があります。

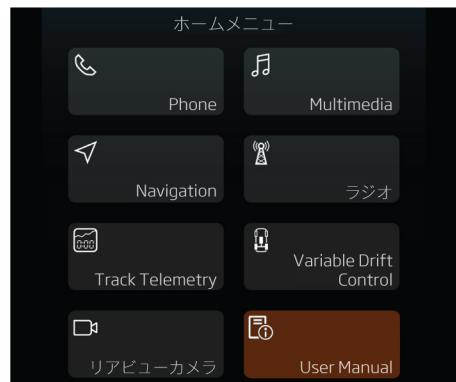
これらのアプリケーションに記載されている仕様は、情報目的専用であり、マクラーレンオートモーティブは、事前の通知なしで、または義務を負うことなく、いつでも製品の仕様を変更する権利を留保しています。仕様の詳細情報および標準装備とオプション装備に関する情報については、担当のマクラーレン代理店までお問い合わせください。

本車両は、特許により保護されています。
cars.mclaren.com/patents を参照してください。

Printed in United Kingdom, 15QA051CP

電子ユーザーマニュアル

お客様の車両に電子ユーザーマニュアルが装備されている場合、オーナーズハンドブックはセンターインフォテイメントタッチスクリーンでご覧いただけます。



このマニュアルにアクセスするには、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面からユーザーマニュアルを選択します。

はじめに



必要な言語を選択してから、目次ページからトピックを選択します。

ホームアイコンは、各ページの上部と下部に表示されます。ホームボタンを選択すると、メイン目次ページに戻ります。

必要に応じて、これらのアイコンを使用して前または次のトピックに移動できます。

RelatedTopics（関連トピック）を選択すると、現在のセクション内のその他の情報にすばやくアクセスできます。

このアイコンは、ウェブブラウザの戻るボタンと同様に、前のビューに戻るのに使用できます。

このアイコンは、メイン目次ページに戻るのに使用できます。

記号

本書では以下の記号を使用しています。これらの記号は、記載されている情報の種類が一目で分かる、視覚的なメッセージを提供します。

警告	
	怪我や死亡事故につながるおそれのある行為への注意事項を示します。
注意	
	車両を損傷する可能性のある行為への注意事項を示します。また、お客様にとって役立つ情報や特定事項に関する追加情報を提供します。
環境保護上の注意	
	お客様およびお客様の車両が環境に及ぼす影響を最小限にするためのヒントを説明します。

はじめに

運転上の安全

⚠️ 警告: お客様のマクラーレンに搭載されている電子システムは相互に作用しています。これらのシステムをみだりに改造すると、相互接続されている他のシステムの故障の原因となるおそれがあります。これらの不具合は、お客様のマクラーレンの運転安全上およびお客様自身の安全に重大な危険を生じるおそれがあります。
車両に間違った方法で装備を追加もしくは修正した場合も、運転安全に悪影響が生じる可能性があります。

車両の使用

車両を使用する際は以下の事項を遵守してください。

- 本書に記載されている安全上の注意のすべて
- 道路交通法および規則

⚠️ 警告: お客様のマクラーレンには、様々な警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルは、お客様とその他の人々に様々な危険を知らせるためのものです。車両の警告ラベルは決して剥がさないでください。
警告ラベルを剥がすと、お客様や乗員が危険に気付くことができず、怪我などを負うおそれがあります。

最低地上高

⚠️ 警告: 急な上り坂または下り坂への進入の際、車両の下側を損傷する可能性があります。

以下の場合には注意して運転してください。

- 縁石への進入
- 急な上り坂への進入
- 急な下り坂から平坦な道への進入
- 悪路での走行
- 交通静穏化策が実施されているエリアでの走行
- その他、駐車場など、路面の高さの急激な変化や上昇が起こる環境での走行

車体寸法、ページ 7.05 を参照してください。

トラック走行

車両の性能と信頼性を最大限に発揮するためには、サーキットでの走行の前に、以下の前提条件を満たしていることが重要です。

- エンジンオイルが標準動作温度である
- エンジンオイルレベルが 3、4、5 または 6 の緑色のセグメントである（エンジンオイルの点検、ページ 6.02 参照）
- エンジンクーラントが標準動作温度である
- タイヤが安全な動作温度を超えていない

i 注意: サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレンでは、サーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

i 注意: ご自分で完全にコントロールできる範囲内で、また車両性能の限度を超えない範囲で走行してください。

クールダウン

サーキット走行時は、ブレーキやトランスマッシュョンが高温になりパフォーマンスに影響が出る可能性があるので、マクラーレンではクールダウンする時間を取ることを推奨します。急ブレーキや必要以上のギアチェンジをせずに比較的の低速で走行すると、空気の流れで車両を冷却できます。

マクラーレンでは、サーキットを出る前に車両を標準動作温度に下げる時間を取ることを推奨します。

i 注意: パフォーマンス走行の直後に停車する場合、マクラーレンでは、すぐにはイグニッションスイッチをオフにせずにパーキングブレーキをかけることを推奨します。マクラーレンでは、エンジンをアイドリングさせてからイグニッションスイッチをオフにすることを推奨します。

i 注意: サーキットおよび競技での使用上の注意については、サービスおよび保証ガイドを参照してください。

はじめに

保存データ

お客様の車両にはデータを収集し、一時的または永続的に保存する多くのコンポーネントがあります。この技術データには、車両の状態、発生したすべての事象、お客様の車両に発生している可能性がある、または過去に発生した誤動作などに関する情報があります。

これらには、例えば次のものがあります。

- システムコンポーネントの作動状況（フルードレベルなど）
- 車両および個々のコンポーネントのステータスマッセージ（ガラスウォッシャー液が少なくなっていますなど）
- 重要なシステムコンポーネントの誤動作および欠陥（ライトスイッチの故障など）
- 特殊な運転状況での車両反応および作動状況（エアバックの展開など）
- 環境条件（外気温など）

このデータは、もっぱら技術的な性質のものであり、次の目的に使用できます。

- 不具合や欠陥の認識および修正の支援
- 車両機能の分析（事故後など）
- 車両機能の最適化

データは車両の動きを追跡するために使用することができます。

お客様の車両が点検を受ける際には、次の技術情報を車両から読み取ることができます。

- 修理サービス履歴
- 保証事象
- 品質保証

この情報は特殊な診断テスターを使用して、サービスネットワーク（メーカーを含む）の従業員によって読み取ることができます。必要に応じて、より詳細な情報を得ることができます。

不具合が修正された後、この情報は不具合メモリーから削除されるか、または連続的に上書きされます。

車両を運転する場合、他の情報に関連する技術データを他者が追跡する状況が発生する可能性があります。

例えば、次のものがあります。

- 事故報告書
- 車両の損傷
- 目撃証言

マクラーレンは、衝突事故の際のお客様の行動に関する情報にはアクセスしません。あるいは、次の場合を除いて他者とその情報を共有しません。

- お客様の同意、またはリース車両の借主の同意を得た場合

- 警察または類似する官庁の正式な要求に応じる場合
- 法的手続に備えてメーカーの防衛の一環とする場合
- 法律の定めるところによる場合

さらに、マクラーレンは収集または取得した診断データを次の場合に使用することがあります。

- マクラーレンの研究に必要な場合
- 研究で必要な場合に使用できるよう適切な機密性を維持し、必要性が示されている場合
- 研究のため、特定の車両への関連付けがない要約データを他の組織と共有する場合

運転の前に

開閉	1.02
一般.....	1.02
ドアを開ける.....	1.04
ドアをロックする.....	1.05
ミスロック.....	1.05
個人用設定.....	1.06
車内からロック/ロック解除する.....	1.06
車内からドアを開ける.....	1.07
ドアを閉じる.....	1.07
自動ロック.....	1.08
フロントサービスカバー.....	1.08
リアサービスカバー.....	1.09
盗難防止システム	1.10
アラームシステム.....	1.10
イモビライザー.....	1.10
けん引防止.....	1.11
シート	1.12
安全性.....	1.12
レーシングシート.....	1.12
ステアリングホイールとステアリングコラム	1.14
ステアリングホイールの手動調整.....	1.14
ホーン.....	1.14
乗員の安全	1.15
シートベルト.....	1.15
補助拘束装置（SRS）.....	1.16
チャイルドパッセンジャー.....	1.20
ミラー	1.22
安全性.....	1.22
インテリアミラー.....	1.22
外部ミラー.....	1.22
照明	1.24
外部照明.....	1.24
ランプスイッチ.....	1.24
ハイビームヘッドライト.....	1.25
ヘッドライト.....	1.26
リアフォグランプ.....	1.26
方向指示器.....	1.27
ハザード警告灯.....	1.28
パーキングランプ.....	1.28
ウォッシャーとワイパー	1.30
フロントウインドウワイパー.....	1.30
車両リフト	1.32
車両リフト.....	1.32

運転の前に 開閉

一般

キーレスエントリー機能を使用するリモコンキーの適切なボタンを押すことで、車両をロックおよびロック解除することができます。

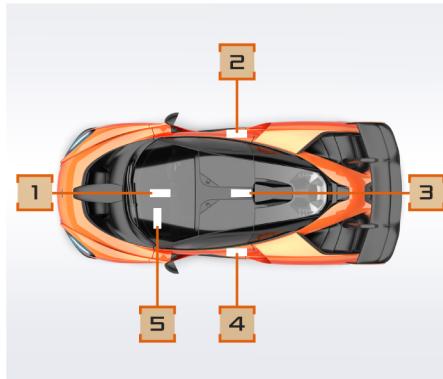
キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。

エンジンが停止している場合、電気的な状態に関わらず車両をロックすることができます。車両の電気的状態、ページ 2.02 を参照してください。

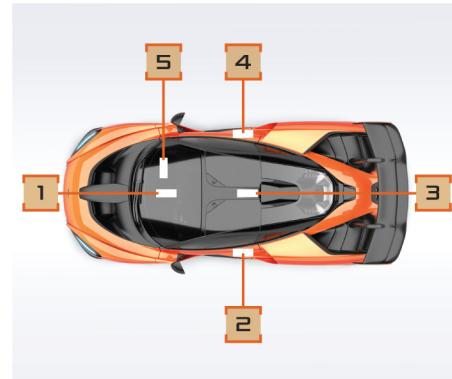
キーレスエントリー

キーレスエントリーを使用すると、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にあれば、ドアを開けるだけで車両のロックを解除し、盗難防止アラームシステムを停止させることができます。使用者がリモコンキーを身に着ける、あるいはバッグなど非金属製のものに入れて携帯していれば、ほかに必要なものはありません。キーを外に出す必要も操作する必要もありません。

5つのセンサーによって、リモコンキーが車両の周囲のどこにあるか検出されます。



右ハンドルモデル



左ハンドルモデル

1. 車内フロントセンサー
2. 運転席ドアセンサー
3. 車内リアセンサー
4. 助手席ドアセンサー
5. 助手席フットウェルセンサー

リモコンキーエントリー

お客様のマクラーレンには 2 つのリモコンキーが付属しています。これらのリモコンキーを使って、離れた場所から車両をロックおよびロック解除することができます。

運転の前に 開閉

i 注意: 盗難防止のため、リモコンキーの操作は車両のすぐ近くで行ってください。

リモコンキーを使って、ロックおよびロック解除できるものは以下の通りです。

- ドア
- サービスカバー
- フューエルフィラーフラップ
- クーラントフィラーフラップ



リモコンキーを使用して車両のロックを解除するには、ロック解除ボタンを押します。フロント、リアおよびサイドの方向指示器（市場により異なります）が2回点滅し、盗難防止アラームシステムが解除されます。

車両設定で運転席側と両側のどちらが選択されているかで、ロック解除ボタンの作動が変わります。ドアロック解除、ページ 4.16を参照してください。

⚠ 警告: リモコンキーはエンジンを始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合も使用します。
車両から離れる際には必ずリモコンキーを携帯してください。

i 注意: リモコンキーは、高レベルの電磁放射にさらさないでください。誤作動の原因となることがあります。例えば、ノートパソコン、タブレット、パーソナルメディアプレーヤー、携帯電話などの近くには置かないでください。

解除ボタン	結果
1 回押す	両側を選択した場合、ボタンを1回押すと両側のロックが解除されます。 運転席側を選択した場合、ボタンを1回押すと運転席側のロックが解除されます。ボタンをもう一回押すと（短時間の間をおいて）、助手席ドアのロックが解除されます。
2 回押す	両側を選択した場合、ボタンを2回押すと両側のロックが解除され、運転席側のラッチが外れます。 運転席側を選択した場合、ボタンを2回押すと運転席側のみロックが解除され、ラッチが外れます。

リモコンキーの収納

セキュリティのために、車両の運転中はリモコンキーを身につけておくことをお勧めします。リモコンキーを車内に置きたい場合は、人目につく場所には決して収納しないでください。

運転の前に 開閉

i 注意: 折り畳み式ドライバーディスプレイに車内にキーはありませんというメッセージが表示された場合は、リモコンキーを検出される位置に移動させてください。

i 注意: リモコンキーをセンターコンソールまたはシート背面の棚に収納しないでください。キーの場所が検出されず、エンジンがかからなくなることがあります。

消耗した電池

電池が完全に放電してしまった場合でも、機械式キーを使用して車両を動かすことができます。ロック解除 - 放電したバッテリー、ページ 6.19 を参照してください。

ドアを開ける



1. ボタン (1) をしっかりと押すと、ドアのロックが解除され、ドアのラッチが外れます。

i 注意: キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。

⚠ 警告: ドアを開ける際には必ずドアの後方に立ってください。横に立つと開いたドアによって怪我を負うおそれがあります。ドアが開く速度は気温により左右されます。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方方向に十分なスペースがあることを確認してください。車体寸法、ページ 7.05 を参照してください。

2. キーレスエントリーを使用したときはフロント、サイド、およびリアの方向指示器（市場により異なります）が2回点滅し、盗難防止アラームシステムが解除されます。
3. ドアラッチが外れ、ミラーが折りたたまれていた場合は展開され、ドアが少し持ち上がり、さらに自動的に外側および上方にスイングします。

i 注意: リモコンキーを使用して車両をロック解除した後にドアやサービスカバーを開かなかった場合、車両は 30 秒後に再びロックされます。

運転の前に 開閉

ドアをロックする



- ドアを閉じます。ドアを閉じる、ページ 1.07 を参照してください。
- リモコンキーを使用して車両をロックするには、ロックボタンを押します。フロント、リア、およびサイドの方向指示器（市場により異なります）が、車両の周りをぐるりと回るように順に素早く点滅します。これで、盗難防止アラームシステムが作動しました。



- キーレスエントリー機能を利用する場合、サイドダクト内にあるタッチセンサースイッチ (1) を押します。
- i 注意:** キーレスエントリー機能は、リモコンキーがセンサーから 1.2 m (3 フィート 11 インチ) の範囲内にある必要があります。
- i 注意:** ロックスイッチは 1 回押しを感じします。
- 方向指示器が点滅して、盗難防止アラームシステムが有効になったことを示します。

ミスロック



ドアまたはサービスカバーを開けたまま、もしくはリモコンキーを車内に置いたまま車両をロックしようとすると、ミスロックを示す警告音が鳴ります。
すべてのドアおよびサービスカバーを閉じたことを確認してから、車両をロックし直してください。

運転の前に 開閉

i 注意: サービスカバーを開けたまま、車両をロック/盗難防止アラームシステムを有効にすることができます。長い発信音が鳴り、この状態を警告します。この音は、ドアが開いている状態やリモコンキーが車内にある状態でのミスロックを知らせる短い発信音とは異なります。サービスカバーを閉じると、すぐに盗難防止アラームシステムが有効になります。これにより、車両の他の部分はロックしたまま、フロントサービスエリアのチャージポイントにマクランのバッテリーチャージャーを接続することができます。

個人用設定

同乗者を乗せずに運転することが多いお客様は、運転席ドアのみをロック解除するようにロッキングシステムを変更することができます。自動ドアロック、ページ 4.16を参照してください。

運転席ドアのみをロック解除する設定にしている場合、助手席ドアはドアの内側のハンドルを引いてリモコンキーのロック解除ボタンを再度押すか、オーバーヘッドコンソールにあるセンターロックボタンを押して車両のロックを解除しなければロック解除できません。

車内からロック/ロック解除する



1. 車両をロックするには、センターロックボタンを押します。ボタンのランプが点灯し、車両がロックされたことを示します。ドアは車内から開けることができます。
2. 車両をロック解除するには、再度センターロックボタンを押します。すると、ボタンのランプが消えます。

運転の前に 開閉

車内からドアを開ける

ドアはロックされているときでも随時車内から開くことができます。車両が停止しており、道路や交通の状況が安全なとき以外はドアを開けないでください。

i 注意: ドアはまず外側に開き、次に上方向に開くので、ドアを開ける前に横方向と上方向に十分なスペースがあることを確認してください。



ドアハンドルを矢印で示すように下方向に引き、ドアオープナーが作動するまでドアを外側に押します。すると、ドアは自動的に外側、次いで上方向にスイングします。

i 注意: リモコンキーが車内にない状態でドアハンドルを使用して車両のロックを解除すると、盗難防止アラームシステムが作動し、アラームが鳴る場合があります。

ドアを閉じる

ドアを下方向に押し引きし、確実にラッチしたことを見せてください。

⚠ 警告: ドアを閉じる際は、手や他の物体がドアエッジにかかるないようにしてください。特に、ソフトクローズラッチ装着車の場合は、1つ目のラッチがかかった時点ですぐドアが自動的に全閉状態までロックされるため、注意が必要です。挟み込み防止機能が搭載されていないため、ドアとドア開口部の間に物体や身体の一部があつてもドアの全閉動作は中止されません。重傷を負つたり車両が損傷したりする可能性があります。

i 注意: ドアを無理に閉じないでください。ドア開口部またはドアシールが損傷するおそれがあります。

運転の前に 開閉

自動ロック

ドアおよびサービスカバーは車両が走行を開始すると自動的にロックされます。

i 注意: 事故発生時に衝撃力が既定のレベルを超えると、ドアのロックは自動的に解除されます。

オートマチックロック機能はセンターインフォテイメントタッチスクリーンの車両設定セクションで選択できます。詳しくは、自動ドアロック、ページ 4.16 を参照してください。

オートマチックロックがオンの場合、車両が発進してロックされると、インテリアセントラルロックボタンが点灯します。

フロントサービスカバー

開ける



1. 図に示すようにサービスカバーを押し下げる
ると、ラッチが解除されます。
2. サービスカバーを開けると、ヒンジにより完全に開いた位置でカバーが支持されます。

閉じる



1. 図に示すようにサービスカバーを閉じて圧力をかけると、ラッチが締結して明確なクリック音が聞こえます。
2. サービスカバーを閉めた後は、しっかりと固定されているか確認してください。

運転の前に 開閉

リアサービスカバー

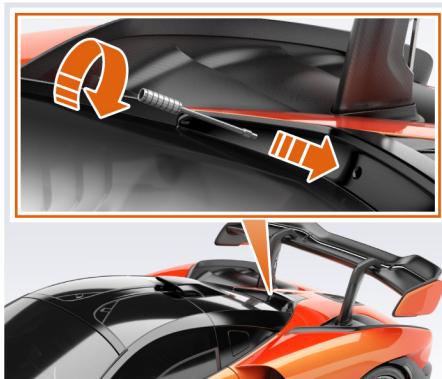
開ける

⚠ 警告: エキゾーストテールパイプは非常に高温になるため、重度の火傷を負うおそれがあります。サービスカバーは必ず車両の横に立って開けてください。

⚠ 警告: エンジンコンポーネントは非常に高温になり、重度の火傷を負うおそれがあります。

⚠ 警告: エンジンがエコスタートストップシステムにより停止している場合、警告なく再始動することがあります。

1. リアサービスカバー取り外しツールをツールキットから取り出します。概要、ページ 6.08 を参照してください。



2. サービスカバーの前方にある固定穴にリアサービスカバー取り外しツールを挿入します。
固定具を時回りに 90 度回し、サービスカバーを外して開けると、ヒンジにより完全に開いた位置でカバーが支持されます。

エンジンオイル、ページ 6.02 を参照してください。

閉じる

⚠ 警告: エキゾーストテールパイプは非常に高温になるため、重度の火傷を負うおそれがあります。サービスカバーは、必ず車両の横から取り付けてください。



1. 図に示すようにサービスカバーを閉じて圧力をかけると、ラッチが締結して明確なクリック音が聞こえます。
2. サービスカバーを閉めた後は、しっかりと固定されているか確認してください。

運転の前に 盗難防止システム

アラームシステム

アラームシステムが有効になっているときに以下のいずれかが開けられると、警告が表示され警告音が鳴ります。

- ドア
- サービスカバー

i 注意: 開けられた開口部を閉じてもアラームは停止しません。アラームを止めるには車両のロックを解除します。

アラームシステムはまた、以下の機能を備えています。

- けん引防止

アラームシステムを有効にする

車両をロックします（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。約5秒後に盗難防止アラームシステムが有効になります。



車両をロックすると、セントラルロッキングボタンのランプが約60秒間点灯し、この時間を超えると、ランプが点滅し続けます。

アラームシステムを解除する

車両のロックを解除します（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。アラームが解除され、セントラルロッキングボタンのランプが点滅を停止します。

イモビライザー

イモビライザーはお客様のマクラーレンが不正に始動されるのを防ぎます。

車両が車内にリモコンキーがないことを感知すると、イモビライザーが自動的に起動します。

車内にリモコンキーがあることが感知されると、イモビライザーは解除されます。

i 注意: イモビライザーは、エンジンが停止中の場合のみ作動します。

運転の前に 盗難防止システム

けん引防止

けん引防止は、吊り上げけん引やトレーラー積載による車両の盗難を防止するように設計されています。

どのような方法でも、車両が持ち上げられたり傾けられたりするとアラームが作動します。

けん引防止は車両がロックされてから約 30 秒後に起動し、車両のロックが解除されると停止します。

けん引防止を無効にする



- けん引防止を無効にするには、イグニッシュョンスイッチをオフにして、ダッシュボードのボタンを押します。スイッチのランプが点滅し、けん引防止が無効になったことを示します。

i 注意: イグニッシュョンスイッチがオンのままでは、けん引防止を無効にすることはできません。

- 降車して車両をロックします（キーレスシステムまたはリモコンキーを使用）。けん引防止は、車両をロック解除するまで無効になりましたままで。

運転の前に シート

安全性

⚠️ 警告: 運転席シートの調整は車両を停止して行ってください。シートの移動により道路や交通状況への注意がおろそかになります、ハンドル操作を誤ったりするおそれがあります。結果として、事故につながるおそれがあります。

⚠️ 警告: シートはリモコンキーが車内にないときでも移動できます。お子様だけを車内に残さないでください。偶然シートが動いた場合にお子様が怪我を負うおそれがあります。

⚠️ 警告: シートの動作によって手などを挟まないように注意してください。
万一の事故の際に負傷する危険性を低減するため、以下の事項をお守りください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく装着できるように、また同時にフロントエアバッグからできる限り遠い位置となるようにシートの位置を設定してください。運転席シートの位置は、ドライバーが車両を安全に運転できる位置でなければなりません。運転席シートからペダルまでの距離は、ドライバーがペダルを完全に踏み込むことができる距離でなければなりません。ドライバーの胸からエアバッグカバーの中心までの距離は 25 cm (10 インチ) 以上でなければなりません。ステアリングホイールを握ったときに、ドライバーの肘が軽く曲がるようにする必要があります。

- 乗員は常にシートベルトを正しく装着していかなければなりません。

- 助手席シートは、無理な姿勢とならない範囲内でできる限り後方に設定してください。

⚠️ 警告: マクラーレンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めしませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- 身長 1.5 m (4 フィート 11 インチ) 未満、または 12 歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。

- 助手席シートにチャイルドシートを装着する場合は、シートを最後端の位置に設定してください。

レーシングシート

シートの前後位置調整



i 注意: シート位置は前後調整のみが可能です。

シートを調整するにはレバーを上げ、シートを好みの位置にスライドさせて、すべてのペダルに楽に足が届き、いっぱい今まで踏むことができるようにしてください。

⚠️ 警告: 運転する前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

運転の前に シート

- i** 注意: フットウェルまたはシートのそばに物や荷物などがないことを確認してください。物が置かれているとシートが損傷したり、調整を完全に行えないことがあります。

シートの高さ/傾き調整

シートの高さ/傾き調整については、お近くのマクラン代理店までお問い合わせください。

! 警告: シートの高さの調整は、必ずマクララン代理店に依頼してください。

運転の前に

ステアリングホイールとステアリングコラム

ステアリングホイールの手動調整

⚠️ 警告: ステアリングホイールの位置調整は必ず停車して行ってください。道路や交通状況への注意がおろそかになるおそれがあります。結果として、運転操作を誤り、事故につながるおそれがあります。

ステアリングホイールは高さと前後位置を調整することができます。



レバー（拡大図）を下に押し、以下の条件を満たすようにステアリングホイールの位置を決めます。

- ステアリングホイールを握ったときに、腕が若干曲がった状態になること。

- 両足を自由に動かすことができること。
- 折り畳み式ドライバーディスプレイ上の情報がすべてはっきりと見えること。

レバーを引き上げてステアリングホイールを固定します。運転する前に、レバーがロックされていることを確認してください。

ホーン

ホーンを操作するには、ステアリングホイールの中央を押します。

i 注意: ホーンはイグニッションスイッチがオフのときでも作動します。

運転の前に 乗員の安全

シートベルト

シートベルトとチャイルドシートは衝突時の衝撃に対し乗員を拘束し、それによって車内衝突による負傷やむち打ち症の危険を最小限に抑制するための最も有効な手段です。

⚠ 警告: シートベルトは着用していないときや誤った着用をしたとき、あるいはシートベルトバックルに完全に締結されていないときは本来の機能を果たすことができません。怪我を防止するために、乗員全員が必ず各々のシートベルトを正しく着用するようにしてください。
ベルトは以下の条件を満たすように装着してください。

- 骨盤のできる限り低い位置、すなわち腹部ではなく股関節部にかける。
- 体に密着させる。
- ねじれをなくす。
- 肩の中央部を通る位置にかける。
- ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通るようにかける。
- 肩ベルトを上方向に引き、ベルトを骨盤部に密着させる。

乗員が使用しているシートベルトで他の物体を固定しないでください。
あまり厚手の衣類を着用するのは避けてください。

鋭い縁や壊れやすい物、特にそれらの物が乗員の衣類に付いていたりポケットに入っていたりする場合、その部分にはシートベルトをかけないでください。シートベルトが損傷したり、乗員が負傷したりするおそれがあります。

各シートベルトは一度に1人の乗員しか使用することはできません。
決してお子様を他の乗員の膝に座らせないでください。

身長1.5m（4フィート11インチ）未満、または12歳未満のお子様は、適切なチャイルドシートにより保護しなければなりません。チャイルドシートはメーカーの取扱説明書に従って装着してください。現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。

⚠ 警告: 妊娠中の女性は、母親と胎児の最大限の安全のためにシートベルトを着用する必要があります。腰ベルトは腹部の下の腰の部分に、肩ベルトは胸部中央から腹部側面を通るようにかけます。ベルトが緩んだりねじれたりしていないことを確認してください。

⚠ 警告: シートベルトが本来の保護水準を發揮するのは、シートバックレストを垂直に近い位置に設定し、乗員が真っ直ぐに座っている場合のみです。

⚠ 警告: シートベルトやバックルが極端に汚れたり損傷したりしていると、シートベルトは正常に機能しません。ベルトラッチがバックルと完全に締結できることを確認してください。

シートベルトに損傷がないか、鋭い縁に当たっていたり引っかかっていたりしないかを定期的に点検してください。事故の際にベルトが裂け、乗員が怪我を負うおそれがあります。

ベルトに損傷がある場合や、重い負荷がかかった場合はシートベルトの点検を依頼してください。シートベルトの修理や交換は必ずマクラーレン代理店に依頼してください。

シートベルトの着用



運転の前に 乗員の安全

1. 無理のない姿勢で、操作装置類に容易に手が届くようにシートを調整します。
2. シートベルトラッチを持ち、体の前を通してます。その際、ベルトが首と肩の間の鎖骨の中心を通り、胸部から骨盤に至るようにかけます。
3. ベルトを正しい位置に配置してラッチをバックルに差し込み、カチッとき音がして締結したことが確認できるまで押し込みます。

バックルからラッチを引き、確実にラッチがはまり込んでいるか確認してください。

シートベルトテンショナー

シートベルトにはベルトテンショナーが組み込まれています。ベルトテンショナーは事故の際にシートベルトに張力をかけ、乗員を強く引っ張ります。

 **警告:** 助手席に乗員がない場合は、ベルトラッチを助手席のシートベルトバックルに差し込んでください。事故の際にベルトテンショナーが作動する可能性があります。

 **警告:** ベルトテンショナーは誤った着座位や間違った装着を補正することはできません。

ベルトテンショナーは乗員をバックレストの方向に引き戻しません。

ベルトテンショナーは正面衝突または追突が発生し、車両が急減速または急加速した場合に、ベルトラッチがシートベルトバックルに締結されていることを条件としてベルトごとに作動します。

ベルトテンショナーが作動するとパンという音がし、場合によっては少量の煤塵が放出され、補助拘束装置警告灯が点灯します。

 **警告:** ベルトテンショナーが作動したら（または、作動したかどうか分からぬ場合は）、絶対に車両を運転しないでください。直ちに最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。

ベルトフォースリミッター

シートベルトにはベルトフォースリミッターが組み込まれています。ベルトフォースリミッターはフロントエアバッグに同調し、衝撃を受けた際にベルトにかけられた張力を徐々に解放し、乗員が受ける力を低減します。

シートベルト警告灯

 折り畳み式ドライバーディスプレイのシートベルト警告灯と警告音が、車両の乗員に対し各々シートベルトを着用するように促します。ドライバーと乗員がシートベルトを着用するとシートベルト警告灯が消灯し、警告音が止まります。

補助拘束装置 (SRS)

エアバッグシステム

お客様のマクラーレンには以下のエアバッグが装備されています。

- 運転席フロントエアバッグ（ステアリングホイール内）
- 助手席フロントエアバッグ（ダッシュボード上部内）
- サイドヘッドエアバッグ（ドア内）

 **警告:** エアバッグが正常に作動するのは、ステアリングホイール、助手席エアバッグカバー、ドアトリムが覆われていない場合のみです。

 **警告:** エアバッグは正しく着用したシートベルトの代用となるものではなく、シートベルトが提供する乗員保護の水準を高めるものです。

 **警告:** 万一の事故の際に怪我を負う危険性を低減するため、以下の事項を遵守してください。

- ドライバーの胸部からエアバッグカバーまで、少なくとも 25 cm (10 インチ) 以上の距離を確保してください。
- 車両が走行中はダッシュボード上にかがみ込まないでください。
- ダッシュボードに足を乗せないでください。

運転の前に 乗員の安全

- ステアリングホイールはリムの外側を握ってください。ステアリングホイールの内側を握っていると、エアバッグが展開したときに怪我を負うおそれがあります。
- 乗員、特にお子様は、車内からドアに寄りかからないでください。
- 乗員とエアバッグの展開空間の間に他の物体がないことを確認してください。
- エアバッグは高速で展開するため、エアバッグの膨張によって怪我を負う危険性があります。

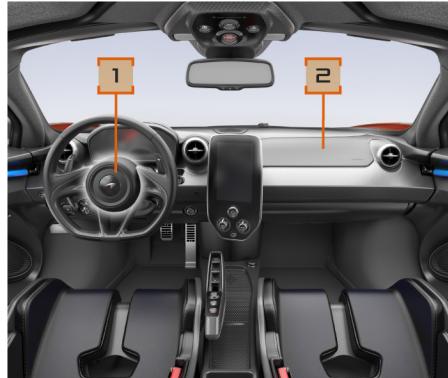
エアバッグの交換

警告: マクラーレンでは部品の動作寿命によってエアバッグが不作動となることがあります、15年ごとにエアバッグを交換することをお奨めしています。

エアバッグシステムの修正

障害のある方が車両を使用できるようにエアバッグシステムを修正する必要がある場合は、最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレン代理店に関する詳しい情報は、サービスおよび保証ガイドを参照してください。

フロントエアバッグ



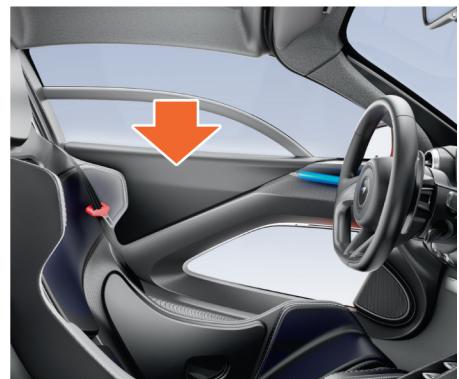
運転席フロントエアバッグ（1）はステアリングホイールの正面に展開し、助手席フロントエアバッグ（2）はダッシュボードの正面上方に展開します。

フロントエアバッグは、乗員が頭部および胸部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

i 注意: 助手席フロントエアバッグは、オーバーヘッドコンソールのPASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）警告灯が点灯していないときだけ展開します。乗員分類システム - 助手席、ページ 1.18を参照してください。

サイドヘッドエアバッグ

- ⚠ 警告:** サイドヘッドエアバッグの展開時に乗員が怪我を負う危険性を低減するためには、必ず次の事項をお守りください。
- 乗員とエアバッグの展開空間の間には物を置かない。
 - ドアにアクセサリー等を取り付けない。
 - 衣服のポケットに重い物や鋭い物体を入れておかない。
 - 乗員、特にお子様は、車内からドアに寄りかからないでください。



運転の前に 乗員の安全

サイドヘッドエアバッグは各ドアパネルの上部に組み込まれており、車両の衝撃が発生する側の乗員が頭部に怪我を負う危険性をより低減できるとシステムが判断したときに展開します。

i 注意: 助手席側ヘッドエアバッグは、助手席に乗員がいなければ展開しません。

乗員分類システム - 助手席

このシステムはシートベースに内蔵された容量性重量マットを使用し、同時に助手席シートベルトのシートベルトバックルが締まっているかを確認することで、助手席の乗員の有無を判定します。このシステムは、エアバッグが必ず大人用に展開するようにするために、助手席にチャイルドシートの幼児がいる場合や助手席に誰もいない場合は、助手席フロントエアバッグをオフにします。



エアバッグの状態はオーバーヘッドコンソールのPASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯により表示されます。

PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、5秒後に消灯します。

この警告灯は、助手席に乗員がいないときやチャイルドシートが装着されているときは継続点灯します。

i 注意: PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯は、助手席に大人の乗員がいない限り常時点灯します。

PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯が点灯しているときは、助手席フロントエアバッグは非アクティブになります。助手席側サイドヘッドエアバッグおよびベルトテンショナーは、PASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯が点灯していても常にアクティブです。

⚠ 警告: チャイルドシートを装着しているのにPASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグOFF）警告灯が点灯していない場合は、フロントエアバッグは作動します。助手席エアバッグが展開した場合、お子様が重大な怪我を負うおそれがあります。

⚠ 警告: 乗員分類システムが正しく機能するように、マクラーレンは座席の下に物を置かないことをお奨めしています。また、マクラーレンは毛布、クッション、あるいはシートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器などを追加装備しないことをお奨めしています。これらのアイテムは、乗員分類システムの性能に著しく影響します。マクラーレンは、シートカバー、ヒーター、マッサージ器などのアフターマーケット機器の取り付けはしないことを推奨しています。

⚠ 警告: 作動中の電子部品または12Vのアクセサリーソケットに接続されている電子部品は、絶対に助手席に置かないでください。乗員分類システムの動作に影響することがあります。

運転の前に 乗員の安全

- ⚠ 警告: 乗員分類システムに何らかの液体（雨水を含む）がかかる場合、性能に影響することがあります。シートに乗員がない場合でもPASSENGER AIR BAG OFF（助手席エアバッグ OFF）警告灯が点灯していないときは、チャイルドシートを装着したり乗員をシートに座らせたりしないでください。速やかに最寄りのマクラーレン代理店にご相談ください。**
- ⚠ 警告: 先の尖ったものを助手席に置かないでください。このようなものを置いたことによってシートクッションが破裂すると、乗員分類システムが損傷するおそれがあります。**
- ⚠ 警告: 乗員分類システムが正しく機能するように、チャイルドシートシステムの下には決して物（クッションなど）を置かないでください。チャイルドシートシステムのベース全体が常にシートに接していないかもしれません。チャイルドシートシステムを正しく装着していない場合、万一の事故の際に本来の保護水準を提供できず、怪我の原因になるおそれがあります。**

エアバッグの展開

衝突が発生すると、補助拘束装置がエアバッグを展開して乗員を保護します。このシステムは乗員に可能な限り最高の保護を提供するために、展開するエアバッグの数や、各エアバッグを衝突の激しさに応じてどの程度膨張させるかを制御します。

このシステムはセンサーを使用して、迅速に衝突の重大度と車両乗員数を評価します。これらすべての要素がわかると、システムは必要なエアバッグを展開し、インパクトゾーンの膨張圧を調整して乗員の安全を確保します。

事故後、エアバッグは膨張プロセスの後ほぼ即座に減圧を開始します。エアバッグを膨張させるために使われたガスはエアバッグの通気口から排出され、それによって乗員が衝撃によって重大な怪我を負う危険性を低減します。

エアバッグは乗員の動きを減速し、制限することによって、身体への負荷を低減します。ただし、エアバッグは正しく装着したシートベルトに取つて代わるものではありません。

⚠ 警告: エアバッグが展開するとパンという音がし、少量の微粒子が放出されることがあります。この騒音によってお客様の聴覚が害を受けることはありません。また、微粒子は健康上危険なものではなく、火災の発生を示すものではありません。この微粒子によって、喘息やその他の呼吸器系の問題がある方の場合、一時的に呼吸困難が引きおこる可能性があります。呼吸困難を防止するには速やかに車外に出るか、ウインドウを開けてください。

⚠ 警告: エアバッグの展開後は、エアバッグの部品が高温になっていますので触れないでください。エアバッグの交換は、マクラーレン代理店に依頼してください。

正規外着座（OOP）

お客様のマクラーレンのエアバッグシステムは、正規外着座（OOP）状態の小さいお子様に対し的確に動作することを試験で確認済みです。OOP状態は衝突によってエアバッグが展開した際に、小さいお子様がパッセンジャーシートの不適切な位置に座っていた場合に発生します。

補助拘束装置（SRS）警告灯

 補助拘束装置は、イグニッシュョンスイッチがオンでエンジンが動作中のとき、定期的にセルフテストを実行します。

折り畳み式ドライバーディスプレイのこの警告灯はイグニッシュョンスイッチをオンにすると点灯し、エンジンが始動してから5秒後に消灯します。

⚠ 警告: 以下のいずれかの事項が発生した場合は、直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

- イグニッシュョンスイッチをオンにしても警告灯が点灯しない
- エンジン始動後5秒が経過しても警告灯が消灯しない
- エンジン始動後に警告灯が再び点灯する

安全機能

万一事故に巻き込まれた場合、お客様や救急隊員を支援するために以下の事象が発生します。

運転の前に 乗員の安全

- ドアロックの解除
- ハザード警告灯の点灯
- 室内照明の点灯

場合により、燃料システムのスイッチがオフになります。

チャイルドパッセンジャー



警告: お子様をチャイルドシートで安全に固定している場合でも、お子様だけを車内に残さないでください。お子様が車両の一部で思わぬ怪我をしたり、ドアを開け、暑さや寒さに長時間さらされて重傷を負ったり、命にかかる傷害を受けるおそれがあります。

お子様がドアを開けた場合、それによって他人に怪我をさせたり、車両から抜け出しう思わぬ怪我をしたり、通過する車両によって怪我をするおそれがあります。チャイルドシートシステムを直射日光にさらしてはなりません。チャイルドシートシステムの金属部品でお子様が火傷をするおそれがあります。

重い物体や堅い物体をしっかりと固定せずに車内に置かないでください。

積荷を固定しなかったり、不適切な場所に置いたりすると、急ブレーキや急激な方向変更あるいは事故の際にお子様が怪我をする危険が増大します。

チャイルドシートシステム

マクラーレンは、この車両にチャイルドシートを装着することはお奨めしませんが、もし使用する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

身長が 1.5 m (4 フィート 11 インチ) 未満または 12 才未満のお子様を同乗させるときは、その体重に合った適切なチャイルドシートにしっかりと固定してください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

現行の国および地域の法規の特殊要件を参照してください。



警告: 助手席エアバッグが作動している場合は、チャイルドシートシステムを後ろ向きに固定しないでください。エアバッグが作動しているかどうかは PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF) 警告灯で確認できます。

運転の前に 乗員の安全



⚠ 警告: PASSENGER AIR BAG OFF (助手席エアバッグ OFF) 警告灯が点灯していない場合、助手席ではチャイルドシートシステムを後ろ向きに使用しないでください。助手席では、チャイルドシートシステムを前向きに使用してください。助手席側の警告ラベルで確認することができます。

⚠ 警告: 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合は、助手席を完全に後方に移動し、高さを最も低い位置にする必要があります。手動で調節する助手席は、高さ調整ができません。



警告: チャイルドシートシステムを正しく取り付けていない場合、事故や急ブレーキの際にお子様が固定されず、怪我をするおそれがあります。チャイルドシートシステムを取り付けるときは、チャイルドシートの正しい使用に関するメーカーの指示に従ってください。

KISI チャイルドシート機能

お客様のマクラーレンには、シートベルトを一時的にロックしてチャイルドシートを助手席にしっかりと固定するように設計された、助手席側のオートマチックロックシートベルト、KISI システムが装着されています。

1. 助手席側シートベルトを完全に引き出します。KISI システムは、シートベルトを完全に引き出さない限り作動しません。



注意: 車両を坂道に駐車させている場合、慣性ロックによりシートベルトが引き出せない場合があります。この状態が生じた場合は、シートベルトを少し緩めてから、慣性ロックにかかるないように慎重にシートベルトを引き出します。

2. チャイルドシートメーカーの説明に従ってシートベルトをチャイルドシートに渡して、ベルトラッチをバックルにかみ合わせます。

3. 下部セクションが固定装置にしっかりと締め付けされ、上部セクションが収縮できるようにベルトを調整します。ベルトが収縮し、KISI システムはカチッと音をたてて固定されます。
4. シートベルトを可能な限り収縮したら、上部セクションを引っ張ってシートベルトがロックされていることを確認します。



注意: シートベルトが完全に収縮すると KISI システムは解除され、通常のシートベルトとして装着できます。KISI システムは一度ロックを解除すると、次にチャイルドシートを使用するときにシートベルトを完全に引き出した状態からあらためて KISI システムを作動させる必要があります。

運転の前に ミラー

安全性

⚠ 警告: 運転の前に、道路や交通の状況を最もよく視認できるようにすべてのミラーを調整してください。

インテリアミラー



ミラー下部のスイッチ（2）を押して、インテリアミラーの自動調光機能を有効または無効にします。自動調光が有効な場合、インジケーター（1）が点灯します。

有効な場合、ライトセンサー（3）が明るい光を検出すると内部ミラーが自動的に暗くなります。

リバースギアが選択された場合または周囲の光レベルが高い場合、自動調光機能は無効になります。

外部ミラー

⚠ 警告: 一部の市場では、外部ミラーに凸面鏡を採用しています。こうしたミラーは視野が広くになりますが、鏡に映った像の大きさが小さくなります。これは、対象物が見かけよりも実際には近くにあることを意味します。

後続車までの距離を誤認し、事故の原因となることを防止するために、車線変更時は後続車までの実際の距離を確認してください。

ステアリングホイールとセンターコンソール間のダッシュボードに外部ミラーの調整つまみがあります。

運転の前に ミラー

ミラーの調整



1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. 左側ミラーを調整する場合は調整つまみを左 (1) に、右側ミラーを調整する場合は右 (2) に回します。
3. 調整つまみを上下左右に動かし、ミラーを好みの位置に調整します。

外部ミラーを折りたたむ

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. ミラーを折りたたむには、調整つまみを (3) の位置に回します。
3. ミラーを展開するには、調整つまみを (3) 以外の位置に回します。

i 注意: スイッチが (3) の位置にあるときは、スイッチを動かすまでミラーは折りたたまれています。

外部ミラーの自動折りたたみ

車両をロックしたときに、外部ミラーが自動的に折りたたまれるように設定することができます。ミラーは車両のロックを解除したときではなく、ドアを開けたときには展開されます。自動ミラー開閉、ページ 4.16 を参照してください。

リバース時のミラーディップ

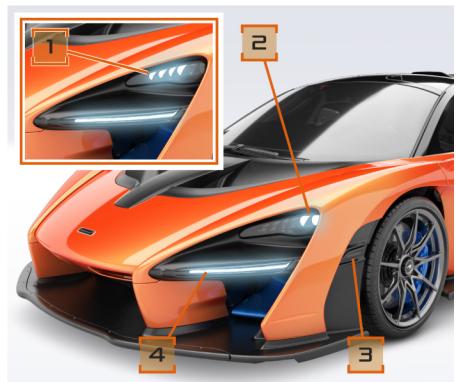
ギアをリバースにシフトしたときに、外部ミラーが下向きになるように設定することができます。これによって、車両後方の地面を確認できます。リバースミラーディップ、ページ 4.15 を参照してください。

熱線入りミラー

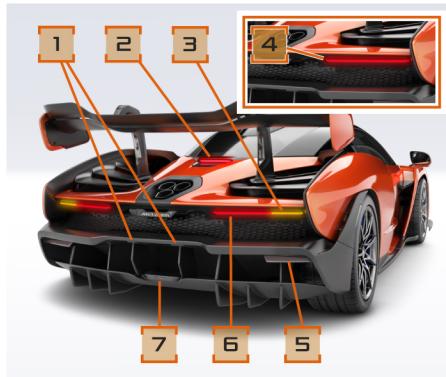
エンジン作動中に熱線入りミラーボタンを押すと、外部ミラーの熱線がオンになります。気温が 5°C (41°F) 以下になったときも、これらの熱線がオンになります。

運転の前に 照明

外部照明



1. ヘッドライトハイビーム
2. ヘッドライトロービーム
3. サイド方向指示器
4. 方向指示器/サイドランプ



1. ナンバープレートランプ
2. センターハイマウントストップランプ
3. 方向指示器
4. テールランプ
5. リフレクター
6. ストップランプ
7. リバースランプとリアフォグランプ

ランプスイッチ

警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはありません。
オートマチックランプコントロールはあくまで補助機能であり、車両のランプを点灯する責任は常にドライバーが負います。

ランプスイッチはステアリングホイールと運転席ドアの間にあり、以下のポジションがあります。



(0) の位置では、ランプはオフです。

つまみを (A) の位置に回すと、オートマチックランプコントロールがオンになります。

運転の前に 照明

つまみを（1）の位置に回すとサイドランプが、（2）の位置に回すとヘッドランプが点灯します。サイドランプ警告灯が折り畳み式ドライバーディスプレイに点灯します。

オートマチックランプコントロール

周辺光が所定のレベルより下がると、サイドランプとロービームヘッドランプが自動的に点灯します。

オートマチックランプコントロールをオンにするには、ランプスイッチを（A）の位置に回します。

i 注意: ランプスイッチが（A）位置に設定されているときに車両が雨を検知した場合、現在の外部ランプの照明レベルに関わらず、ロービームヘッドランプが自動的に点灯します。

i 注意: ランプスイッチが位置（A）のときにリヤフォグランプを点灯すると、周囲の光レベルに関わらず、ロービームヘッドランプも点灯します。リヤフォグランプを消灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロービームヘッドランプも消灯します。

サイドランプ

サイドランプは、ヘッドランプの下側に配された一連の発光ダイオードの組み合わせです。

サイドランプ、テールランプ、ナンバープレートランプは、ランプスイッチを（1）の位置に回すと点灯します。

 折り畳み式ドライバーディスプレイのサイドランプ通知灯が点灯します。

ロービームヘッドランプ

ヘッドランプをオンにするには、ランプスイッチを（2）の位置に回します。

 折り畳み式ドライバーディスプレイのロービーム通知灯が点灯します。

i 注意: お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドランプ設定が適用されます。

ハイビームヘッドランプ



ハイビームに切り替えるには、ハイビームレバーを奥に押します。

 ハイビームヘッドランプ通知灯が折り畳み式ドライバーディスプレイに点灯します。

ロービームに戻すには、ハイビームレバーを手前に引きます。

パッシングランプ

ハイビームレバーを手前いっぱいに引きます。

ハイビームレバーを引いている間だけハイビームヘッドランプが点灯します。

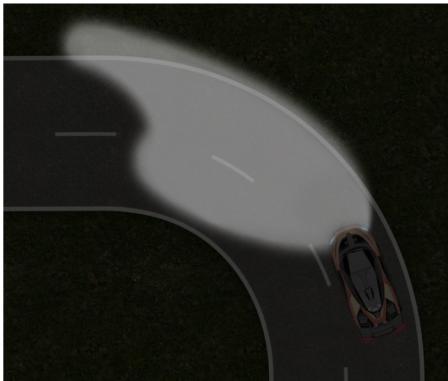
運転の前に 照明



ハイビームヘッドライト通知灯が折り畳み式ドライバーディスプレイに点灯します。

ヘッドライト

スタティックアダプティブヘッドライト



スタティックアダプティブヘッドライトは、ヘッドライトを点灯しながら旋回するとき、進行方向をより明るく照らします。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドライト照明を強くします。

リアフォグランプ

警告: ランプは霧が発生しても自動的に点灯することはありません。

注意: リアフォグランプが作動するのは、ランプスイッチが (A) または (2) の位置にある場合のみです。



ランプスイッチの中央にあるリアフォグランプボタンを押します。

折り畳み式ドライバーディスプレイにあるリアフォグランプ通知灯およびスイッチ内のランプが両方とも点灯します。

運転の前に 照明

i 注意: ランプスイッチが位置 (A) のとき
にリアフォグランプを点灯すると、周囲の
光レベルに関わらず、ロービームヘッドラ
ンプも点灯します。リアフォグランプを消
灯すると、周囲の光の条件に応じて、ロー
ビームヘッドランプも消灯します。

方向指示器



左方向指示器を作動させるには、方向指示器/ハイビームレバーを押し下げます。

右方向指示器を作動させるには、方向指示器/ハイビームレバーを押し上げます。

➡ 折り畳み式ドライバーディスプレイにあ
る対応する通知灯が点滅します。

レバーはステアリングホイールを直進位置に戻
すと、元の位置に戻ります。

方向指示器 - 車線変更

高速道路で車線変更する際には方向指示器/ハイビームレバーを抵抗が感じられる位置まで動かします。該当する方向指示器が3回点滅します。

照明に関する詳細についてはランプスイッチ、
ページ 1.24を参照してください。

運転の前に 照明

ハザード警告灯

ハザード警告灯はイグニッションスイッチがオフの場合も作動します。ハザード警告灯はエアバッグが展開したときには安全機能として自動的に点灯します。

ハザード警告灯の操作



1. ハザード警告灯ボタンを押します。
2. すべての方向指示器ランプと折り畳み式ドライバーディスプレイの両方の方向指示器警告灯が点滅します。
3. ハザード警告灯をオフにするには、再度ハザード警告灯ボタンを押します。

i 注意: ハザード警告灯が自動的にオンになった場合は、ハザード警告灯ボタンを1回押してハザード警告灯をオフにしてください。

パニックアラーム

パニックアラーム機能は、ホーンの鳴動と方向指示器ランプの点滅を繰り返すことによって注意を引くように設計されています。

パニックアラームはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって作動させることができます。

ホーンはパニックアラームが60秒間作動し続けると停止しますが、方向指示器ランプは点滅を続けます。ホーンはハザード警告灯ボタンを3秒以上押し続けることによって再び作動させることができます。

パニックアラームをオフにするには、ハザード警告灯ボタンを短く押します。

パーキングランプ



i 注意: パーキングランプはイグニッションスイッチがオフのときにのみ作動します。

1. パーキングランプをオンにするには、左側の場合は方向指示器/ハイビームレバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。車両にロックがかかると、選択したパーキングランプが点灯します。
2. パーキングランプをオフにするには、左側の場合は方向指示器/ハイビームレバーを下に、右側の場合は上に、抵抗が感じられる位置まで押します。すると、選択したパーキングランプがオフになります。

運転の前に 照明

- i** 注意: 両側のパーキングランプを作動させるには、方向指示器/ハイビームレバーを押し下げるから押し上げます。無効にするには、方向指示器/ハイビームレバーを再び押し下げるから押し上げます。

運転の前に ウォッシャーとワイパー

フロントウィンドウワイパー



1. フロントウィンドウワイパーオフ
2. 自動ワイパー
3. 低速ワイパー
4. 高速ワイパー

i 注意: 雨天時以外はフロントウィンドウワイパーを作動させないでください。ワイパーを作動させると、ほこりなどによりワイパークリーナーが故障するおそれがあります。

フロントウィンドウワイパーの操作

1. イグニッションスイッチがオンになっていることを確認してください。
2. ワイパーレバーを必要な位置に移動します。

i 注意: フロントウィンドウワイパーのスイッチがオンのときに車両が停止すると、フロントウィンドウワイパーは車両が動き出すまで自動的に間欠ワイパーに切り替わります。

自動ワイパー

インテリアミラーの裏側のフロントウィンドウに設置されているレインセンサーがウィンドウの水滴量を計測し、最適な速度でワイパーを作動させます。

自動ワイパーを選択するには、フロントウィンドウワイパーレバーを自動ワイパーコード(2)に設定します。

ワイパーが拭き取り動作を1回行います。それ以降の拭き取り頻度は、フロントウィンドウの濡れ具合によって変わります。

自動ワイパーコードは、雨模様もしくは降雨時以外は選択しないでください。

レインセンサーの感度の調整方法についてはワイパー感度、ページ4.18を参照してください。

低速ワイパー

ワイパーを低速で動作させるには、ワイパーレバーを(3)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

高速ワイパー

ワイパーを高速で動作させるには、ワイパーレバーを(4)の位置に設定します。

スイッチを切るには、レバーを(1)の位置に設定します。

一回拭き取り



運転の前に ウォッシャーとワイパー

1. 低速で1回のみの拭き取りを行うには、ワイパーレバーを短く押し下げて離します。ワイパーが1回低速動作します。ウォッシャーは作動しません。
2. 高速で1回のみの拭き取りを行うには、ワイパーレバーを下に押し続けます。レバーを離すまで、フロントウィンドウワイパーが連続高速拭き取りを実行します。

フロントウィンドウウォッシャー/ワイパー



ワイパーレバーを手前に引きます。

フロントウィンドウウォッシャー/ワイパーは、レバーを引いている間動作します。レバーを2秒以上引くと、ワイパーは高速で動作します。

レバーを離すと、ワイパーはその時点の動作サイクルを完了して収納位置に戻ります。一定時間後に、ワイパーはもう1回動作してフロントウィンドウに残ったウォッシャー液を拭き取ります。

i 注意: ウォッシャージェットの位置は車両製造時に設定されており、調整の必要はありません。不具合が発生した場合は、マクラン代理店にご相談ください。

ワイパー停止位置:

通常の停止位置に加えて、別の位置が2つあります。

車両をアウェイクモードにします。

ワイパーコントロールレバーを手前に引くと、ワイパーはレバーを引くたびに次の停止位置に移動します。

冬季用停止

ワイパーを垂直に停止させて、豪雪時期のワイパーワーム損傷のリスクを減らし、積もった雪を簡単に取り除けるようにします。

サービス停止

ワイパーを斜めに停止させて、ワイパープレードを交換しやすくなります。ワイパープレードの交換、ページ6.25を参照してください。

通常停止

ワイパーをフロントウィンドウの下端に沿って水平に停止させます。

運転の前に

車両リフト

車両リフト

i 注意: 折り畳み式ドライバーディスプレイの車両リフトアイコンがアンバー色になっている場合、または車両リフト障害メッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示された場合、システムは使用できません。その場合は車両を高速で運転せず、速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。

車両リフトメニューには、次のオプションがあります。

- 車両リフト - 上昇, ページ 1.33
- 車両リフト - 下降, ページ 1.34

車両リフトを使用すると、現在の車高に応じて車両を上昇/下降させることができます。

車高を上昇させることができるのは、走行速度が 50 km/h (31 mph) 以下のときだけです。60 km/h (37 mph) を超えると、車高は自動的に下降します。

i 注意: サスペンションは長時間上げた状態を保つことができますが、時間が経つと緩んで下がる可能性があります。

車両を長時間上昇したままの位置にしておくと、次にエンジンを始動したときにシステムがリセットされ、車両が通常の車高に戻る場合があります。

走行中に車両リフトを使用した場合、ステアリングの感覚がわずかに変化する場合があります。これは異常ではなく、車両の動作に影響を与えるものではありません。

i 注意: 車両リフトの昇降中は、車両のハンドリングモードは使用できません。

i 注意: 発進モードがアクティブの場合、車両リフトは使用できません。

i 注意: レースモードがアクティブの場合、車両リフトは使用できません。

i 注意: 車両リフトは、エンジンが作動している場合にのみ使用可能です。

i 注意: エンジンがエコスタート-ストップシステムによって停止されている間に車両リフトが要求された場合、エンジンは自動的に再始動します。

車両リフトの操作



車両リフトを使用するには、エンジンが作動しドアが閉じられている状態で、ステアリングコラムの右側にあるコントロールレバーのボタンを押します。

車両リフトが作動すると、確認音が鳴ります。

i 注意: 車両リフトは、エンジンが作動している場合にのみ使用可能です。

i 注意: エンジンがエコスタート-ストップシステムによって停止されている間に車両リフトが要求された場合、エンジンは自動的に再始動します。

i 注意: 車両リフトの昇降中は、車両のハンドリングモードは使用できません。

運転の前に 車両リフト

i 注意: 発進モードがアクティブの場合、車両リフトは使用できません。

メニュー上で何も操作を行わない場合は、タイムアウト時間が過すると車両リフトメニューが終了します。

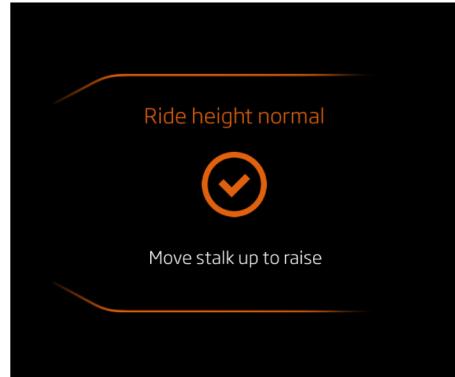
車両リフト - 上昇

! 警告: 車両リフトをジャッキシステムとして使用しないでください。車両リフトを使用して車両の底部に入ると、重傷を負う可能性があります。

i 注意: 車両が通常の車高の場合、車両前部の上昇オプションのみ使用できます。

i 注意: ステアリングホイールを過度に回すと、車両リフトの開始が遅れます。

i 注意: 車両を運転する前には、必ずディスプレイの車両リフトアイコンを確認してください。



エンジンが作動していないと、車両リフトは作動しません。車両を上昇させるには、車両リフトメニュー（車両リフトの操作、ページ 1.32 を参照）を作動させて、コントロールレバーを上方に動かします。

 上昇する音が鳴り、車高の変化を確認することができます。車両上昇中というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示され、車両リフトアイコンが点滅します。

車両の上昇中にエンジンを停止するとシステムは停止し、エンジンが再始動したときにのみ上昇を継続します。

上昇から下降へ変更するには、コントロールレバーを下方に動かします。車両は下降を始め、折り畳み式ドライバーディスプレイに変更を確認する情報が表示されます。

運転の前に 車両リフト

車両が完全に上昇すると、確認音が鳴ります。車高上昇というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示され、車両が上昇状態にある間、車両リフトアイコンが点滅します。

その後操作を行わないと、タイムアウト期間経過後に、車両リフトメニューが終了します。

車両リフト - 下降

i 注意: 停止している間に車両を下げるには、エンジンが作動し、運転席のドアが完全に閉じていなければなりません。

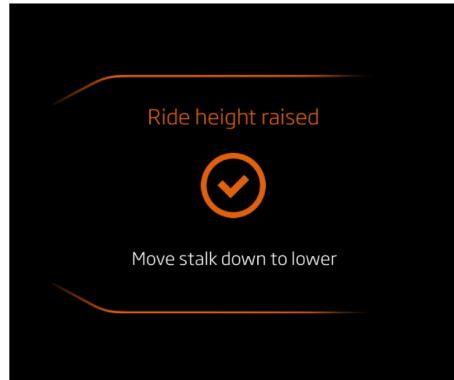
i 注意: 車両が上昇状態のときは、車両を下降させるオプションのみ使用できます。

i 注意: 車両の下降中は、車両を高速で運転しないでください。車両の下降が始まると、下降の音が鳴って車両リフトメニューが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示され、システムのコントロールが可能になります。

i 注意: 車両を運転する前には、必ず折り畳み式ドライバーディスプレイの車両リフトアイコンを確認してください。



車両を下降させるには、車両リフトメニュー（車両リフトの操作、ページ 1.32 を参照）を作動させて、メニュー・コントロール・レバーを下方に動かします。



 下降する音が鳴り、車高の変化を確認することができます。車両下降中というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示され、画面の車両リフトアイコンが点滅します。

下降から上昇へ変更するには、コントロール・レバーを上方に動かします。車両は上昇を始め、折り畳み式ドライバーディスプレイに変更を確認する情報が表示されます。

車両が下降すると、確認音が鳴ります。車高標準というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示され、車両リフトアイコンが点滅します。

その後操作を行わないと、タイムアウト期間経過後に、車両リフトメニューが終了します。



運転操作装置

始動および走行	2.02
車両の電気的状態.....	2.02
イグニッションのスイッチをオンにする.....	2.03
インストルメントと警告灯.....	2.03
デュアルクラッチギアボックスのギア位置.....	2.06
パーキングブレーキ.....	2.06
ブレーキペダル.....	2.07
エンジンの始動/停止.....	2.08
走行.....	2.10
排気ガス温度監視.....	2.11
パーキングセンサー.....	2.12
リアビューカメラ (RVC)	2.13
パーキングアシスト.....	2.14
ラウドスタート.....	2.15
デュアルクラッチギアボックス	2.17
概要.....	2.17
ギア位置.....	2.17
アクセルペダル位置.....	2.18
マニュアル/オートマチックモード.....	2.18
ハンドリングとパワートレインコントロール	2.21
アクティブダイナミクスコントロール.....	2.21
ACTIVE (アクティブ) ボタン.....	2.21
ハンドリングコントロール.....	2.22
パワートレインコントロール.....	2.23
発進コントロール.....	2.26
ホイールスピン発進.....	2.28
ピットトレーン発進.....	2.29
レースモード	2.30
レースモードの概要.....	2.30
レースモードをアクティブにする.....	2.30
レースモードを非アクティブにする.....	2.31
インストルメント.....	2.32
車両設定.....	2.32
走行安全システム	2.33
一般.....	2.33
アンチロックブレーキシステム (ABS)	2.33
ブレーキアシストシステム.....	2.34
ブレーキディスクワイピング.....	2.34
ヒルホールドコントロール.....	2.34
ブレーキステア.....	2.35
エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)	2.35
アクティブエアロ.....	2.37
タイヤ空気圧監視システム (TPMS)	2.40
クルーズコントロール	2.42
概要.....	2.42
クルーズコントロールの使用.....	2.42
クルーズコントロールの取り消し.....	2.43
クルーズコントロールの速度を上げる.....	2.44
クルーズコントロールの速度を下げる.....	2.44
保存した速度の呼び出し.....	2.45
アクティブスピードリミッター (ASL)	2.46
速度上限の設定.....	2.46
アクティブスピードリミッター (ASL) のキャンセル.....	2.47
慣らし運転	2.48
慣らし運転.....	2.48
標準/道路での使用.....	2.48
サーキットでの使用.....	2.49
給油	2.50
燃料の給油.....	2.50

運転操作装置

推進燃料.....	2.51
冬季の走行.....	2.53
冬季の走行.....	2.53

運転操作装置 始動および走行

車両の電気的状態

この車は以下に説明する基準に応じて、次の状態のうちひとつを発動します。

- i 注意:** ロック状態を除き、以下のどの状態からでもエンジンを始動することができます。車両がスリープモードにあるときは、START/STOP（始動/停止）ボタンを2秒以上押す必要があります。
- i 注意:** 車両はバッテリーの残量が少なくなっていることを検知すると、エネルギーを節約するためにアウェイクモードになります。イグニッションの使用は停止されますが、クランкиングは行うことができます。これは、エンジンを始動してバッテリーの充電を開始できるようにするためです。

ロック

ローパワーモードにロックされます。

スリープ

ローパワーモードになりますが、ロックはされません。

アウェイク

車両がスリープモードの状態またはエンジンのスイッチがオフの状態でドアを開けるかSTART/STOP（始動/停止）ボタンを押すと、この状態になります。

時刻、オドメーター、バッテリーの状態とフューエルゲージは折り畳み式ドライバーディスプレイで確認できます。

60秒間操作を行わないとスリープモードに戻ります。

イグニッション

アウェイクモードのときにSTART/STOP（始動/停止）ボタンを押すとこの状態になります。

ウィンドウとヒーター/エアコン調節ダイヤルが操作できるようになります。折り畳み式ドライバーディスプレイのメニューとマクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）が使用可能です。

- i 注意:** イグニッションオンの状態にはタイムアウトはありません。バッテリーが放電する可能性があるので注意してください。

クランкиング

エンジンの始動/停止、ページ 2.08 を参照してください。

パワーセービングモード

非常にまれな状況下で、車両が十分な電圧を供給することができない場合、パワーセービングモードが有効になります。

- ⚠️ 警告:** パワーセービングモードが有効な場合、クライメートコントロールおよびステアリングは低減効果で動作します。

i 注意: パワーセービングモードが有効な場合、バッテリー管理有効 - オーナーズマニュアル参照というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

駐車日数



車両がアウェイクモードのときは、駐車日数の残りが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。これはエンジンを始動したり、バッテリーチャージャーに接続せずにバッテリーが放電するまで車両を駐車できる日数を示します。

運転操作装置 始動および走行

イグニッションのスイッチをオンにする



1. リモコンキーが車内にあることを確認してください。
2. エンジンを始動せずにイグニッションスイッチをオンにするには、ブレーキペダルを踏まずにSTART/STOP（始動/停止）ボタンを押します。

i 注意: 車両がアウェイクモードのときは、ブレーキペダルを放してSTART/STOP（始動/停止）ボタンを2回押します。

3. イグニッションスイッチがオンになり、油温計、水温計、燃料計が作動し、セルフテストのためにいくつかの警告灯が点灯します。折り畳み式ドライバーディスプレイが完全に点灯します。

インストルメントと警告灯

警告灯は点灯時の色によって分類されます。

- 赤またはアンバー色の警告灯-故障が検知されたことを示します。赤ランプによって表示された故障は、アンバー色による表示よりも重要度の高い故障です。
- 青または緑色の通知灯-システムや機能の電源がオンになり動作中であることを示します。

警告灯

	タイヤ空気圧監視システム (TPMS) , ページ 2.40
	シートベルト警告灯, ページ 1.16
	リアフォグランプ, ページ 1.26
	補助拘束装置 (SRS) 警告灯, ページ 1.19
	エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) , ページ 2.35
	エンジン警告灯, ページ 2.10

運転操作装置

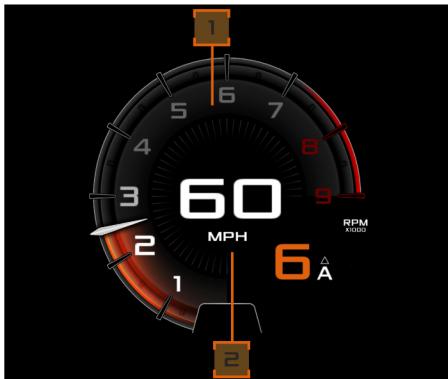
始動および走行

	アンチロックブレーキシステム (ABS) 状態表示灯, ページ 2.33
	ブレーキ警告灯, ページ 2.08 パーキングブレーキの状態, ページ 2.06
	オイル圧低下警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	エンジンクーラント過熱警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	バッテリー充電切れ警告灯。点灯した場合は、安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	エレクトロニックスタビリティコントロールシステム故障警告灯。点灯した場合は、故障の状態に合わせた運転を行ってください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
	燃料残量低下警告灯。点灯した場合は、できるだけ早く給油してください。燃料の給油, ページ 2.50を参照してください。

	一般障害警告灯。点灯した場合は、折り畳み式ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。
	一般障害注意灯。点灯した場合は、折り畳み式ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

	方向指示器, ページ 1.27
--	-----------------

折り畳み式ドライバーディスプレイの概要



通知灯

	方向指示器, ページ 1.27
	ハイビームヘッドライト, ページ 1.25
	ロービームヘッドライト, ページ 1.25
	サイドランプ, ページ 1.25

- タコメーター, ページ 3.02
- スピードメーター, ページ 3.03

運転操作装置 始動および走行

折り畳み式ドライバーディスプレイ - 左側

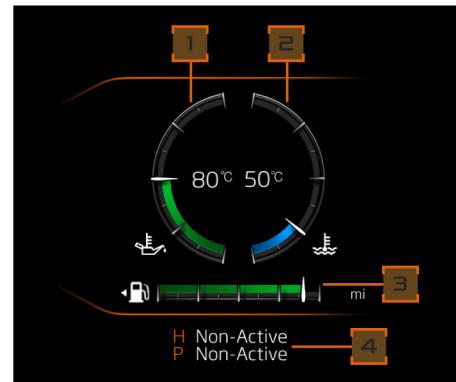


折り畳み式ドライバーディスプレイには、ドライバーに対する重要な情報が表示されます。これは選択したモードと車両の設定によって異なります。



メニューはコントロールレバーを使って操作します。

折り畳み式ドライバーディスプレイ - 右側



1. オイル温度, ページ 3.16
2. クーラント温度, ページ 3.17
3. 燃料残量および範囲, ページ 3.18
4. ハンドリングコントロール, ページ 2.22
パワートレインコントロール, ページ 2.23

運転操作装置 始動および走行

デュアルクラッチギアボックスのギア位置

ギアボックスはフルオートマチックまたはマニュアルモードで動作します。ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。ギア位置, ページ 2.17 およびマニュアル/オートマチックモード, ページ 2.18 を参照してください。マニュアルモードがアクティブのときは、ギアチェンジはギアシフトパドルを用いて行います。ギアシフトパドル, ページ 2.20 を参照してください。

パーキングブレーキ

i 注意: 急な下り坂の斜面に駐車する場合は、フロントホイールを縁石の方向に向けます。急な上り坂の斜面に駐車する場合は、フロントホイールを縁石の反対方向に向けます。

パーキングブレーキの状態

! パーキングブレーキ作動表示灯が点滅しているときは、パーキングブレーキの作動/解除がされなかったことを意味します。この問題を解決するには、再度パーキングブレーキの作動 / 解除操作を行ってください。パーキングブレーキの操作, ページ 2.06 を参照してください。

パーキングブレーキの操作



パーキングブレーキを作動させるには、スイッチを外側に引きます。これで、折り畳み式ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが点灯します。

i 注意: 車両のパーキングブレーキは電子式であり、パーキングブレーキをかけたり外したりするときはスイッチを軽い力で切り替えるだけです。

運転操作装置 始動および走行



パーキングブレーキを解除するには、ブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキスイッチを内側に押し込みます。これで、折り畳み式ドライバーディスプレイの赤色パーキングブレーキ作動ステータスランプが消灯します。

⚠ 警告: パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。

- i 注意:** パーキングブレーキが手動で解除できない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行させると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。
- 運転席ドアが閉じられている
 - 運転席シートベルトが締結されている

i 注意: パーキングブレーキを手動でかけなかった場合、エンジンを切れば自動的に作動します。

i 注意: パーキングブレーキはイグニッションがオンになっていないと解除できません。パーキングブレーキは、車両がスリープモードのときを含め、イグニッションの状態にかかわらず作動させることができます。

i 注意: 車両走行中にフットブレーキが完全に故障した場合でも、パーキングブレーキをかけることにより減速することができます。

ブレーキペダル

⚠ 警告: 運転席のフットウェルには物を置かないでください。フロアマットやカーペットが適切に固定されており、ペダル操作の妨げにならないことを確認してください。ペダルの間に物が挟まった場合、ブレーキやアクセルの操作ができず事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告: エンジンが作動している間、ブレーキシステムのサーボアシストが働いています。ブレーキはエンジンを停止しても機能しますが、強い力でペダルを踏まないとブレーキが利きません。

⚠ 警告: ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。足を乗せているとブレーキがオーバーヒートして制動力が低下し、過度の摩耗を引き起こします。

⚠ 警告: 走行中にブレーキ警告灯が点灯した場合は、安全に速やかに停車し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

ブレーキディスクおよびパッド

⚠ 警告: ブレーキパッドを新品に交換した場合は、はじむまで一定の時間がかかります。交換後 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキが必要になるような走行は避けてください。

ブレーキディスクおよびパッドの摩耗は、運転スタイルや走行条件によって変わります。

運転操作装置 始動および走行

ブレーキ警告灯

 ブレーキ警告灯はイグニッションスイッチをオンにするシステムテストとして点灯します。それ以外のときにブレーキ警告灯が点灯した場合は故障を示します。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

エンジンの始動/停止



警告: 閉ざされた空間に車両があるときは、決してエンジンをかけないでください。排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと意識を失い死に至るおそれがあります。



注意: エンジンの始動時にアクセルペダルを踏み込まないでください。

エンジンの始動

- リモコンキーが車内にあることを確認します。



- ブレーキペダルを踏み、START/STOP（始動/停止）ボタンを押して放すとエンジンが始動します。

- エンジンがクランキング中に再度START/STOP（始動/停止）ボタンを押すとクランキングが停止します。

エンジンの停止

- ニュートラルを選択します。



- START/STOP（始動/停止）ボタンを押します。エンジンが停止し、車両はアウェイクモードになります。車両の電気的状態、ページ 2.02を参照してください。イモビライザーがアクティブになります。

運転操作装置

始動および走行

i 注意: エンジンが停止すると、パーキングブレーキは自動的にかかります。自動パーキングブレーキは、運転席ドアを開けたままパーキングブレーキスイッチをオフの位置で押し続けると無効にすることができます。

エコスタート-ストップシステム

このシステムは燃料消費と排気ガス排出量の削減が可能になる条件の場合、自動的にエンジンを停止し、必要に応じて再び始動させます。

自動的にエンジンを停止させるには、システムが次の条件を満たしている必要があります:

- ドライバーの存在を検出していること
- 走行速度が前回の停止から 10 km/h (6 mph) を超えていること
- エンジンが標準動作温度であること
- 車両バッテリーがフル充電されていること
- エアコンの要求が高すぎないこと
- ノンアクティブまたはコンフォートパワートレインモードが有効であること

システムの操作



極低速では、ステータスアイコンが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

条件を満たしていない場合、アイコンはオレンジ色に点灯し、システムは使用できません。

すべての条件が満たされ、システムが使用可能な場合、アイコンは緑色に点灯します。

ブレーキペダルが踏み込まれた場合、システムは自動的にエンジンを停止し、車両は減速して完全に停止します。

ENGINE STOPPED (エンジン停止) というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

ブレーキペダルが解放される、またはエンジンの再始動が必要な状態が検出されると、エンジンは自動的に再始動します。

i 注意: エンジン停止中にパーキングブレーキがかかっている場合、ブレーキペダルを解放しても、エンジンは再始動しません。ブレーキペダルを踏み込み、パーキングブレーキの解除後、ブレーキペダルを解放してオートマチックリストアを実行します。

i 注意: 電気、エアコンまたはその他の車両需要を維持するために、ブレーキペダルが解放される前にエンジンが自動的に再始動することがあります。

停止



運転操作装置

始動および走行

エコスタート-ストップオフボタンを押して、システムを停止させます。ボタンのランプが点灯し、折り畳み式ドライバーディスプレイのステータスランプが消灯します。

システムを起動するには、もう一度ボタンを押します。

i 注意: エンジンが自動的に停止しているときにエコスタート-ストップオフボタンが押された場合、エンジンは再始動します。

i 注意: システムが停止していてもイグニッションをオンにすると、デフォルトで起動します。

走行

発進

⚠️ 警告: 走行中は決してエンジンを停止しないでください。ステアリングやフットブレーキのアシスト機能が働かなくなります。ステアリングやブレーキの操作に大きな力が必要になるため、車両がコントロール不能になり事故につながるおそれがあります。

i 注意: エンジンが標準運転温度になるまではエンジン回転数をあまり上げないように走行してください。

i 注意: 車速が約 15 km/h (9 mph) に達するとドアがロックされます。オートロックはセンターディスプレイで設定できます。自動ドアロック、ページ 4.16 を参照してください。

i 注意: 駐車の際に切り返し操作が多い場合、ステアリングアシストは少し硬めに感じるかもしれません。これは正常であって、オーバーヒートからステアリングシステムを保護するためです。

i 注意: r 冷機状態から始動した場合、エンジンアイドリングの回転数が上昇し、ギアチェンジが行われる回転数が暖機時よりも高くなる可能性があります。触媒コンバーターが短時間で作動温度に達し、エンジン排出ガスを低減します。

1. エンジンが動作中にブレーキペダルを踏み続けます。

2. ドライブギアまたはリバースギアを選択するか、ギアシフトパドルを用いてシフトアップを行います。詳しい説明はギアシフトパドル、ページ 2.20 およびギア位置、ページ 2.17 を参照してください。

3. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチを解除します。折り畳み式ドライバーディスプレイの赤色ステータスランプが消灯します。

⚠️ 警告: パーキングブレーキを手動で解除した場合、車両が動き出すことがあります。

i 注意: パーキングブレーキが手動で解除できない場合、前進および後退ギアを入れて車両を走行せると、以下の条件が満たされた場合に限り、自動的に解除されます。

- すべてのドアを閉めている
- 運転席シートベルトが締結されている

4. アクセルペダルを慎重に踏み込みます。

エンジン警告灯



エンジン警告灯はイグニッションスイッチをオンにすると点灯し、故障がなければエンジンを始動するとすぐに消灯します。

運転操作装置 始動および走行

走行中にこの警告灯が点灯した場合はエンジンマネージメントの故障が検出され、エンジン性能が低下している可能性があります。安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

フェイルセーフモード

車両またはシステム性能を制限しないと車両にそれ以上の損傷が生じる可能性のある不具合を車両システムが検知すると、フェイルセーフモードが自動的に作動します。このモードで運転する場合は注意が必要です。直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

経済走行

燃費を改善するには、以下のことに気をつけてください。

- 停止した状態から走行を開始するときはゆっくりと、滑らかに加速してください。
- マニュアルモードではできる限り早めにシフトアップし、エンジンが高回転になるのを避けてください。



シフトアップで最大限の省燃費性能を維持できるときは、ギアシフトインジケーター (GSI) が点灯します。

i 注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラーレン代理店にご相談ください。

- エンジンに高い負荷をかけたり極端に高回転にするのを避けてください。
- 不要時はエアコンのスイッチを切ってください。
- 渋滞しやすい場所の走行は避けてください。
- 全体的な道路や交通状況に合った運転スタイルを身につけてください。アクセルやブレーキをゆっくりと、滑らかに操作できるように時間に余裕を持たせてください。

排気ガス温度監視

車両は常時、排気ガス温度を監視し、触媒コンバーターに過熱により生じる損傷が起こらないようにしています。

過剰な排気ガス温度が検出されると、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告が表示されます。

このメッセージを確認したら、直ちに車両の速度を落してください。高いエンジン回転数と高いエンジン負荷（フルスロットル）を伴う車両操作を中断し、排気ガスの温度が下がるのを待ってください。このメッセージは温度が下がるまで点灯を続けます。

排気ガス温度が過剰なレベルのまま下がらないと、別の警告が表示され、フェイルセーフモードが起動します。車両を再度始動するまで、エンジン性能が制限されます。

i 注意: 触媒コンバーターの過熱警告は、通常の走行中に表示されることはほとんどなく、極端な運転条件の結果起こります。高い排気ガス温度は例えば、長時間のサーキット走行、長時間高回転を維持し続けること、スロットル操作を急激に何度も変化させることなどによって引き起こされることがあります。

i 注意: 高い排気ガス温度は触媒コンバーターに損傷を引き起こす可能性があるので、慎重な運転を行うことで避けなければなりません。

運転操作装置 始動および走行

警告が引き続き表示される場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

パーキングセンサー



パーキングセンサーは、低速での運転操作時に障害物があるとドライバーに警告します。このシステムは、フロントバンパー内の2個の超音波センサー、リアバンパー内の4個の超音波センサーおよび2個の音響器で構成されています。各音響器はピッチが異なり、障害物が車両のフロント側にあるのかリア側にあるのかを判別できます。

エンジン作動中にドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオンになります。リアパーキングセンサーは、リバースギアを選択すると自動的に作動します。パーキングセンサーボタンの周囲のランプがアンバー色で点灯する場合、パーキングセンサーが作動していることを示します。

フロントパーキングセンサーは、車両のギアがニュートラルに入っており、システムを手動でオンにした場合に、有効にできます。

フロントバンパーのセンサーの検知範囲は、約1m(3フィート)です。リアバンパーの中央のセンサーの検知範囲は、約1.5m(5フィート)です。

検知範囲内に障害物があると、断続的なトーンが鳴ります。車両が障害物に近づくと、トーンの周期が短くなります。センサーから障害物までの距離が約60cm(2フィート)以下になると、トーンが連続音になります。

警告: パーキングセンサーは、子供や動物などの動く物は至近距離まで近づかないと検知することができません。常に警戒を怠らず、必ずミラーを使用し、振り向いて後方を確認しながら操作を行ってください。

i 注意: パーキングセンサーはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。パーキングセンサーは細い柱や、縁石などの地表近くの小さな障害物など、一部の障害物は検知できません。

運転操作装置 始動および走行

リアパーキングセンサーはリバースギア以外にシフトすると自動的にスイッチがオフになります。車速が26 km/h (16 mph) を超えてドライブが選択されている場合、フロントパーキングセンサーは自動的にオフになります。ボタンの中央を押して、パーキングセンサーを手動で起動している場合、車速が20 km/h (12 mph) に減速されると、フロントパーキングセンサーが再び起動されます。

i 注意: 車速が26 km/h (16 mph) を超えると、パーキングセンサーは手動で作動できなくなります。

パーキングセンサーは、ボタンの中央を押し続けることにより手動でオフにできます。パーキングセンサーの近接ビューをセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示しないようには、ドライブまたはニュートラルの状態のときにボタンの中央を押します。リバースギアが選択されている場合、パーキングセンサーを手動でオフにすることはできません。手動でオフにすると、ボタンの周りのライトが消灯します。

システムを手動でオフにしても、リバースギアを選択するとフロントとリアのセンサーがオンになり、もう一度ドライブまたはニュートラルを選択するまで解除されません。

故障が検知されると、システムが無効になり、折り畳み式ドライバーディスプレイにメッセージが表示され、パーキングセンサーボタンのランプが点滅します。センサーに泥や氷、雪などが付着している場合は取り除いてください。問題が解決しない場合はマクラーレン代理店にご連絡ください。

リアビューカメラ (RVC)



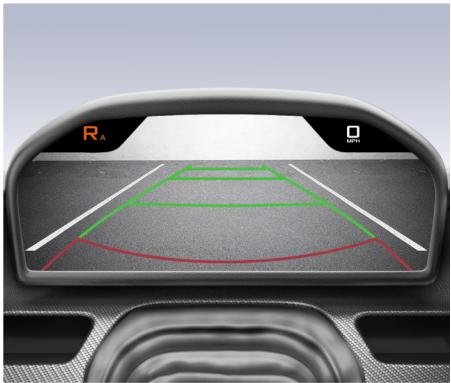
リアビューカメラ (RVC) は、リアバンパーの中央に取り付けられています。機能をアクティブにすると、ライブビデオ画像が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: ビデオ画像がぼやけたり不鮮明な場合は、水で湿らせた柔らかい布でレンズを慎重に清掃してください。

i 注意: 折り畳み式ドライバーディスプレイがスリムディスプレイモードのときは、RVC はセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

i 注意: スリムディスプレイモードは、RVC がアクティブな場合は使用できません。

運転操作装置 始動および走行



ライブビデオ画像には、色付きのグリッドが表示されます。このグリッドは車両後部と障害物の距離を測るためのガイドとして使用できます。

赤色のボックスは、それぞれ車両後部を起点として車両の全幅から 25 cm (10 インチ) 広い範囲を示し、車両後方に向かって延びています。

赤色のボックスは、車両後部から 40 cm (1 フィート 6 インチ) の範囲を示します。

緑色のボックスは、車両後部から 2 m (6 フィート 7 インチ) の範囲を示し、1 m (3 フィート 4 インチ) の位置にも線が表示されます。



注意: リアビューカメラはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。リアビューカメラは、周辺光や気象条件によっては一部の障害物を表示しない場合があります。

RVC は、リバースギアを選択すると自動的にアクティブになります、前進ギアを選択してから 10 秒後に自動的にオフになります。また、前進速度が 10 km/h (6 mph) を超えると直ちにオフになります。

RVC は、センターインフォテイメントタッチスクリーンのホーム画面からリアビューカメラを選択することで、手動でアクティブにできます。



RVC を手動でアクティブにし、センターインフォテイメントタッチスクリーンに表示した場合は、ホームボタンを押すことでオフにできます。

パーキングアシスト



パーキングアシストは、車両のリアビューおよびサイドビューのライブビデオをセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示します。

パーキングアシストは、リバースギアを選択すると作動します。パーキングセンサー ボタンの周囲のランプがアンバー色で点灯する場合、パーキングアシストとパーキングセンサーが作動していることを示します。

運転操作装置

始動および走行

パーキングアシストのビジュアルディスプレイは、パーキングセンサー ボタンを短く押すことでオンとオフを手動で切り替えることができます。ボタンを長押しすると、システムと2つのフロントパーキングセンサーがオフになります。オフにすると、ボタンの周りのライトが消灯します。

i 注意: リバースギアが選択されている場合は、パーキングアシストをオフにすることはできません。

i 注意: ミラーが折りたたまれている場合は、パーキングアシストはオンにならないため、センターインフォティメントタッチスクリーンにサイドミラーが折りたたまれている場合は、パーキングアシストは使用できませんと表示されます。

折り畳み式ドライバーディスプレイがスリムディスプレイモードの場合、センターインフォティメントタッチスクリーンのパーキングアシストのビューはリアビューカメラ (RVC) のビューに代わります。

i 注意: パーキングアシストはあくまでも目安に過ぎず、運転の際にドライバーが障害物を目視確認する代わりとなるものではありません。

パーキングアシストを手動で無効にすると、リバースギアを選択したときに再びオンになり、ドライブまたはニュートラルを再度選択するまでオンのままになります。また、パーキングセンサー ボタンを短く押しても再びオンにすることができます。

ラウドスタート

最高にドラマチックなエンジンスタートを演出したいドライバー向けの機能です。

 **警告:** 閉ざされた場所に車両があるときは、決してエンジンをかけないでください。排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと意識を失い死に至るおそれがあります。

i 注意: エンジンの始動時にアクセルペダルを踏み込まないでください。

i 注意: ラウドスタートは以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- エンジンクーラントが標準動作温度である
- エンジンオイルが標準動作温度である

ラウドスタートの手順

1. リモコンキーが車内にあることを確認します。
2. エンジンを始動せずにイグニッションスイッチをオンにするには、ブレーキペダルを踏まずにSTART/STOP (始動/停止) ボタンを押します。

i 注意: 車両がアウェイクモードのときは、ブレーキペダルを放してSTART/STOP (始動/停止) ボタンを2回押します。

運転操作装置 始動および走行



3. ACTIVE（アクティブ）ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルのスイッチをオンにします。



4. パワートレインコントロールを回して、トラックパワートレインモードを選択します。
5. ブレーキペダルを踏み、START/STOP（始動/停止）ボタンを押して放すとエンジンが増幅されたサウンドとともに始動します。

運転操作装置

デュアルクラッチギアボックス

概要

ギアボックスは7速デュアルクラッチギアボックスを採用し、オートマチックまたはマニュアルモードで操作できます。

ドライバーがマニュアルモードを選択しない限りオートマチックモードが選択されます。マニュアル/オートマチックモード、ページ2.18を参照してください。

オートマチックモードでは、ギアボックスは次の条件に基づき最も適切なギアを選択し、ドライバーの運転スタイルに合わせてシフトポイントを自動的に最適化します。

- パワートレインコントロール、ページ2.23。
- アクセルペダル位置、ページ2.18。
- 車速。
- ブレーキ踏力。

i 注意: エンジンやギアボックスが暖まるまでは、高回転走行や高負荷走行は行わないでください。

滑りやすい路面を走行する際にリアホイールを長時間スピンさせないでください。ドライブトレーンが損傷するおそれがあります。

ギア位置



ギア位置ボタンのいずれかを押してください。

i 注意: ドライブ、ニュートラル、リバースのうちどれが選択されているかを示すため、ボタンの文字が赤く点灯します。

ドライブ

D 7速前進ギアをすべて利用できます。マニュアルモードが選択されていない限り、ギアチェンジはオートマチックになります。

ニュートラル

N ギアはかみ合っていません。ブレーキを放すと、車両を押したり、けん引したり自由に動かすことができます。ニュートラルの詳しい使用法は回収のためのけん引、ページ6.37を参照してください。

ニュートラルはどの速度でもNボタンを押すことで選択できます。Dボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

リバース

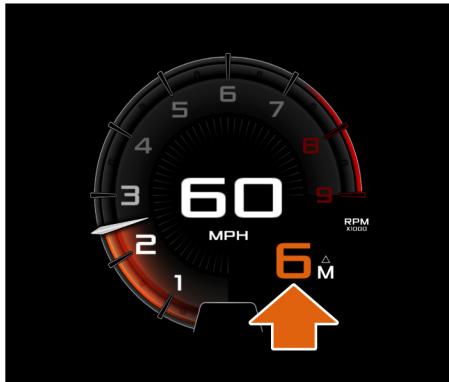
R 通常は、車両が静止している状態でリバースギアを選択します。駐車操作時にドライブからリバースにすばやく変更し、再びドライブに戻すといった操作を繰り返し行う必要がある場合、10 km/h (6 mph) 以下の速度であれば走行したままリバースまたはドライブにギアチェンジすることができます。

i 注意: 速度が10 km/h (6 mph) 以上のときにリバースまたはドライブにチェンジした場合、トランスマッisionはセルフプロテクション機能によりニュートラルに入ります。

10 km/h (6 mph) 以下の速度で走行中は、Nボタンを押すことによってニュートラルを選択できます。

運転操作装置 デュアルクラッチギアボックス

リバースを選択してブレーキを放すと、車両はアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き始めます。これにより、駐車時の運転操作を楽に行うことができます。



選択したギア（マニュアルモード）またはギア位置（オートマチックモード）が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: システムに通信障害が発生した場合は、ギア位置は表示されません。障害を通知するために、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

アクセルペダル位置

ドライバーの運転スタイルに応じ、デュアルクラッチギアボックスのギアチェンジのパターンが変わります。

アクセルペダルを軽く踏むドライバーの場合は、低めのエンジン回転数でシフトアップが行われます。アクセルペダルを強く踏むドライバーの場合は、高いエンジン回転数でシフトアップが行われます。

キックダウン

キックダウンは自動モードの場合、迅速な加速を達成するよう設計されています。

抵抗を感じられる点からさらにアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、ペダルがカチッとなるのが感じられます。ギアボックスが即座に選択可能な最低ギアにシフトダウンし、最大加速が行われます。ペダルから力を抜くとキックダウンが終了し、通常のギアチェンジパターンに戻ります。

i 注意: ペダルを緩く踏んだ場合でも、車速によってはギアボックスがシフトダウンすることがあります。

マニュアル/オートマチックモード



ACTIVE (アクティブ) ボタン (2) を押してアクティブダイナミクスパネルをオンにします。

ACTIVE (アクティブ) ボタンの周囲のHALOが点灯します。走行モードを切り替えた場合はそれぞれのボタンが点灯します。ACTIVE (アクティブ) ボタンを再度押すことによって、選択した走行モードを隨時非アクティブにできます。マニュアルモードを選択するにはMANUAL (マニュアル) ボタン (1) を押します。

運転操作装置

デュアルクラッチギアボックス



ギアボックスモードインジケーターには、Mと現在選択されているギアが表示されます。すべての前進ギアチェンジは、ギアシフトパドルを使用して行います。ギアシフトパドル、ページ2.20を参照してください。

ギアシフトモード（PSC）はインジケーターで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

設定オプションについては、ギアシフトモード（PSC）、ページ4.16を参照してください。



マニュアルモードで省燃費走行時には、シフトアップを行うことで最適な省燃費性能が維持できる場合にギアシフトインジケーター（GSI）が点灯します。要求される加速または原則がより高いギアに合わない場合は、GSIは点灯しません。経済走行、ページ2.11を参照してください。

i 注意: 市場によっては利用可能でない場合があるので、マクラーレン代理店にご相談ください。

再度MANUAL（マニュアル）ボタンを押すとオートマチックモードに戻ります。



ギアボックスモードインジケーターにAと表示されます。ギアチェンジはすべて自動的に行われますが、ギアシフトパドルを操作するとギアボックスは一時にマニュアルモードになります。このモードは、ドライバーがマニュアルギアチェンジを続けている間アクティブになります（8秒以内）。ギアボックスモードインジケーターにA/Mと表示されます。ギア位置インジケーター、ページ3.15を参照してください。

i 注意: マニュアルギアチェンジを行わずに8秒間が経過すると、ギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

運転操作装置

デュアルクラッチギアボックス

ギアシフトパドル



シフトアップするには、右パドルを手前に引きます。シフトダウンするには、左パドルを手前に引きます。現在のギア位置がギア位置ディスプレイに表示されます。ギア位置インジケーター、ページ 3.15 を参照してください。

- i 注意:** 一体型パドルとセンターピボット構造により、どちらのパドルを使用してもシフトアップ、シフトダウンができます。上述の方法以外にも、左パドルを押すことによってシフトアップ、右パドルを押すことによってシフトダウンすることができます。

ギアシフトパドルは選択したハンドリングおよびパワートレインモードに関係なく動作します。また、ギアチェンジの際にアクセルペダルを離す必要もありません。

⚠️ 警告: マニュアルモードの場合、本車両は安全のためにエンジン回転数をモニタし、必要に応じてオートマチックギアチェンジを行うことがあります。

⚠️ 警告: 滑りやすい路面では、シフトダウンしてエンジンブレーキを作動させないでください。

i 注意: オートマチックモードでパドルを操作した場合、ギアチェンジをしないまま 8 秒間が経過するとギアボックスはオートマチックモードに戻ります。

ブレーキをかけているときに選択可能な最低ギアにすぐにシフトするには、パドルでダウンシフトを選択して押し続けます。そうすると、最適なギアに達するかパドルを離すまで、低いギアへ順番にシフトしていきます。

車速が 10 km/h (6 mph) 以下の場合、またはギアを選択したまま停車した場合、パドルをシフトダウン方向に押し続けるとニュートラルになります。

ニュートラルはどの速度でも N ボタンを押すことで選択できます。D ボタンを押すか、ギアシフトパドルを用いてシフトを開始し、車速に適切なギアを選択します。

Pre-Cog

ギアボックスは次のギアチェンジを予測して必要なギアをあらかじめ選択することにより、迅速でシームレスなギアチェンジを確実にします。

車両が加速中でも、ギアボックスが次に高いギアをあらかじめ自動的に選択します。急加速後すぐにシフトダウンが必要な場合は、シフトダウンパドルを軽く引いて Pre-Cog 位置に保持し、次に低いギアをあらかじめ選択します。準備ができたら、ほぼ一瞬でシフトダウンするためにパドルをいっぱいまで引きます。

減速中にシフトアップをあらかじめ選択するには、シフトアップパドルを軽く引いて Pre-Cog 位置に保持し、次に高いギアをあらかじめ選択します。準備ができたら、あらかじめ自動選択されたシフトダウンのかわりに、ほぼ一瞬でシフトアップするためにパドルをいっぱいまで引きます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

アクティブダイナミクスコントロール

アクティブダイナミクスパネルのハンドリングコントロールスイッチとパワートレインコントロールスイッチを使用することにより、車両のハンドリング特性やパフォーマンス特性を調節することができます。

アクティブダイナミクスパネルには以下のボタンがあり、エンジンが動作中かイグニッションスイッチがオンになっている場合にのみ機能します。



1. ハンドリングコントロール, ページ 2.22
2. ACTIVE (アクティブ) ボタン, ページ 2.21
3. パワートレインコントロール, ページ 2.23

4. エコスタート-ストップシステム, ページ 2.09
5. 発進コントロール, ページ 2.26
6. エンジンSTART/STOP (始動/停止) ボタン。車両の電気的状態, ページ 2.02を参照してください。

ACTIVE (アクティブ) ボタン



ACTIVE (アクティブ) ボタンを押して、アクティブダイナミクスパネルをオンにします。これによりLaunch (発進)、Aero (エアロ)、ESCoфф、ハンドリングとパワートレインコントロールが有効になります。ACTIVE (アクティブ) ボタン、ハンドリングスイッチ、パワートレインスイッチが点灯します。

i 注意: アクティブダイナミクスパネルがオンの場合、現在のハンドリングとパワートレインモードは折り畳み式ドライバーディスプレイにアンバー色で表示されます。パネルがオフの場合、ハンドリングとパワートレインモードは白色で表示されます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

i 注意: イグニッションスイッチをオフにすると、アクティブダイナミクスパネルのボタンもオフになります。ハンドリングとパワートレインコントロールのモードは保存されますが、コントロールを操作するには、次にイグニッションスイッチをオンにしたときに再度ACTIVE（アクティブ）ボタンを押す必要があります。ボタンを押さなかった場合は、オートマチックギアエンジに戻ります。

ハンドリングコントロール

ハンドリングコントロールスイッチは、RaceActive Chassis Control II システムに対して効果を発揮します。

モードの選択



- ACTIVE（アクティブ）ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルのスイッチをオンにします。



- ハンドリングコントロールを回して、以下のモードのいずれかを選択します。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

モード

C	コンフォート	最も柔らかいサスペンション設定となり、コーナリング時の優れたボディコントロールを保ちながらソフトな乗り心地を実現します。
S	スポーツ/ノンアクティブ	コンフォートモードよりも固めのサスペンションとなり、乗り心地がより強く引き締まりハンドリング特性も強化されています。
T	トラック	スポーツ/ノンアクティブモードよりも固めの、サーキット走行やスポーティな公道走行用に設定されたサスペンションになります。

i 注意: ESC は、すべてのモードで ESC ボタンを使って制御します。

i 注意: 折り畳み式ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したハンドリングモードに応じて変化します。ハンドリングおよびパワートレインモードの表示、ページ 3.16 を参照してください。

選択したモードは選択が変更、イグニッションがオフ、またはアクティブダイナミクスパネルが解除されるまで作動状態になります。

i 注意: 選択時に以下の条件がすべて満たされていないと、条件が満たされるまでそのモードになりません。

- 不具合条件が存在していないこと
- エレクトロニックスタビリティコントロールなど、車両のダイナミクス機能またはスタビリティ機能がアクティブになっていない
- 車両が走行中の場合は、ステアリングホイールが直進位置になっており、左右に旋回していない

アクティブダイナミクスパネルがオフの場合は、折り畳み式ドライバーディスプレイのハンドリング表示にノンアクティブと表示されます。詳しくは、ハンドリングおよびパワートレインモードの表示、ページ 3.16 を参照してください。

車両がノンアクティブモードの場合は、そのハンドリング特性はスポーツハンドリングモードのものと一致します。

i 注意: トラックハンドリングモードでも、エレクトロニックスタビリティコントロールシステムは作動します。詳しい説明はエレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)、ページ 2.35 を参照してください。

パワートレインコントロール

モードの選択



- ACTIVE (アクティブ) ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルのスイッチをオンにします。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール



2. パワートレインコントロールを回して、以下のモードのいずれかを選択します。

シフトパターンは、選択したパワートレインモードに応じて異なります。

アクティブなモード

オートマチックモード		
C	コンフォート	車両の本来のパフォーマンスを損なうことなく、省燃費性能が最適になるようにシフトポイントが設定されます。
S	スポーツ	ギアチェンジは高めのエンジン回転数で、シフトにかかる時間は短縮され、さらにシリンドーカットで向上されています。シリンドーカット、ページ 7.12 を参照してください。
T	トラック	シフトポイントが極限まで高くなり、サーキット走行スタイルに似た走りを味わえます。

マニュアルモード

C	コンフォート	快適性が最適になるようにシフトポイントが設定され、シリンドーカットによって強化されます。シリンドーカット、ページ 7.12 を参照してください。
S	スポーツ	ギアチェンジは短いシフト間隔で行われ、イグニッションカットによりさらに向上します。イグニッションカット、ページ 7.13 を参照してください。
T	トラック	最も鋭敏なギアチェンジパターンです。ギアチェンジは瞬時に行われ、慣性ブッシュによりさらに向上します。慣性ブッシュ、ページ 7.13 を参照してください。

i 注意: 折り畳み式ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したパワートレインモードに応じて変化します。ハンドリングおよびパワートレインモードの表示、ページ 3.16 を参照してください。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

i 注意: 公道でトラックモードを使用することは推奨できません。トラックモードは、あくまでもハイパフォーマンスサーキット/オフロードのみでの使用を目的としています。

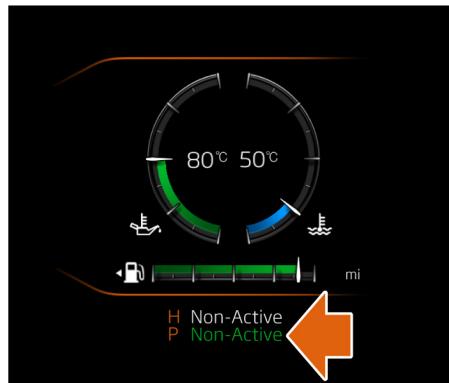
選択したモードは選択が変更、イグニッションがオフ、またはアクティブダイナミクスピネルが解除されるまで作動状態になります。

アクティブダイナミクスピネルがオフの場合は、折り畳み式ドライバーディスプレイのパワートレイン表示にノンアクティブと表示されます。詳しくは、ハンドリングおよびパワートレインモードの表示、ページ 3.16を参照してください。

ノンアクティブモード

オートマチックモードとマニュアルモードのどちらの場合も、ギアチェンジは短いシフト間隔で行われ、慣性プッシュによりさらに向上します。慣性プッシュ、ページ 7.13を参照してください。

エコノミーモード



車両がいずれかのパワートレインモードでオートマチックギアシフトを選択しているときは、穏やかに走行している限りトランスミッションは経済的なシフトパターンで動作します。これは、車速、アクセル、ブレーキおよび路面の勾配に基づいて決定されます。

現行のアクティブなシフトパターンに応じて、エコノミーモードが作動中にはNon-Active（ノンアクティブ）、Comfort（コンフォート）、SPORT（スポーツ）またはTRACK（トラック）の表示が緑色に変わります。その他の燃費節約方法についての情報は経済走行、ページ 2.11を参照してください。

i 注意: アクティブダイナミクスピネルがオフの場合、現在のハンドリングとパワートレインモードは折り畳み式ドライバーディスプレイにアンバー色で表示されます。パネルがオフの場合、ハンドリングとパワートレインモードのノンアクティブは白色で表示されます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

発進コントロール

発進コントロールは、停止状態から発進する際に最大の加速力が得られるように設計されています。

警告: サーキット以外では発進コントロールを起動しないでください。発進コントロールを起動する前に、すべてのドアとサービスカバーが閉じられていること、周囲の状況が最大加速運転を行うために支障がないことを確認してください。

i 注意: 発進コントロールはオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またハンドリングモードやパワートレインモードにかかわらず動作しますが、アクティブダイナミクスパネルがアクティブになっていないと使用できません。

i 注意: 発進手順はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- パーキングブレーキの適用
- ACTIVE（アクティブ）ボタンを押して車両のダイナミクスパネルのスイッチをオフにする
- LAUNCH（発進）ボタンを押して発進コントロールのスイッチをオフにする



i 注意: 故障があった場合や発進手順を正しく実行しなかった場合は、折り畳み式ドライバーディスプレイに発進モード使用不可 - オーナーズマニュアルを参照という警告メッセージが表示されます。発進手順を再度実行し、正しく実行されたことを確認してください。警告メッセージが消えない場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。



i 注意: 発進モードは以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- 両方のドアが閉まっている
- 車両リフト機能が無効になっている
- 大気高度がエンジンパフォーマンスに悪影響を及ぼさない
- エンジンクーラントが標準動作温度である



- ACTIVE（アクティブ）ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルのスイッチをオンにします。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール



- LAUNCH (発進) ボタンを押します。

i 注意: ギアボックスモードインジケーターで「」が点滅します。詳しくは、マニュアル/オートマチックモード、ページ 2.18 を参照してください。また、発進モードアクティブ - フルスロットル待ちというメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

- 左足でブレーキペダルを踏みながら、右足でアクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。エンジン回転数が3,200rpmまで上昇します。

i 注意: 発進コントロールを中止するには、アクセルペダルを踏む前にブレーキペダルを放すか、発進コントロールが非アクティブになるまで約100秒間待ってください。発進モード中止 - オーナーズマニュアルを参照というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: 発進モード作動中 - ブースト準備中というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。十分に昇圧したら、発進モード作動中 - ブースト準備完了というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

- ブレーキペダルから左足を離すと、最大加速が得られるように発進コントロールシステムが発進コントロールを実行します。

i 注意: 発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを放すか、発進コントロールが非アクティブになるまで約5~10秒間待ってください。発進が中止されたらアクセルペダルを放し、再度アクセルを踏んで走行を開始します。発進モード中止 - オーナーズマニュアルを参照というメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

- 発進コントロールは中止するまで手順を正しく実行することで動作します。

i 注意: 発進コントロール時にはオートマチックでギアシフトが行われ、トラクションが最適化されます。この操作は発進コントロールが中止されるまで続行されます。発進コントロールを中止するにはアクセルペダルを放すか、ブレーキをかけるか、ギアシフトパドルのいずれかを操作します。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

ホイールスピンドライブ

最高にドラマチックなスタートを演出したいドライバー向けの機能です。

警告: サーキット以外ではホイールスピンドライブを起動しないでください。ホイールスピンドライブを起動する前に、すべてのドアおよびサービスカバーが閉じられていることと、周囲の状況がドラマチックな加速運転を行うのに支障がないことを確認してください。

警告: ホイールスピンドライブ発進中は、エレクトロニックスタビリティコントロールが非アクティブになります。その結果、トラクションが失われ、リアホイールがスピンします。

i 注意: ホイールスピンドライブ発進はオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またパワートレインモードに関わらず動作しますが、スポーツシャーシモードまたはトラックシャーシモードでないと使用できません。

i 注意: ホイールスピンドライブ発進はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- ブレーキをかける
- アクセルペダルを離す

i 注意: ホイールスピンドライブ発進は以下の条件を満たしている場合にのみ使用できます。

- エンジンクーラントが標準動作温度である
- 大気圧が通常のエンジン性能に影響のない範囲内である

- 車両は水平な場所に停車している
- エレクトロニックスタビリティコントロールがオフになっている

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC), ページ 2.35 を参照してください。

- 可変ドリフトコントロールがオフになっている

可変ドリフトコントロール, ページ 2.36 を参照してください。

- 発進コントロールが無効になっている

- 1速が選択されている
- パーキングブレーキが解除されている
- 発進時のコントロール性を高めるため、ステアリングホイールは直進位置になっている必要があります。

警告: ステアリングホイールが直進位置にならない場合、車両がスピンする可能性が高まるため、発進時には細心の注意が必要になります。

ホイールスピンドライブのプロセス

- ブレーキペダルを離し、キックダウン位置を超えるまでアクセルペダルをすばやく踏み込みます。車両はリアホイールをスピンさせながらドラマチックに加速します。

i 注意: ホイールスピンドライブを中止するには、アクセルペダルを放すか、またはブレーキペダルを踏んでください。

i 注意: オートマチックモードでのホイールスピンドライブ発進時には、オートマチックギアシフトが行われ、プロセスが中止されるか、またはホイールスピンドライブができないほどグリップが高まるまでリアホイールのスピンが続きます。手動でギアシフトを行った場合も、最適なエンジン回転数が維持されグリップが高すぎない状態であれば、ホイールのスピンは続きます。

運転操作装置

ハンドリングとパワートレインコントロール

ピットトレーン発進

ピットトレーン発進は、停止状態から発進する際に最大に近い加速力が得られるように設計されています。

⚠️ 警告: サーキット以外ではピットトレーン発進を起動しないでください。ピットトレーン発進を起動する前に、すべてのドアおよびサービスカバーが閉じられていることと、周囲の状況がドラマチックな加速運転を行うのに支障がないことを確認してください。

i 注意: ピットトレーン発進はオートマチックモード、マニュアルモードのいずれでも、またどのパワートレインモードまたはシャシモードでも動作します。

i 注意: ピットトレーン発進はどの時点でも以下のいずれかの操作によって中止できます。

- ブレーキをかける
- アクセルペダルを離す

i 注意: ピットトレーン発進は以下の条件を満たしている場合のみ使用できます。

- エンジンクーラントが標準動作温度である
- 大気圧が通常のエンジン性能に影響のない範囲内である
- 車両は水平な場所に停車している
- 発進コントロールが無効になっている

- 1速が選択されている
- パーキングブレーキが解除されている
- 発進時のコントロール性を高めるため、ステアリングホイールは直進位置になっている必要があります。

⚠️ 警告: ステアリングホイールが直進位置になっていない場合、車両がスピニングする可能性が高まるため、発進時には細心の注意が必要になります。

ピットトレーン発進のプロセス

- ステアリングホイールが直進位置になっていることを確認します。
- ブレーキペダルを左足でしっかりと踏み、ローギアを選択します。
- 左足でブレーキペダルを踏みながら、目的のエンジン回転数に達するまで右足でアクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。車両がエンジントルクを増大させ、ドライブラインに予負荷がかかります。
- 左足をブレーキペダルから離すと、選択したアクセルペダル位置から発生する最大加速力で車両が発進します。

i 注意: ピットトレーン発進を中止するには、アクセルペダルを放すか、またはブレーキペダルを踏んでください。

運転操作装置

レースモード

レースモードの概要

レースモードにより、レースまたはサーキット環境で車両の性能を最大限発揮させることができます。

警告: McLaren Senna で得られるフルパフォーマンスは、常に意識しておく必要があります。特に ESC の介入が軽減されるレースモードを使用する場合は、十分に意識してください。

警告: サーキット以外ではレースモードを起動しないでください。いかなる場合でも、公道でレースモードを使用しないでください。レースモードにする前に、すべてのドアおよびサービスカバーが閉じられていることを確認してください。また、サーキットの路面状態がレースモードに適していることも確認してください。

警告: レースモードをアクティブになると、車両がスリップしたり、駆動輪がスピinnする危険性が高まります。このことを考慮し、サーキットの状態に応じた運転を行ってください。

警告: レースモードで傾斜路、段差のある路面、荒れた路面を走行したり、突起物の上を通過する際には十分注意してください。車両の下側が激しく損傷することがあります。

レースモードをアクティブにする

レースモードをアクティブにするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 車両が停止していて、パーキングブレーキをかけている
- エンジンが作動している
- ニュートラルギアが選択されている
- 運転席ドアが閉じている



RACE（レース）ボタンを2秒間押し続けます。

警告音が鳴り、折り畳み式ドライバーディスプレイに免責事項が表示されます。

RACE（レース）ボタンを押して、免責事項を承諾します。



折り畳み式ドライバーディスプレイにレースモードへの移行画面が約60秒間表示されます。この間に、次の各種設定が自動的にチェックおよび調整され、車両はレースで使用するのに最適な状態になります。

- 車高
- アクティブエアロ較正
- エレクトロニックスタビリティコントロールの介入が減少

運転操作装置 レースモード

⚠ 警告: レースモードへの移行中に運転席ドアを開いた場合、車高を除くすべての設定が続行されます。車高は、運転席ドアを開く前と同じ位置になり、完全に下降したレースに最適な設定にならない可能性があります。

i 注意: レースモードへの移行時には、車両は移動不能になり、走行することはできません。

i 注意: 車両がレースモードになっているときにイグニッションをオフにすると、次回イグニッションをオンにしたときに免責事項に再び同意しなければならなくなります。走行するには、RACE（レース）ボタンを押してください。

i 注意: レースモードになっているときに、イグニッションをオフにしてからオンにする間にACTIVE（アクティブ）ボタンを押すと、レースモードをキャンセルできます。

i 注意: レースモードでは、車両リフトを使用したマニュアルライドの高さ調整はできません。

レースモードを非アクティブにする

レースモードを非アクティブにするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 車両が停止していて、パーキングブレーキをかけている
- エンジンが作動している
- ニュートラルギアが選択されている
- 運転席ドアが閉じている



RACE（レース）ボタンを2秒間押し続けます。



折り畳み式ドライバーディスプレイにレースモードへの移行画面が約60秒間表示されます。この間に、次の各種設定が自動的にチェックおよび調整され、車両は公道用の設定に戻ります。

- 車高
- アクティブエアロ口較正

i 注意: レースモードからの移行時には、車両は移動不能になり、走行することはできません。

運転操作装置 レースモード

インストルメント

レースモードがアクティブになると、折り畳み式ドライバーディスプレイはレーシングカーと同じような表示になります。



車両設定

アクティブエアロ設定は、車両のモードにリンクされていて、自動的に設定されます。これらの設定は、手動で調整することはできません。

運転操作装置

走行安全システム

一般

本章では以下の安全システムについて説明します。

- アンチロックブレーキシステム (ABS)
- ブレーキアシストシステム
- ブレーキディスクワイピング
- ヒルホールド
- ブレーキステア
- エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)
- アクティブリアウинг
- アクティブフロントエアロブレード

⚠ 警告: スピードを出し過ぎると、特にカーブや、濡れた、または凍結した路面の走行時に事故が発生する危険性が高くなります。先行車両との間には常に安全な車間距離を保ってください。

必ず、道路の状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。また、通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。

i 注意: 冬季の条件下でアンチロックブレーキシステム、ブレーキアシストシステム、エレクトロニックスタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤやスノーソックの使用が必要となることがあります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステムは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することが可能になります。

アンチロックブレーキシステムは、路面の状況にかかわらず、車速が約8km/h (5mph) 以上のときに作動します。滑りやすい路面ではブレーキを穏やかに踏んだときにも効果を発揮します。

⚠ 警告: ポンピングブレーキは行わないでください。ブレーキペダルをしっかりと、一定の力で踏んでください。ポンピングブレーキを行うとブレーキの効果が低減します。

ブレーキをかけた際にアンチロックブレーキシステムが作動すると、警告灯が点滅し、ブレーキペダルから波動が伝わります。

アンチロックブレーキシステムが作動した場合は、ブレーキが必要なくなるまでブレーキペダルを踏み続けてください。

⚠ 警告: 必ず、周囲の道路状況や天候条件に合わせた運転を行ってください。通行者や路上の物体から十分な距離を保ってください。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 状態表示灯



システムが故障した場合は状態表示灯が点灯します。車両を運転しないでください。速やかにマクラーレン代理店にご連絡ください。



警告: アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキアシストシステムやエレクトロニックスタビリティコントロールも非アクティブになります。

アンチロックブレーキシステムが故障した場合は、ブレーキをかけた際にホイールがロックするおそれがあります。これによって停止距離が長くなり、またハンドル操作が利かなくなる可能性があります。

運転操作装置

走行安全システム

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

非常ブレーキが必要なくなるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。アンチロックブレーキシステムがホイールのロックを防止します。

ブレーキペダルを離すとブレーキは通常どおり作動します。ブレーキアシストシステムは非アクティブになります。

⚠ 警告: ブレーキアシストシステムが故障した場合でもブレーキは作動します。ただし、制動力が自動的に増大されることはないため、停止距離が長くなる可能性があります。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントワイドウワイパーのスイッチをオンにすると自動的に作動します。この機能は強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止し、ブレーキ性能を改善します。

ヒルホールドコントロール

坂道で車両を停止するためにブレーキペダルが踏まれた場合、この機能はペダルを離した後も2秒間ブレーキをかけ続け、スムーズな発進をアシストします。

運転操作装置

走行安全システム

ブレーキステア

ブレーキステアはトルクベクトリングディファレンシャル効果を実現しますが、軽量化と反応速度の改善のためにブレーキシステムに組み込まれています。

トルクベクトリングによって、ディファレンシャルがリアの各ホイールに伝達する力の量を変化させ、最適の安定性とトラクションを実現します。

コーナリング時に車両がアンダーステアになつたあることを検知すると、システムはリアの内輪に軽くブレーキをかけます。これによって車両のヨーレートが増大し、車両のアンダーステアに対する抵抗力が増します。横方向のGも増大し、ハンドリング特性が向上します。

ドライバーがコーナーからの立ち上がりでスロットルを開け過ぎると、リアの内輪の速度が増し、ブレーキステアが作動しなければ車両が不安定になるおそれがあります。この状況でも、ブレーキステアが再びリアホイール内側に軽くブレーキをかけることによって、トラクションと走行安定性を回復します。

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC)

エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) は、走行安定性およびタイヤと路面間のトラクションを監視します。

エレクトロニックスタビリティコントロールは、ホイールがスピンを始めるか車両が滑り始めるこれを検知し、個々のホイールにブレーキをかけるとともにエンジン出力を制限して車両を安定させます。また、濡れた路面や滑りやすい路面での発進の際にもアシストを行い、ブレーキング時の車両の安定性を向上させます。

 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールは推奨指定タイヤの使用時に限り正常に作動します。

エレクトロニックスタビリティコントロールはエンジンを始動するとすぐ自動的にアクティブになります。

 警告: エレクトロニックスタビリティコントロール警告が点灯した場合、エレクトロニックスタビリティコントロールを解除しないでください。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムはエレクトロニックスタビリティコントロールに欠かせない部分です。

トラクションコントロールシステムはホイールのスピンを防止するためにトルクを低減します。ホイールのスピンを止めるためにさらに介入が必要な場合はリアホイールに個別にブレーキがかかります。トラクションコントロールシステムは個々の駆動輪にブレーキをかけてスピンを防止します。これにより、滑りやすい路面でも加速が可能になります。

 警告: スピードを出し過ぎている場合、トラクションコントロールシステムが事故の危険性を低減することはできません。

エレクトロニックスタビリティコントロール(ESC)を非アクティブにする

 警告: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、車両がスリップする危険性が高まります。道路や交通状況に合わせた運転を行ってください。

 警告: サーキット走行時、周囲の状況が適切である場合を除いて、エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにしないでください。

 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールを非アクティブにすると、以下の状態が発生します。

- ESC OFF警告灯の点灯
- ESC OFFボタンの点灯
- エレクトロニックスタビリティコントロールによる走行安定性の改善が行われません

運転操作装置

走行安全システム

- エンジンのトルク制限解除および駆動輪のスピン
- アンチロックブレーキシステムはアクティブのままで

エレクトロニックスタビリティコントロール(ESC)のダイナミックモード

エレクトロニックスタビリティコントロールのレベルは、現在アクティブなハンドリングモードに対応し、ドライバーの要求に合わせてさまざまなダイナミックモードに調節することができます。

エレクトロニックスタビリティコントロールのダイナミックモードは車速に関わらず選択できます。



エレクトロニックスタビリティコントロール - オン

エレクトロニックスタビリティコントロールはデフォルトでオフになっています。

エレクトロニックスタビリティコントロール - ダイナミックモード

- コンフォート、スポーツ、またはトラックハンドリングモードを選択します。
- ESC OFF (ESC オフ) ボタンを短く押して、ダイナミックモードをアクティブにします。

ESCDYN (ESC ダイナミック) が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

ESC オフ

- コンフォート、スポーツ、またはトラックハンドリングモードを選択します。
- ESCダイナミックモードになっていない場合、ESCOFFボタンを軽く押して、ESCダイナミックモードをアクティブにします。
- ESCOFFボタンを2秒間押し続け、その後5秒以内にもう一度押すと、エレクトロニックスタビリティコントロールが非アクティブになります。

折り畳み式ドライバーディスプレイにESCオフと表示され、ESCOFF (ESC オフ) ボタンのランプが点灯します。

可変ドリフトコントロール



ダイナミックモードでESCが許容するドリフトの量を調整できます。

ダイナミックモードまたはESCがオフ状態で、センターディスプレイから可変ドリフトコントロールにアクセスできます。これにより、ドライバーは、エレクトロニックスタビリティコントロールの正確なサポートレベルを選択できるようになります。

運転操作装置

走行安全システム

ホームメニューからトラクションコントロールを選択し、トラクションコントロールの設定にアクセスします。

+または-を選択して、好みに合わせてドリフトの量を増減します。

 を選択して、お気に入りの設定を保存および管理します。

工場出荷時の設定に戻すには、Default（デフォルト）を選択します。

エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）の再開

エレクトロニックスタビリティコントロールを再びアクティブにすると、折り畳み式ドライバーディスプレイにあるエレクトロニックスタビリティコントロールオフ警告灯が消灯します。

 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールはイグニッションスイッチをオフにし、次にオンにすると再び自動的にアクティブになります。

再アクティブ手順



エレクトロニックスタビリティコントロールを再びアクティブにするには、以下のいずれかを実行します。

- ESCOFFボタンを軽く押して、ボタンのランプを消灯させます。
- ハンドリングコントロールのモードをノンアクティブに変更します。
- イグニッションスイッチをオフにし、再びオンにします。

アクティブエアロ



ACTIVE（アクティブ）ボタンを押してアクティブダイナミクスパネルを有効にします。

エアロを有効にするには、作動温度 2 °C (36 °F) 以上、速度 15 km/h (10 mph) 以上が必要です。これらの条件を満たしていないと、アクティブエアロが利用可能でないことを示すエラーメッセージが折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

運転操作装置

走行安全システム

車速が 150 km/h (93 mph) を超えると、車両の要件に応じてアクティブリアウイングとアクティブフロントエアロブレードが動的に調整されます。これにより、空力抵抗が増し、車両の高速走行安定性が向上します。アクティブリアウイングとアクティブフロントエアロブレードは、急ブレーキ時または垂直方向や前後方向の大きな G フォースが検出されると、車速が 150 km/h (93 mph) 以下でもアクティブに作動する場合があります。

セルフテスト

完全なイグニッションサイクルが行われるたびに、エンジンが最初に始動し、車両が走行を開始すると、アクティブリアウイングとアクティブフロントエアロブレードが調整されてからゆっくりと最初の位置に戻る、セルフテストが実施されます。

⚠ 警告: アクティブエアロのセルフテストで不具合が見つかると、折り畳み式ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

アクティブリアウイング

⚠ 警告: ドライバーはアクティブリアウイング作動時に、人を巻き込まないよう必ず確認しなければなりません。

アクティブリアウイングはお客様のマクラーレンの後部にあり、車両の要件に応じて動的に調整されます。また、イグニッションの OFF/ON のサイクルを行うたびにセルフテスト機能が起動します。

i 注意: アクティブリアウイングは油圧を使用しており、エンジンが動作中のみ作動します。

i 注意: アクティブリアウイングシステムはトランスマッショントラムオイルの温度が低下すると、自動的にオフになります。アクティブリアウイングの操作を選択すると、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。トランスマッショントラムオイルの温度が上昇すると、アクティブリアウイングシステムはアクティブになります。



車両の要件に応じて、アクティブリアウイングが動的に調整されます。これにより、空力抵抗が増し、車両の走行安定性が向上します。アクティブリアウイングは車速に関係なく作動します。

i 注意: 車両がフルスロットルで直進している場合は、空力抵抗を下げて直進速度を上げるためにアクティブリアウイングが自動的に調整されます。

アクティブリアウイングの作動

高速走行中に急ブレーキをかけた場合、アクティブリアウイングの位置が自動的に調整され、最大限にブレーキをアシストします。

運転操作装置

走行安全システム

ブレーキペダルを踏む力が解放されると、アクティブリアウィングは前の位置に戻ります。

アクティブリアウィングは、以下の状況では、ブレーキペダルが踏まれていなくても車両の安定性を保つためにアクティブに作動する場合があります。

- 前後方向の大きなGフォースが検出されるとき、例えばアクセルペダルを急に放した場合など。
- 垂直方向の大きなGフォースが検出されるとき、例えば丘の頂上を通過する場合など。

⚠️ 警告: アクティブリアウィングがアクティブになると、一時的にインテリアミラーの視界が遮られます。その場合は外部ミラーによって後方の確認を行ってください。

ドラッグリダクションシステム (DRS)

⚠️ 警告: DRSに障害が発生した場合は、車速を100 km/h (62 mph)未満まで落としてください。DRSシステムのセルフテストが実施されます。

⚠️ 警告: DRSシステムのセルフテストで不具合が見つかると、折り畳み式ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。マクラーレン代理店にお問い合わせください。

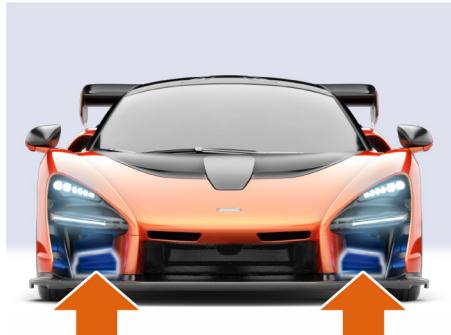
DRSは、車両のグリップ力が低下したときに、直線走行できるように空力バランスを補正しながら空気抵抗を最小限に抑えるシステムです。DRSは、フルスロットルで走行中にステアリングホイールが直進位置にあり、ブレーキ圧がかかっていないときにのみ作動する、自動システムです。車両がコーナーの接近（ブレーキ圧、スロットルの低下、またはステアリング角の変化）を検出するとすぐに、DRSモードは自動的にキャンセルされます。ドライバーが自らの意思でDRSをキャンセルするには、スロットルを開くか、ブレーキをかけるか、またはステアリング操作を行うことによってこれを行うことができます。

ECO モード

ノンアクティブ、コンフォート、またはスポーツモードでクルーズコントロールをアクティブにすると、アクティブリアウィングがECOモードになって空気抵抗を下げます。

アクティブフロントエアロブレード

アクティブフロントエアロブレードは一対になつており、フロントエアダクトに1個ずつ装着されています。



アクティブフロントエアロブレードの角度は最大40°まで自動的に調整され、安定性とハンドリングを向上させる必要がある場合に、車両の下側の気流を変化させてダウンフォースを増大させます。アクティブフロントエアロブレードは、車両が発進するまで展開しません。

折り畳み式ドライバーディスプレイにアクティブエアロエラーが表示された場合は、マクラーレン代理店にお問い合わせになる前に、異物の付着によりアクティブフロントエアロブレードの動きが制限されていないかどうかを確認してください。

運転操作装置

走行安全システム

タイヤ空気圧監視システム (TPMS)

寒冷時に走行する場合は必ず各タイヤを点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載された推奨空気圧になるように調整する必要があります。（車両のタイヤのサイズがタイヤ空気圧ラベルに記載されたサイズと異なる場合は、ご自分で適切な空気圧を判断する必要があります。）

特定の状況では、空気漏れではない場合でも、タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の圧力警告が表示される可能性があります。これは、タイヤ空気圧を設定した場所と車両を走行させる場所との温度差に原因がある場合があります。例えば、エアコンが作動している場所または暑い車庫で空気圧を設定してから外を走行すると、走行開始からしばらくしてタイヤ空気圧警告が表示されることがあります。外気温が極度に変動した場合、または季節的な温度変化によって、警告が表示されることもあります。

警告: タイヤ空気圧の警告を無視しないでください。すぐにタイヤ空気圧を点検し、必要な場合はマクラーレン代理店にお問い合わせください。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の概要



タイヤ空気圧監視システムは、タイヤの空気圧が低下したときや、タイヤ温度が許容水準を超えたときに警告を発します。

このシステムは各タイヤバルブに配されたセンサーと車内に配されたレシーバーを使用し、各タイヤのタイヤ空気圧と温度を監視します。センサーとレシーバー間の通信は無線周波 (RF) 信号によって行います。

i 注意: タイヤ空気圧監視システムは、車内または車両の近くで無線送信機（無線式ヘッドホン、送受信機など）を使用すると干渉を受けることがあります。

タイヤ空気圧監視システム (TPMS) の操作

(!) タイヤ空気圧の低下や上昇、またはタイヤ温度の上昇が検知されると、折り畳み式ドライバーディスプレイに関連するエラーメッセージが表示されるとともに、タイヤ空気圧監視システム警告灯が点灯します。

速やかに車両を停止し、すべてのタイヤを点検し、推奨空気圧まで空気を入れてください。タイヤ空気圧、ページ 6.30 を参照してください。この警告灯は、タイヤの空気圧を適正な空気圧にすると消灯します。

極端に空気圧が不足したタイヤで走行を続けるとタイヤがオーバーヒートし、タイヤの破損につながります。空気圧不足は燃費を悪くし、タイヤトレッドの寿命を短縮させ、車両のハンドリングや停止性能に悪影響を及ぼす可能性があります。

⚠ 警告: TPMS はタイヤの適切なメンテナンスに取って代わるものではありません。空気圧不足が TPMS 空気圧不足警告灯を点灯させるほどではない場合であっても、適正な空気圧を維持するのはドライバーの責任です。

タイヤに空気を入れすぎた場合も、タイヤトレッドの摩耗や車両ハンドリングに悪影響が及ぶ可能性があります。

タイヤはすべて、冷えている間に毎週点検し、タイヤ空気圧ラベルに記載の推奨空気圧になるように調整する必要があります。

運転操作装置

走行安全システム

折り畳み式ドライバーディスプレイの車両情報画面に移動して、現在のタイヤ空気圧を表示します。車両情報、ページ3.06を参照してください。



このディスプレイには、4本のタイヤそれぞれの空気圧が表示されます。空気圧の値が緑色で表示されている場合は何もする必要はありません。赤字で表示されている場合はすぐ、該当するタイヤが適正な空気圧になるまで空気を入れてください。

タイヤ空気圧の減少の考えられる原因に関してタイヤを点検してください。



警告: 折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されるタイヤの空気圧は、圧力計で計測するよりも正確です。タイヤ空気圧監視システムは、タイヤ空気圧の手動による点検や、摩耗や損傷の点検の代わりとなるものではありません。このシステムは空気圧不足を警告するためのものであり、タイヤの空気を入れるものではありません。タイヤ空気圧監視システムにはタイヤの損傷を警告する機能はありません。タイヤの状態を定期的に点検してください。



警告: 頻繁に空気圧不足警告が発生する場合は、マクラーレン代理店にタイヤの点検を依頼してください。空気圧が不足したタイヤで走行を続けるとタイヤがオーバヒートし、タイヤの破損につながります。



環境: タイヤの空気圧不足は燃費を悪化し、タイヤトレッドの寿命を短縮させ、車両のハンドリングやブレーキ性能に悪影響を及ぼす可能性があります。



環境: 少なくとも週に1回はタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤ温度監視システムの動作

タイヤ温度の上昇が検知されると、タイヤ温度監視システムが折り畳み式ドライバーディスプレイにエラーメッセージを表示します。

折り畳み式ドライバーディスプレイの車両情報画面に移動して、現在のタイヤ温度を表示します。車両情報、ページ3.06を参照してください。



このディスプレイには、4本のタイヤそれぞれの現在の温度が表示されます。温度が青色で表示された場合、タイヤはまだ最適な動作温度に達していません。温度が緑色で表示された場合、何もする必要はありません。赤色で表示された場合、タイヤの安全な動作温度を超えてます。安全な温度になるまで、すなわち温度が緑色で表示されるようになるまで減速するか車両を停止してください。

タイヤの温度の上昇の考えられる原因に関してタイヤを点検してください。

運転操作装置

クルーズコントロール

概要

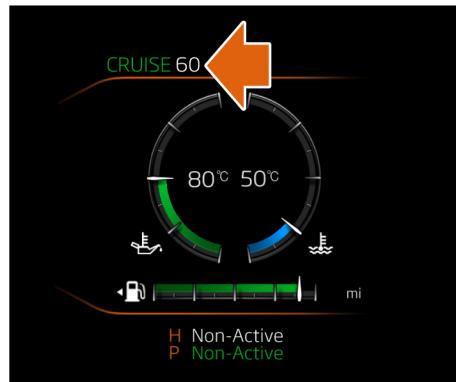
警告: クルーズコントロールをアクティブにしたときは道路や交通状況に特に注意し、常に周囲の状況に対し安全な速度で走行してください。
ワインディングロードや滑りやすい路面、あるいは霧や強雨、降雪時など視界が悪い状況では決してクルーズコントロールを使用しないでください。

クルーズコントロールを使用すると、ドライバーはアクセルペダルを使用せずに一定の速度を維持することができます。これは、一定の速度を長時間維持できる高速道路走行時に便利な機能です。



クルーズコントロール機能はすべて、ステアリングコラムの右側にあるクルーズコントロールレバーで操作します。

クルーズコントロールの使用



クルーズコントロールをアクティブにするには、設定したい速度まで加速してレバーを短く上に押します。設定された速度が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: クルーズコントロールは、3速以上のギアで車速が 30 km/h (20 mph) を超えないないと作動しません。

アクセルペダルを踏むことにより、随時速度を上げることができます。アクセルペダルを離すと、車両はクルーズコントロール速度に戻ります。

運転操作装置

クルーズコントロール

⚠ 警告: クルーズコントロールを使用していることを常に意識し、長時間クルーズコントロールを超えた速度で走行しないでください。この状況でアクセルペダルを離した場合、予想したペースで車両が減速しないことがあります。

クルーズコントロールの取り消し



クルーズコントロールレバーを短く奥に押します。

クルーズコントロールがキャンセルされます。折り畳み式ドライバーディスプレイのインジケーターは消灯しますが、直前に設定していた速度が保存されます。

i 注意: 保存されている前回の速度は、エンジンスイッチをオフにするクリアされます。

また、フットブレーキを踏んだ場合やニュートラルを選択した場合、あるいはアクティブスピードリミッターを選択した場合にもクルーズコントロールがキャンセルされます。

i 注意: エレクトロニックスタビリティコントロールがホイールスピンまたは車両のスリップを検知した場合、またはエレクトロニックスタビリティコントロールをオフにした場合、クルーズコントロールは自動的にキャンセルされます。

運転操作装置 クルーズコントロール

クルーズコントロールの速度を上げる



クルーズコントロールの速度を下げる



ギアチェンジパドルを使用してシフトダウンした場合は、クルーズコントロールは停止しません。

- レバーを短く上に押すと、車速が1 km/h (1mph) 刻みで上がります（選択した単位によります。距離および速度単位、ページ 4.09 を参照してください）。
- または、レバーを上に押し続け、設定したい速度に達したらレバーを離します。
- または、新たに設定したい速度まで加速し、レバーを上に押します。

i 注意: クルーズコントロールレバーを使用して減速した場合、減速を早めるためにギアボックスがシフトダウンする場合があります。

運転操作装置 クルーズコントロール

保存した速度の呼び出し

⚠ 警告: 保存した速度は、周囲の道路や交通状況に合わない限り呼び出さないでください。急加速は危険です。



クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます。

クルーズコントロールは保存した前回の速度に車速を調整します。

運転操作装置

アクティブスピードリミッター (ASL)

速度上限の設定

⚠ 警告: 速度制限を適切に遵守することはドライバーの責務です。

⚠ 警告: アクティブスピードリミッター (ASL) 機能は急な下り坂など、一定の状況下においては車両が速度上限を超えることを許容することができます。

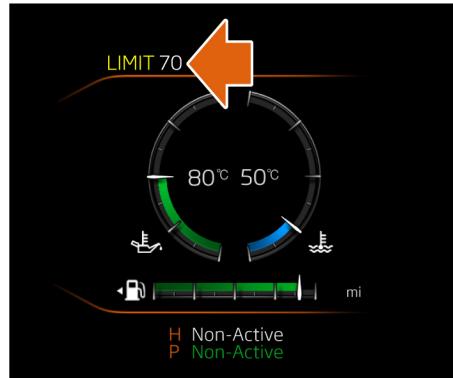
i 注意: 車両が停止しているときでも ASL をアクティブにすることができます。速度上限はデフォルトの速度である 30 km/h (20 mph) に設定されます。

ドライバーは ASL コントロールから速度上限を設定することができます。

速度の選択



1. 車両を最大許容速度まで加速または減速し、レバーを短く下に押して、アクティブスピードリミッター (ASL) をアクティブにします。



2. 速度上限が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

i 注意: 抵抗を感じられる点からさらにスロットルペダルをいっぱいに踏み込むことで、ASL をオーバーライドできます。

運転操作装置 アクティブスピードリミッター（ASL）

アクティブスピードリミッター（ASL）の
キャンセル



アクティブスピードリミッター（ASL）をキャンセルするには、レバーを短く奥に押します。折り畳み式ドライバーディスプレイのインジケーターが消灯します。

運転操作装置

慣らし運転

慣らし運転

新車時、または以下のいずれかの部品を交換したときは、以下の説明に従って慣らし運転を行ってください。

エンジンおよびギアボックス

1,000 km (625 マイル) 走行まで:

- 様々な道路とエンジン回転数で走行してください。
- 道路の制限速度の範囲内で、もしくは 240 km/h (150 mph) 以下で走行してください。
- サーキットでの走行は行わないでください。
- エンジンに過剰な負荷をかけないでください（フルスロットルでの走行）。
- 2,000 rpm 未満のエンジン回転数での走行は避けてください。
- 一定の速度や負荷で長時間走行することは避けてください。
- キックダウンは使用しないでください。
- シフトダウンによって強いエンジンブレーキをかけないでください。
- 高速走行や高負荷走行後は 2 分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

1,000 km (625 マイル) の慣らし運転期間が終了したら、徐々にフルパフォーマンスで使用できるようになります。

i 注意: 慣らし運転中にエンジンやギアボックスの使用制限を守らない場合、早期摩耗や損傷が発生する可能性があります。

i 注意: 慣らし運転に関する説明は、エンジンまたはトランスマッキションの交換後の最初の 1,000 km (625 マイル) にも適用されます。

i 環境: この助言は燃費の向上にも役立つものであり、慣らし運転後の通常の運転スタイルにも取り入れることをお勧めします。

ブレーキ

新しいブレーキには、初期のなじみ期間が必要です。最初の 1,000 km (625 マイル) までは急ブレーキを避けてください。

標準/道路での使用

- 高回転および高負荷走行を行う前にエンジンを暖機してください。エンジンが完全に動作温度に達するまではエンジン回転数が 5,000 rpm を超えないようにしてください。
- 高回転/高負荷走行後は、2 分以上経過するまでエンジンを停止しないでください。
- 10 分以上エンジンをアイドリングしないでください。

運転操作装置

慣らし運転

サーキットでの使用

i 注意: 慣らし運転中にサーキット走行は行わないでください。

サーキット走行を行う場合は、事前にマクラーレン代理店にご相談ください。マクラーレンでは、サーキット走行の前後に車両を点検に出すよう推奨しています。

運転操作装置

給油

燃料の給油

⚠ 警告: 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には火気、裸火、喫煙および携帯電話の使用は禁止されています。給油の前にエンジンを停止してください。

⚠ 警告: 燃料および気化した燃料は、健康を害するおそれがあります。気化した燃料を吸い込んだり、燃料が皮膚や衣服に付着したりしないように注意してください。

フューエルフィラーフラップは左側リアにあります。車両のロック、ロック解除に連動して自動的にロックまたはロック解除されます。

i 注意: 車両がロックされているときにフューエルフィラーフラップを無理に開けようとしないでください。フラップやロックメカニズムが損傷するおそれがあります。

i 注意: フューエルフィラーフラップはエンジンを停止しないとロック解除されません。

ガソリンスタンドの給油機による給油

1. エンジンを停止します。



2. フューエルフィラーフラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。
4. 給油口にノズルを挿入して給油します。推奨燃料については推奨燃料、ページ 2.51 を参照してください。
5. ポンプのノズルがオフになった後は、タンクへの給油を続けれでください。
6. ノズルを取り外します。
7. フューエルフィラーフラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

燃料フィラーパイプを使用した給油

1. エンジンを停止します。



2. フューエルフィラーフラップの後端を押します。ラッチが解除されます。
3. フラップを開けます。
4. 給油口にノズルを挿入して給油します。推奨燃料については推奨燃料、ページ 2.51 を参照してください。
5. ポンプのノズルがオフになった後は、タンクへの給油を続けれでください。
6. ノズルを取り外します。
7. フューエルフィラーフラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

i 注意: この車には給油口キャップはありません。

運転操作装置

給油



4. ツールキットから燃料フィラーパイプを取り出します。燃料フィラーパイプ、ページ 6.09を参照してください。
5. フィラーネックに燃料フィラーパイプを挿入します。
6. 燃料フィラーパイプにノズルを挿入して給油します。推奨燃料については推奨燃料、ページ 2.51を参照してください。
7. 燃料を入れ過ぎないでください。
8. ノズルを取り外します。

警告: 燃料がこぼれたり溢れたりしないように注意してください。こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。

9. 燃料フィラーパイプを取り外し、よく拭いてツールキットに収納します。
10. フューエルフィラーフラップを閉じます。ラッチが掛かる音がします。

推奨燃料

エンジンの性能を最大に引き出すためには、EN 228 規格に適合した 99 RON/88 MON 無鉛ガソリンを使用してください。

99 RON/88 MON が入手できない地域では、EN 228 規格に適合したオクタン値が 95 RON/85 MON 以上の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

i 注意: 99 RON/88 MON 無鉛ガソリンを使用しないと、エンジン性能が制限されます。

i 注意: 給油する燃料の品質に関する情報は給油機に表示されています。

i 注意: 給油機燃料が無鉛ガソリンに関する EN 228 の要件を満たしていない場合や燃料添加剤を使用した場合、エンジンが摩耗・損傷する可能性が高くなります。誤った燃料の使用によって生じた損傷は車両保証の対象外となります。

i 注意: この車両は 10 % を超えるエタノールを含有する燃料の使用には適しません。E85 燃料（85 % エタノール含有）は使用しないでください。この車両は 10 % を超えるエタノールを含有する燃料の使用が必要な装置を装備していません。E85 燃料を使用すると、エンジンと燃料システムに深刻な損傷が発生します。

運転操作装置 給油

i 注意: フューエルタンクに誤った種類の燃料を間違って給油した場合は、エンジンを始動せずに、マクラーレン正規代理店にご連絡ください。

運転操作装置

冬季の走行

冬季の走行

冬のはじめに、マクラーレン代理店で車両を点検することを推奨します。この点検には以下の項目が含まれています。

- 不凍液/防錆剤濃度の点検
- フロントウィンドウウォッシャーシステムへの高濃度ウォッシャーフルードの補充
- バッテリーの点検
- タイヤ交換

ウィンタータイヤ

気温が 7°C (45°F) 以下のときや、雪道または凍結路の走行時はウィンタータイヤを使用してください。アンチロックブレーキシステムとエレクトロニックスタビリティコントロールの効果を最大限に発揮させるためには、ウィンタータイヤを装着する必要があります。

安全なハンドリング特性を維持するために4輪とも同一メーカーおよびトレッドのウィンタータイヤを使用してください。センターインフォティメントタッチスクリーンの車両設定でタイヤタイプを変更します。タイヤの種類、ページ4.17を参照してください。

ウィンタータイヤは非対称ではなく回転方向が指定されているため、タイヤのサイドにある回転方向マークに合わせて装着する必要があります。

i 注意: マクラーレン指定のウィンタータイヤのみを使用してください。

⚠ 警告: トレッドの深さが 4 mm 未満になつたウィンタータイヤは直ちに交換してください。そのようなタイヤは十分なグリップが得られないため冬季使用には不適切であり、使用した場合、事故につながるおそれがあります。

i 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。不適切にジャッキアップした場合、車両を損傷するおそれがあります。

装着したウィンタータイヤに指定されている最高速度に関する助言や情報はマクラーレン代理店にお問い合わせください。ASLシステムを使用して車両の最大速度を制限してください。速度上限の設定、ページ2.46を参照してください。

スノーソックス

マクラーレンは、マクラーレン車用として認定されたスノーソックスのみの使用を推奨します。スノーソックスを装着する場合は、以下の点に注意してください。

- スノーソックスは必ずリアホイールにのみ、かつ左右両方に装着してください。
- メーカーの取付説明書に従います。

スノーソックスのパッケージに記載された最大許容速度を超えないようにしてください。雪道での走行が終わったら速やかにスノーソックスを取り外してください。



インストルメント

概要.....	3.02
概要.....	3.02
タコメーター.....	3.02
スピードメーター.....	3.03
折り畳み式ドライバーディスプレイ.....	3.04
概要.....	3.04
トリップ情報.....	3.05
車両情報.....	3.06
電話.....	3.08
メディア.....	3.09
ナビゲーション.....	3.10
メッセージ.....	3.10
ディスプレイウィンドウ.....	3.14
ギア位置インジケーター.....	3.15
ハンドリングおよびパワートレインモードの表示.....	3.16
エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）モードの表示.....	3.16
オイル温度.....	3.16
クーラント温度.....	3.17
燃料残量および範囲.....	3.18

インストルメント

概要

概要

折り畳み式ドライバーディスプレイはイグニッションをオンになるとアクティブになります。イグニッションのスイッチをオンにする、ページ 2.03 を参照してください。

⚠️ 警告: ディスプレイまたは車両の電気系統が故障している場合、折り畠み式ドライバーディスプレイにメッセージは表示されません。直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。このような状況での車両の使用は危険です。

タコメーター



折り畠み式ドライバーディスプレイがフルディスプレイモードで開かれている場合、タコメーターは常にその中央に表示されます。利用可能なオプションについては、ドライバーディスプレイデバイスマートモード、ページ 4.15 を参照してください。

ディスプレイの赤色の数字はエンジンの最高 RPM を表しています。

スポーツ、トラックパワートレインまたはハンドリングモードが選択されている場合、タコメーターのスタイルは選択したモードを合わせ変更されます。ディスプレイウィンドウ、ページ 3.14 を参照してください。

ℹ️ 注意: 最高 RPM は動的であり、特定の条件下で低下します。例えば、エンジンオイルが通常の動作温度未満である場合、またはニュートラルギアが選択されている場合です。

ℹ️ 注意: エンジンを長時間最高回転数もしくはそれに近い回転数で動作させないでください。最高 RPM に達するとエンジンを保護するために燃料供給が遮断されます。

シフトライト

トラックパワートレインまたはハンドリングモードを選択すると、急加速時にシフトライトが表示されます。シフトライトは、緑色ブロック、赤色ブロックおよび青色ブロックの3つのブロックで構成されています。各ブロックはエンジン回転数が増加すると点灯します。青色ブロックが点灯するポイントを超えてエンジン回転数が増加すると、急加速できません。

インストルメント

概要

スピードメーター



折り畳み式ドライバーディスプレイがフルディスプレイモードで開かれている場合、スピードメーターは常にその中央に表示されます。利用可能なオプションについては、ドライバーディスプレイデプロイメントモード、ページ 4.15を参照してください。

スポーツ、トラックパワートレインまたはハンドリングモードが選択されている場合、スピードメーターのスタイルは選択したモードを合わせ変更されます。ディスプレイウィンドウ、ページ 3.14を参照してください。

i 注意: スピードメーターは、単位をマイルからキロメートルに変更すると、mphからkm/hに切り替わります。距離および速度単位、ページ 4.09を参照してください。

i 注意: システムに通信障害がある場合は、車速は常に0と表示されます。障害を通知するために、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。障害発生時には、状況に合わせた運転を行い、常に車速に気を配ってください。マクラン代理店にお問い合わせください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

概要

警告は、折り畳み式ドライバーディスプレイのポップアップアップウィンドウに表示されます。

保存されているメッセージは、イグニッションがオンのときに随時見ることができます。メッセージ、ページ3.10を参照してください。

⚠️ 警告: 車両が走行中にメニューを操作・閲覧しようとすると、道路や交通状況に対する注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

⚠️ 警告: 警告メッセージを無視しないでください。適切な対応を怠ると、怪我を負ったり車両が損傷するおそれがあります。

時計

現在の時刻が表示されます。詳細については、地域設定、ページ4.07を参照してください。

温度

⚠️ 警告: 表示された温度が氷点よりも高い場合であっても、路面が凍結している可能性があります。常に運転スタイルと速度を天候状況に合わせる必要があります。

温度は現在の外気温です。外気温の変化が表示されるまでに若干の時差があります。

外気温が3°C(37°F)より下がると低温警告メッセージが表示され、メッセージが表示された後で温度の表示色が変化します。

外気温が0°C(32°F)より下がると凍結警告が表示されます。

メニュー



メニューのナビゲーション

1. コントロールレバーを上または下に動かし（スクロール+または-）選択する項目をハイライトさせます。
2. レバーを手前(FORWARD)に引いて選択した項目に入ります。
3. 次に、一覧の中から見たいトピックを選び、コントロールレバーを上または下に動かして（スクロール+または-）目的のトピックをハイライトさせます。
4. 構造内の次のメニューに移動するには、レバーを手前(FORWARD)に引きます。
5. 各構造の最後に情報または画面の表示があり、ここで設定の変更または情報の表示ができます。

ステアリングコラムの左側にあるコントロールレバーを使用することにより、メニュー構造を操作することができます。

以下のカテゴリーが利用可能です。

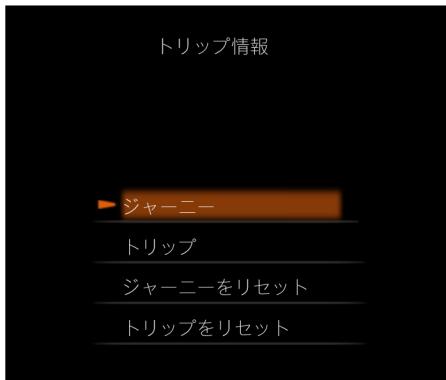
- トリップ情報、ページ3.05
- 車両情報、ページ3.06
- 電話、ページ3.08
- メディア、ページ3.09
- ナビゲーション、ページ3.10

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ



- 必要な機能の選択または設定を行った場合、レバーを手前 (FORWARD) に引いて確定します。

トリップ情報



折り畳み式ドライバーディスプレイには、次のトリップデータを表示できます。

- トリップ (開始後) , ページ 3.05
- トリップ (長期) , ページ 3.06

トリップデータをゼロにリセットするには、メニューから必要なオプションを選択し、レバーを手前 (FORWARD) に引いて確定します。

トリップ (開始後)



今回の走行距離、時間、平均燃料消費量、および平均速度を表示します。

この情報はエンジンのスイッチをオフにして約2時間以上経過した場合もゼロにリセットされます。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

トリップ（長期）



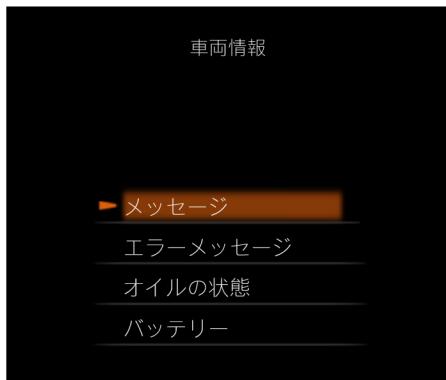
前回のトリップメーターリセット後の走行距離、時間、平均燃料消費量、および平均速度を表示します。

オドメーター

オドメーターは各トリップ画面に表示され、車両が走行した合計距離を表示します。

車両情報

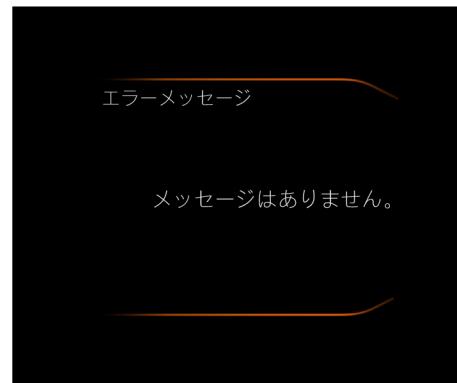
概要



車両情報画面では以下の項目を選択できます。

- メッセージ, ページ 3.06
- タイヤ, ページ 3.07
- オイルの状態, ページ 3.07
- バッテリー, ページ 3.07
- サービス, ページ 3.08
- 車両識別, ページ 3.08

メッセージ



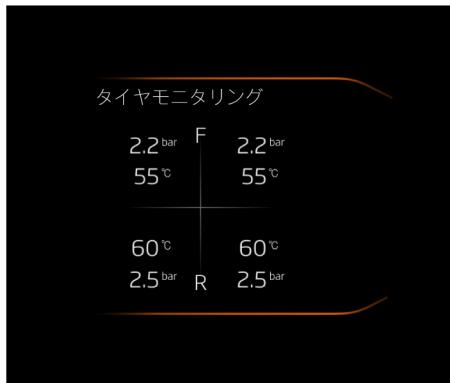
この画面はログに記録されたエラーメッセージがないことを確認します。

ログにエラーが記録されている場合は、この画面にエラーメッセージとメッセージをスクロールするための矢印が表示されます。

表示される可能性のあるメッセージとその意味について、詳しくはメッセージ, ページ 3.10を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

タイヤ



このディスプレイには4本のタイヤそれぞれの空気圧および温度が表示されます。白色で表示されている場合、何もする必要はありません。アンバー色または赤色の文字で表示されている場合、速やかにタイヤを検査し、空気圧を調整してください。

タイヤを点検し、減圧または温度上昇の原因を確認してください。

オイルの状態



オイルのレベルを示すゲージがオイル温度とともに表示されます。

エンジンオイルレベルの点検方法については、エンジンオイルの点検、ページ 6.02を参照してください。

バッテリー



バッテリーの充電状態を示すゲージが表示されます。

バッテリーを充電するには、バッテリーの充電、ページ 6.11を参照してください。

エンジンを始動したりバッテリーを充電したりせずに駐車できる時間の長さについては、駐車日数、ページ 2.02を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

サービス

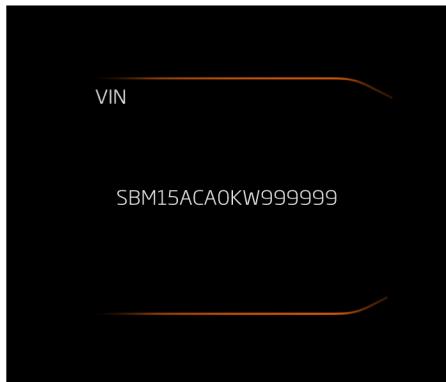


整備日まで約 30 日または 1,000 km (625 マイル) になると、上記画面が表示されます。

それ以降、イグニッションスイッチをオンにするたびに、減少していく時間/距離とともにこのメッセージが表示されます。整備を受けると、マクラーレン代理店がこの画面をリセットします。

整備の期限を過ぎると、期限を超過した距離がこの画面に表示されます。

車両識別



車両識別番号 (VIN) を表示します。

電話



レバーを手前 (FORWARD) に引いてさらにオプションにアクセスします。

以下のオプションを利用できます。

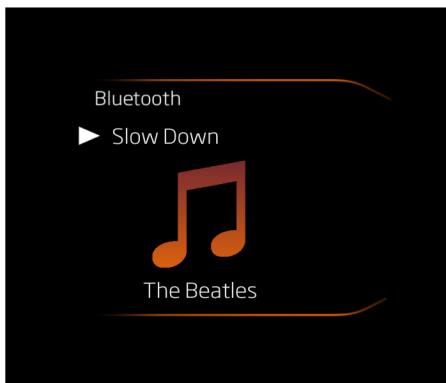
- リダイヤル
- お気に入り
- 履歴

電話のペアリングおよび設定の詳細については、電話、ページ 4.21 を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

i 注意: 電話メニュー内で利用可能なオプションは、電話のモデルによって、およびお客様のマクラーレンに接続中に発信または受信した通話によって異なる場合があります。

メディア



現在再生中の曲またはラジオ局の詳細が表示されます。

レバーを手前 (FORWARD) に引いてさらにオプションにアクセスします。

以下のオプションを利用できます。

- Play (再生)
- Pause (一時停止)
- Next (次へ)
- Previous (前へ)

さまざまなソースのメディアにアクセスする方法の詳細については、メディア、ページ 4.27 を参照してください。

i 注意: メディアメニュー内で利用可能なオプションは、現在再生中のソースによって異なる場合があります。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

ナビゲーション



ルート案内がセンターインフォテイメントタッチスクリーンを使用して開始された場合、進路変更ごとの最新案内が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。

ルートの設定およびナビゲーション機能の使用的の詳細については、ナビゲーション、ページ4.32を参照してください。

進路変更ごとの表示には、次の情報があります。

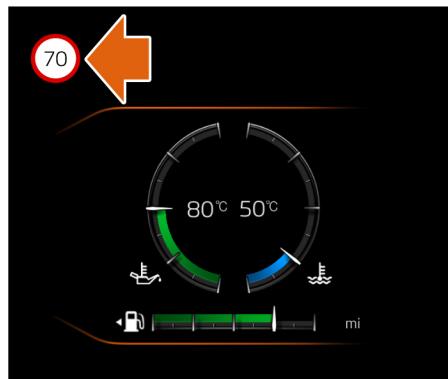
1. 次の進路方向と距離

2. 目的地までの残りの合計距離

3. 目的地までの残りの合計時間



注意: 目的地をセンターインフォテイメントタッチスクリーンで設定していない場合、コンパスと現在の道路名のみが表示されます。



可能な場合、現在の道路の速度制限が折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。



注意: この速度制限はあくまで参考であり、一時的または新しい速度制限が設定されている可能性があるため、必ず現地の速度制限情報を確認してください。

メッセージ

折り畳み式ドライバーディスプレイに、オーナーズハンドブックを参照するように指示するメッセージが表示されることがあります。

重大度を示すメッセージとともにアイコンが表示されます。



操作が必要でない情報。



操作が必要な情報。



低リスクの障害情報。



高リスクの障害情報。



注意: メッセージによっては、特定の機能で障害が発生していることを示すアイコンが異なる場合があります。

メッセージによっては、オーナーズハンドブックを参照してください。下記の表は、それらのメッセージが表示されたときにどうすべきかを示します。



警告: 警告メッセージを無視しないでください。適切な対応を怠ると、怪我を負ったり車両が損傷するおそれがあります。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

メッセージ	メッセージ
ブレーキフルードが少なくなっています	ブレーキフルードを補充してください。ブレーキフルード, ページ 6.06を参照してください。
ステアリングフルードが少なくなっています	パワーステアリングフルードを補充してください。パワーステアリングフルード, ページ 6.05を参照してください。
左前輪タイヤ圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
右前輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
左後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が低くなっています	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
クラッチの温度が高すぎます	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じことがあります。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。
クラッチ温度が高いです	この車は極端な条件のもとで走行が行われました。このような条件は、極度の坂道発進や急加速の繰り返し、急な上り坂での長時間に渡る低速走行によって生じことがあります。その結果、ギアボックスがエンジントルクを制限することがあります。車両を停止し、ニュートラルギアでエンジンを数分間アイドリングしてください。
ESC をオフにできません	ESC の停止条件が満たされていません。エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) , ページ 2.35を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

メッセージ	メッセージ
左前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
右前輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
左後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
右後輪タイヤの空気圧が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
ESC を減少できません	ESC の低減条件が満たされていません。エレクトロニックスタビリティコントロール (ESC) , ページ 2.35を参照してください。
ローンチモードを利用できません	発進が可能な条件が満たされていません。発進コントロール, ページ 2.26を参照してください。
ローンチモードが中断されました	発進コントロール, ページ 2.26を参照してください。
現在の走行速度ではクルーズ制御は利用できません	クルーズコントロールの使用, ページ 2.42を参照してください。
左前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。
右前輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検, ページ 6.29を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

メッセージ	メッセージ
左後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検、ページ 6.29を参照してください。
右後輪タイヤの温度が高すぎます	車両を停止して、ホイールとタイヤを点検してください。ホイールとタイヤの点検、ページ 6.29を参照してください。
対処法	車両が十分な電圧を供給することができない場合、パワーセービングモードが有効になります。室内温度制御とステアリングは低減効果で作動します。パワーセービングモード、ページ 2.02を参照してください。
キーバッテリーの残量が極めて低いです	リモコンキーの電池の交換、ページ 6.21を参照してください。
キーの電池残量低下	リモコンキーの電池の交換、ページ 6.21を参照してください。
ガラスウォッシャー液が少なくなっています	フロントウインドウォッシャーフルードを補充してください。フロントウインドウォッシャー、ページ 6.07を参照してください。
エアブレーキシステムを一時的に利用できません	アクティブリーアウинг、ページ 2.38を参照してください。
エアブレーキが一時的に抑止されました	アクティブリーアウинг、ページ 2.38を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

ディスプレイウィンドウ

折り畳み式ドライバーディスプレイの中央部分に表示される情報は、選択したモードによって異なります。以下を参照してください。

- ・ ノンアクティブ/コンフォートモード、ページ 3.14
- ・ スポーツモード、ページ 3.14
- ・ トラックモード、ページ 3.14
- ・ レースモード、ページ 3.15

ノンアクティブ/コンフォートモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がノンアクティブ/コンフォートモードの場合、上図の折り畳み式ドライバーディスプレイが表示されます。

スポーツモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がスポーツモードの場合、上図の折り畳み式ドライバーディスプレイが表示されます。

トラックモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がトラックモードの場合、上図の折り畳み式ドライバーディスプレイが表示されます。

シフトライトの詳細については、シフトライト、ページ 3.02を参照してください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

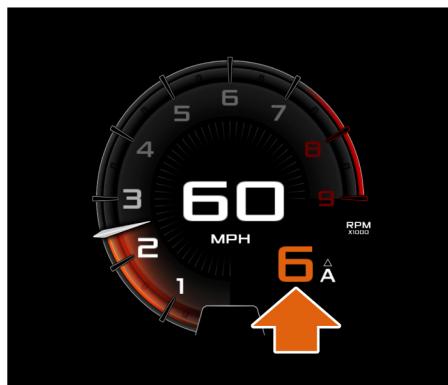
レースモード



ディスプレイウィンドウには、車両のコントロール設定および現在のパフォーマンス値が表示されます。車両がレースモードの場合、上図の折り畳み式ドライバーディスプレイが表示されます。

シフトライトの詳細については、シフトライト、ページ 3.02を参照してください。

ギア位置インジケーター



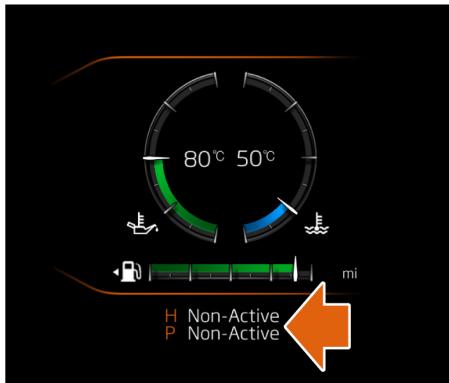
ギアインジケーターは現在選択しているギア位置を表示します。ニュートラル、ギア1~7、またはリバース。インジケーターは、オートマチックまたはマニュアルモードが選択されているかどうかに応じて、AまたはMが表示されます。

車両がスポーツまたはトラックモードの場合、ギア位置インジケーターは折り畳み式ドライバーディスプレイの中心に移動してスピードメーターと位置が換わります。スポーツモード、ページ 3.14とトラックモード、ページ 3.14を参照してください。

詳しくは、マニュアル/オートマチックモード、ページ 2.18を参照してください。

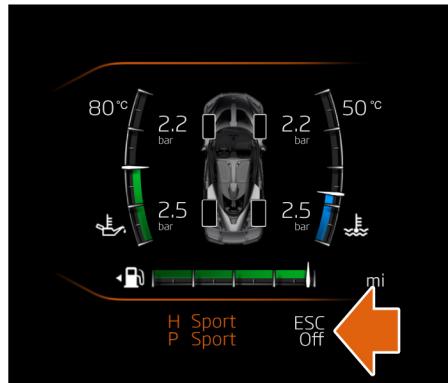
インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

ハンドリングおよびパワートレインモードの表示



ACTIVE（アクティブ）ボタンを押していない（アクティブダイナミクスパネルがオフの）場合、ハンドリングおよびパワートレインディスプレイはともにNon-Active（ノンアクティブ）と白字で表示されます。選択しているハンドリングおよびパワートレインモードが表示されている場合でも、すべての前提条件が満たされていないと、モードを切り替えることはできません。利用可能な各種設定に関する詳しい説明は、アクティブダイナミクスコントロール、ページ 2.21を参照してください。

エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）モードの表示



選択しているエレクトロニックスタビリティコントロールモードを表示します。利用可能な各種設定に関する詳しい説明は、アクティブダイナミクスコントロール、ページ 2.21を参照してください。

オイル温度



オイル温度は、折り畳み式ドライバーディスプレイの右側にカラーゲージ形式で表示されます。

エンジンを始動するとまず、ゲージは青く表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色が標準温度を示す緑色に変化します。

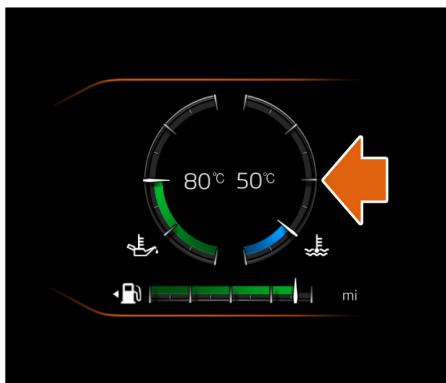
ゲージがアンバーに変わったときは高温を示し、過熱時はゲージが赤く変わって表示します。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

ゲージが高温のアンバーを示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けゲージが赤くなった場合、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

クーラント温度



クーラント温度は、折り畳み式ドライバーディスプレイの右側にカラーゲージ形式で表示されます。

エンジンを始動するとまず、ゲージは青く表示されます。エンジンが暖まるにつれて、その色が標準温度を示す緑色に変化します。

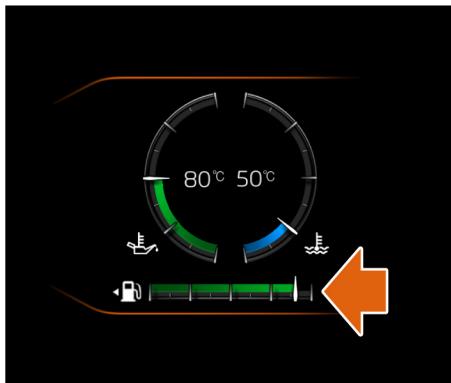
ゲージがアンバーに変わったときは高温を示し、過熱時はゲージが赤く変わって表示します。

ゲージが高温のアンバーを示した場合は、標準温度になるまで減速してください。温度が上昇を続けゲージが赤くなった場合、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告メッセージが表示されます。

安全に速やかに車両を停止し、マクラーレン代理店にご連絡ください。

インストルメント 折り畳み式ドライバーディスプレイ

燃料残量および範囲



燃料残量

燃料残量は、折り畳み式ドライバーディスプレイの右側にゲージ形式で表示されます。

到達可能距離（燃料）

到達可能距離は、次回の給油が必要になるまでの予想航続距離です。



センターディスプレイ

はじめに.....	4.02
著作権.....	4.02
補足情報.....	4.02
システムコントロール.....	4.02
概要.....	4.04
設定.....	4.05
概要.....	4.05
一般設定.....	4.05
地域設定.....	4.07
接続設定.....	4.10
オーディオと音量.....	4.11
ラジオおよびメディアの設定.....	4.12
Bluetooth Phone 設定.....	4.13
ライト設定.....	4.13
車両.....	4.14
ナビゲーション.....	4.18
カメラ.....	4.20
電話.....	4.21
概要.....	4.21
デバイスのペアリング/接続.....	4.22
電話をかける.....	4.23
通話を受信.....	4.25
通話中のオプション.....	4.25
通話の終了.....	4.25
連絡先.....	4.26
メディア.....	4.27
概要.....	4.27
メディアコントロール.....	4.28
外部デバイスへの接続.....	4.29
USB および iPod.....	4.29
ストレージ.....	4.30
Bluetooth オーディオ.....	4.31
AUX.....	4.31
ナビゲーション.....	4.32
概要.....	4.32
安全性.....	4.32
ナビゲーションの使用.....	4.33
メニューの使用.....	4.34
ラジオ.....	4.35
概要.....	4.35
ラジオコントロール.....	4.35
ラジオデータシステム (RDS)	4.36
マクラーレントラックテレメトリー.....	4.37
概要.....	4.37
アプリケーションの起動.....	4.37
設定.....	4.38
ドライブ.....	4.38
セッションの終了.....	4.40
データの確認.....	4.40
テレメトリデータのインポート.....	4.41
テレメトリデータのエクスポート.....	4.41
トラックの編集.....	4.42
音声認識.....	4.43
概要.....	4.43

センターディスプレイ はじめに

著作権

McLaren Automotive は本書で取り扱われるシステムを常時更新しています。このため、いつでも予告なしに仕様を変更する権利を留保します。

本書で提供される情報はすべて正確なものとなるように最大限の努力が払われていますが、 McLaren Automotive またはその販売店は不正確な情報またはそれに生じる結果に対して、当事者の怠慢によって生じた人的傷害を除く一切の責任を負いません。

補足情報

Wi-Fi 商標の所有権はWi-Fi アライアンス事業者団体に帰属します。メーカーは、自社認定製品が IEEE 802.11 規格に基づく WLAN（無線ローカルエリアネットワーク）デバイスクラスに属することを示すために、Wi-Fi商標を使用する場合があります。

Bluetooth® ワードマークとロゴは Bluetooth® SIG Inc. の所有物であり、McLaren Automotive Ltd. はこれらのマークをライセンスの下に使用しています。Bluetooth QDID: B019632、B017641、B017642。

他の商標および商品名はそれぞれの所有者の商標および商品名です。

システムコントロール

イグニッションをオンにするとマクラーレンインターフォティメントシステム (MIS) が起動し、利用可能であれば、前回使用していたオーディオソースが再開されます。前回使用していたソースを利用できない場合、MIS はホーム画面を表示します。前回スタンバイモードだった場合は、スタンバイモードで起動します。



を押すと MIS が完全に起動し、ホーム画面が表示されます。

センターディスプレイ はじめに



1. ホーム、オン/スタンバイ
2. 音量
3. ホームメニュー
4. クライメートコントロール

ホーム、オン/スタンバイ

MIS をオンにするには、ホームボタン (1) を押します。

MIS がアクティブになっているときに、ボタンを短く押すと、システムのどの画面からでもホーム画面に戻ります。

ホームボタンを3秒間押し続けると、MIS がスタンバイモードに切り替わります。スタンバイモードからオンに切り替えるには、ホームボタンを押すだけです。

音量

音量を上げるにはコントロール (2) を時計回りに回し、音量を下げるには反時計回りに回します。

設定した音量を示す水平バーが画面に短時間表示されます。

音量コントロールを使用して、現在アクティブなシステムの音量を設定します。現在アクティブなシステム/ソースを示すアイコンが音量バーとともに表示されます。

注意: 音量コントロールのツマミを回して、音量を調整できます。一時的なオーディオソースの場合（電話呼び出しなど）、そのソースがアクティブなときに音量を調整できます。

ホームメニュー

ホームメニュー (3) からアクセスできる機能の詳細については、概要、ページ 4.04 を参照してください。

戻る

画面上の戻るボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。このボタンの機能は状況に応じて異なります。現在選択しているシステムとアクティブな機能によって変化します。

ステータスバー

特定のシステムが作動しているとき、または機能がアクティブになっているときに、多くのアイコンが画面上部に表示されます。

電話の信号強度インジケーター

デバイスが接続されている場合、Bluetooth® アイコンが白色で表示されます。Bluetooth® デバイスが接続されていない場合、アイコンは表示されません。

以下のアイコンは、接続されたメディアデバイスと統合されたメディアシステムのアイコンと組み合わせて表示され、ステータスを示します。

メディア再生中

メディア一時停止

メディアミュート

センターディスプレイ はじめに

概要



- リアビューカメラ (RVC) , ページ 2.13
- 電子ユーザー マニュアル, ページ .3

i 注意: 車両の仕様に応じて利用可能な機能は異なる場合があります。

アクセスする機能を表すアイコンにタッチします。

- 設定, ページ 4.05
- 電話, ページ 4.21
- メディア, ページ 4.27
- ナビゲーション, ページ 4.32
- ラジオ, ページ 4.35
- マクラーレントラックテレメトリ, ページ 4.37
- エレクトロニックス タビリティ コントロール (ESC) , ページ 2.35

センターディスプレイ 設定

概要

 ホームメニューから アイコンを押して、
設定メニューを表示します。



設定画面から以下の項目を選択できます。

- 一般設定, ページ 4.05
- 地域設定, ページ 4.07
- 接続設定, ページ 4.10
- オーディオと音量, ページ 4.11
- ラジオおよびメディアの設定, ページ 4.12
- Bluetooth Phone 設定, ページ 4.13
- 車両, ページ 4.14

- ライト設定, ページ 4.13
- ナビゲーション, ページ 4.18
- カメラ, ページ 4.20

 注意: 車両の仕様に応じて利用可能な設定
が異なる場合があります。

一般設定



以下の一般設定を使用できます。

- ホームアプリ並べ替え, ページ 4.06
- 法律情報, ページ 4.06
- 工場出荷時の設定に復元, ページ 4.06
- 工場出荷時に初期化, ページ 4.06
- システムバージョン, ページ 4.06

センターディスプレイ 設定

ホームアプリ並べ替え



ホーム画面にアプリケーションが表示される順序は、好みに合わせて並べ替えることができます。

アプリケーションにタッチし、リスト内の別の位置までドラッグして移動します。

法律情報

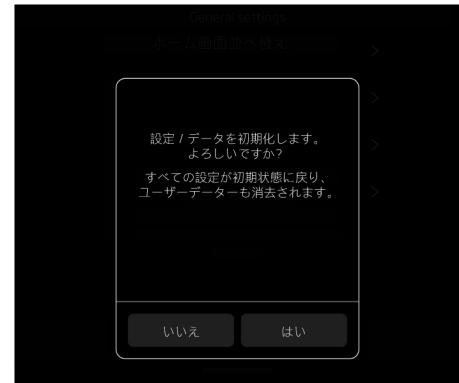
このオプションを選択すると、車両およびマクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）に関する利用可能な法律情報が表示されます。

工場出荷時の設定に復元



はいを選択すると、車両およびMISのすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

工場出荷時に初期化



はいを選択すると、すべてのデータが消去され、車両およびMISのすべての設定が工場出荷時の設定にリセットされます。

システムバージョン

MISにインストールされているソフトウェアバージョンを表示します。

センターディスプレイ 設定

地域設定



以下の地域設定を使用できます。

- 言語, ページ 4.07
- 日付書式, ページ 4.08
- 時間書式, ページ 4.08
- 時間調整, ページ 4.08
- 距離および速度単位, ページ 4.09
- 燃料単位, ページ 4.09
- 温度単位, ページ 4.09
- 圧力単位, ページ 4.10

言語



この画面では使用する言語を設定します。

以下の選択肢があります。

- アラビア語 (サウジ)
- 中国語 (広東語)
- 中国語 (北京語)
- チエコ語
- オランダ語
- 英語 (オーストラリア)
- 英語 (英国)
- 英語 (米国)

- フランス語
- ドイツ語
- ギリシャ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- ポーランド語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- ロシア語
- スペイン語
- タイ語
- トルコ語

センターディスプレイ 設定

日付書式



次の日付書式から選択します。

- DD-MM-YYYY
- MM-DD-YYYY
- YYYY-MM-DD

時間書式



12 時間形式または 24 時間形式を選択します。

時間調整

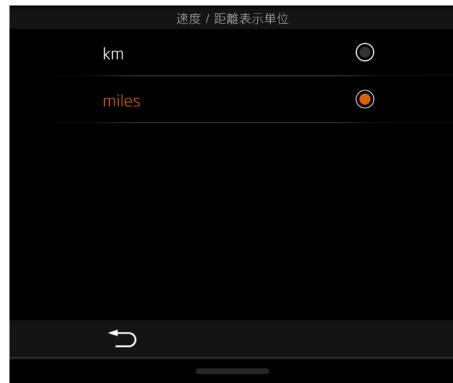


GPS同期を選択すると、GPS信号を使用して時間が自動的に調整されます。GPS同期が有効な場合、オンがハイライト表示されます。

時間を手動で調整するには、GPS同期をオフに設定する必要があります。

センターディスプレイ 設定

距離および速度単位



キロメートルまたはマイルを選択します。

燃料単位



L/100 km、km/L、mpg (UK) または mpg (US) を選択します。

温度単位



華氏または摂氏を選択します。

センターディスプレイ 設定

圧力単位



kPa、PSI、またはbarを選択します。

接続設定



以下の接続設定を使用できます。

- Bluetooth, ページ 4.10
- デバイスのペアリング/接続, ページ 4.22
- Bluetooth 自動ペアリング, ページ 4.10
- Bluetooth PIN コード変更, ページ 4.10
- ナビのデバイス名, ページ 4.10
- ナビのデバイスアドレス, ページ 4.10

Bluetooth

Bluetoothにタッチすると、機能のオンとオフが切り替わります。

Bluetooth 自動ペアリング

Bluetooth®自動ペアリングがオンの場合、USB経由で接続された（まだシステムにペアリングされていない）Bluetooth®対応デバイスを自動的にペアリングすることができます。

この機能は、デバイスが対応している場合にのみ利用できます（iOS デバイスのみ）。

Bluetooth PIN コード変更

このオプションを選択すると、Bluetooth® PINコードの表示やオンスクリーンキーボードを使用して変更が行えます。コードはデフォルトで0000に設定されています。

ナビのデバイス名

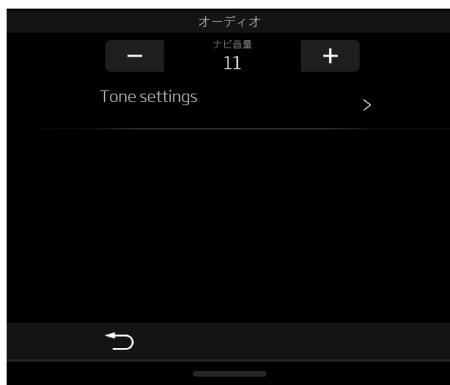
このオプションを選択すると、Bluetooth®名の表示やオンスクリーンキーボードを使用して変更が行えます。

ナビのデバイスアドレス

このオプションを選択すると、Bluetooth® MACアドレスを表示できます。

センターディスプレイ 設定

オーディオと音量



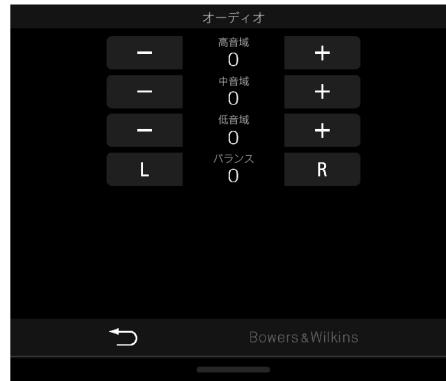
以下のオーディオと音量を使用できます。

- ナビ音量, ページ 4.11
- オーディオ設定, ページ 4.11

ナビ音量

ナビ音量の横にある+または-アイコンを使用して、ナビ音量を目的のレベルに調整します。音量レベルは1刻みで0～+15まで設定できます。

オーディオ設定



オーディオと音量設定は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のすべての機能に適用されます。



注意: オーディオ設定には、ラジオやメディア内の各システムから アイコンを押してアクセスすることもできます。

高音

高音の横にある+または-アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0～+9または0～-9まで設定できます。

中音

中音の横にある+または-アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0～+9または0～-9まで設定できます。

低音

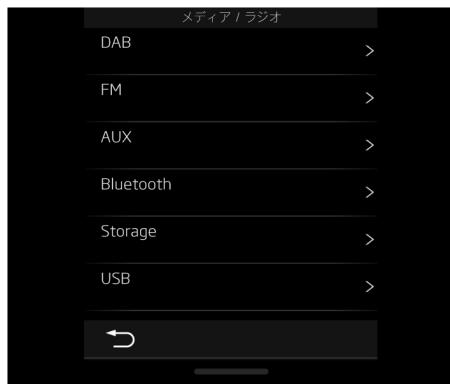
低音の横にある+または-アイコンにタッチして、希望するサウンド再生品質を実現します。範囲は1ずつ増減させて0～+9または0～-9まで設定できます。

バランス

バランスの横にある+または-アイコンにタッチして、希望するスピーカーのサウンド出力を実現します。範囲は1ずつ増減させて0～L9または0～R9まで設定できます。

センターディスプレイ 設定

ラジオおよびメディアの設定



以下のラジオおよびメディアの設定を使用できます。

- DAB, ページ 4.12
- FM (RDS) , ページ 4.12
- AUX, ページ 4.12
- Bluetooth Phone 設定, ページ 4.13
- ストレージ, ページ 4.12
- USB, ページ 4.12

DAB

お客様の国で使用できる場合、Lバンドのチューニングをオンに設定できます。

現在チューニングされているDAB放送局の受信が低下または喪失したときに代替DAB放送への自動チューニングを有効にするには、DAB-DABリンクをオンに設定します。

現在チューニングされているDAB放送局の受信が低下または喪失したときに代替FM放送への自動チューニングを有効にするには、DAB-FMリンクをオンに設定します。

オンを選択してDAB関連サービスを有効にします。

オフを選択すると、機能が無効になります。

FM (RDS)

ラジオデータシステム (RDS) とは、デジタルデータを FM 信号と同時にラジオ受信機に送信できるシステムです。

AF機能では、最も強い信号を自動的に選択して受信します。車両がある送信機から遠ざかり、別の送信機に近づくと、AFは受信を最良の状態に保つために送信機を切り替えます。この機能を有効にするには、AF Search (AF検索) をオンにします。代替周波数検索を地域の送信に制限するには、AFReg (AF地域) を選択します。無効にするには、オフを選択します。

交通プログラム (TP) は、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。この機能を有効または無効にするには、Auto TP seek (オート TP シーク) をタッチしてオンとオフを切り替えます。

AUX

アナログ音声信号の入力ゲインを調整するには、このオプションを選択します。

ストレージ

利用可能なストレージ領域の表示、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) に保存されているファイルの管理、およびファイルの消去を行うには、このオプションを選択します。

USB

接続されたUSBデバイスに保存されているファイルの表示および管理を行うには、このオプションを選択します。

センターディスプレイ 設定

Bluetooth Phone 設定



以下の Bluetooth® Phone 設定を使用できます。

- デバイスのペアリング/接続、ページ 4.22
- 自動応答、ページ 4.13
- 電話音量、ページ 4.13
- 着信音レベル、ページ 4.13
- マイクレベル、ページ 4.13
- ソート順、ページ 4.13

自動応答

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を有効にして自動的に着信通話に応答できるようにするには、この機能を選択します。+または-アイコンを使用して、自動応答を実行するまでの時間遅延を調整します。範囲は1秒刻みで1~30秒で設定できます。

電話音量

+または-アイコンを使用して、電話機の音量を目的のレベルに調整します。音量レベルは1刻みで0~+38まで設定できます。

着信音レベル

+または-アイコンを使用して、着信通話アラート音量を目的のレベルに調整します。音量レベルは1刻みで0~+38まで設定できます。

マイクレベル

+または-アイコンを使用して、マイクレベルを調整します。音量レベルは1刻みで-10~+10まで設定できます。

ソート順

連絡先を名または姓のいずれで並べるかを選択します。

ライト設定



乗車前/降車後ライトは、車両がロック解除およびロックされているときにエクステリアランプを点灯させます。これらの機能を有効にするには、それぞれの時間を15秒、30秒、45秒、または60秒に設定します。無効にするには、オフを選択します。

スタティックアダプティブヘッドライトは、コーナリング時にビームを調整し、進行方向を強く照らします。この機能を有効にするにはスタティックアダプティブヘッドライトをオンに設定し、無効にするにはオフを選択します。

センターディスプレイ 設定

夜間照明により、ヘッドライトがオンのときは低レベルのインテリアランプを提供します。有効にするには、1~7の必要なレベルを選択します。無効にするには、オフを選択します。

フットウェルおよび車内灯は、必要に応じてオンまたはオフに設定できます。

この機能を有効にするには、ムードライトを選択してオンを選択し、必要に応じて色と輝度を調整します。

車両

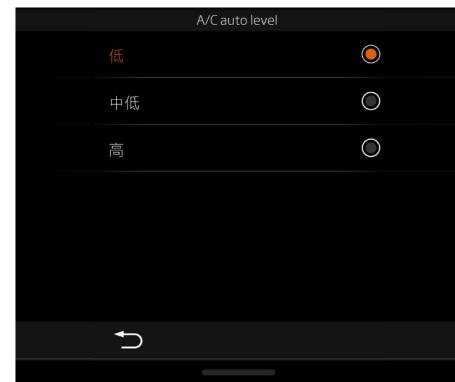


以下の車両設定を使用できます。

- A/C auto level (A/C 自動レベル), ページ 4.14
- ドライバディスプレイデプロイメントモード, ページ 4.15
- リバースミラーディップ, ページ 4.15
- カメラのガイドライン, ページ 4.16
- ギアシフトモード (PSC), ページ 4.16
- 自動アラーム, ページ 4.16
- 自動ドアロック, ページ 4.16

- 自動ミラー開閉, ページ 4.16
- ドアロック解除, ページ 4.16
- サイレントドアロック, ページ 4.16
- タイヤの種類, ページ 4.17
- バレットモード, ページ 4.17
- ワイパー モード, ページ 4.18
- ワイパー 感度, ページ 4.18
- 速度制限ディスプレイ, ページ 4.18

A/C auto level (A/C 自動レベル)



選択した A/C 自動レベルが自動モードの場合、室内温度制御システムで使用されるファン速度に影響を与えます。

センターディスプレイ 設定

好みに応じて低、中または高を選択します。

ドライバディスプレイデバイスマウントモード



折り畳み式ドライバーディスプレイを設定すると、特定のパワートレインまたはハンドリングモードでスリムディスプレイモードに自動的に折りたたみ、スリムディスプレイモードを維持するか、常にフルディスプレイモードを維持するように設定できます。

常に折込済みを選択すると、折り畳み式ドライバーディスプレイはスリムディスプレイモードのままになります。

スポーツとトラックモードで折り込むを選択すると、折り畳み式ドライバーディスプレイはスポーツまたはトラックのパワートレインまたはハンドリングモードのいずれでもスリムディスプレイモードに折りたたまれます。

トラックモードとレースモードで折り込むを選択すると、折り畳み式ドライバーディスプレイはトラックまたはレースのパワートレインまたはハンドリングモードのいずれでもスリムディスプレイモードに折りたたまれます。

常に開くを選択すると、スリムディスプレイモードはフルディスプレイモードのままになります。

リバースミラーディップ



オフ、両側または助手席側を選択します。

オフ-リバースギアにシフトしてもミラーディップは行われません。

両側-リバースギアにシフトすると両方のミラーが下向きになります。

助手席側-リバースギアにシフトすると助手席側のミラーが下向きになります。

リバースギアへのシフトに連動したミラーのディップ量を設定するには:

1. イグニッションスイッチをオンにします。
2. クラスターのミラーディップセクションで両側または助手席側を選択します。
3. ブレーキペダルを踏んでリバースギアにシフトします。
4. 設定したい位置にミラーを調整します。ミラーの調整、ページ 1.23 を参照してください。
5. ギアをリバース以外にします。

次にリバースギアにシフトしたときには、車両が自動的にミラーを事前に設定したオフセット分だけ標準位置から移動させます。

センターディスプレイ 設定

カメラのガイドライン

カメラのガイドラインをオンに設定すると、ライブビデオ画像には、色付きのグリッド線が表示されます。このグリッドは車両のリアバンパーと障害物の距離を測るためにガイドとして使用できます。この機能を無効にするには、オフを選択します。

ギアシフトモード（PSC）

ギアシフトモード（PSC）は音が鳴るシフトインジケーターです。オンを選択すると、マニュアルギアボックスモードでフルスロットルの加速中に、最適なパフォーマンスを維持するためにシフトアップが必要になると、PSCが音を鳴らして知らせます。

オフを選択すると、PSC機能は無効になります。

自動アラーム

自動アラームをオンに設定した場合、すべてのドアおよびサービスカバーを完全に閉じて、車両のロックを30秒間解除したままになると、自動的に車両がロックされ、アラーム機能が作動します。この機能を無効にするには、オフを選択します。

自動ドアロック

購入時の車両は自動ドアロックがオンに設定されています。

この車両のドアは走行を開始すると自動的にロックされます。

この機能を無効にするには、オフを選択します。ドアは手動でロックしない限り走行を開始した後もロックされません。

自動ミラー開閉

オンを選択した場合、車両をロックすると外部ミラーが折りたたまれ、ドアを開けると展開されます。オフを選択した場合、ミラーは走行位置のままとなります。

ドアロック解除



運転席側を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、運転席ドアのロックのみが解除されます。

両側を選択した場合は、リモコンキーまたはドアボタンで車両のロックを解除すると、両方のドアのロックが解除されます。

運転席側または両側のどちらを選択しても、すべてのドアがロックされます。

サイレントドアロック

オンを選択すると、キーレスエントリーシステムを使用してロックまたはロック解除した際の方向指示器による表示が無効になります。

オフを選択すると、車両のロックまたはロック解除の際に、その方法にかかわらず方向指示器が必ず点滅します。

その他のロックおよびロック解除機能はアクティブのままでです。

センターディスプレイ 設定

タイヤの種類



この画面は、使用できるすべてのタイヤタイプを表示します。車両に装着されているタイヤを選択してください。

バレットモード



バレットモードをオンになると、車速は55km/h (35mph) に制限され、アクティブダイナミクスパネルは無効になって、サービスカバーはロックされたままになり、折り畳み式ドライバーディスプレイに確認メッセージが表示されます。

バレットモードを切り替えるには、バレットモードを選択した後、PINコードを入力する必要があります。



オンスクリーンキーパッドを使用して、4桁のPINコードを入力し、決定にタッチして確定します。番号を入力するたびに、番号がアスタリスクで表示されます。

工場で設定されたPINコードは0000です。初めてバレットモードをオンにする場合は、このPINコードを使用します。このPINコードはできるだけ早い機会に変更してください。

センターディスプレイ 設定



PIN コード変更を選択し、オンスクリーンキーパッドを使用して古い PIN コードを入力し、続けて新しい PIN コードを入力し、決定にタップして確定します。

バレットモードがオ n の場合は、PIN コードを入力してバレットモードをオフに切り替えます。

ワイパームード

自動または時間指定を選択します。

自動を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は雨滴センサーによって制御されます。雨滴センサーの感度の調整方法については、ワイパー感度、ページ 4.18 を参照してください。

時間指定を選択すると、自動位置でのワイパーの動作は間欠ワイパーになります。

ワイパー感度

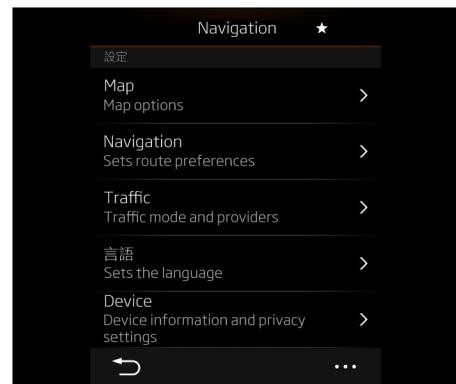


ワイパー動作の好みに合わせて感度レベルを選択します。この設定は雨滴センサーの感度レベルに適用され、断続的なワイパー作動時間の遅延には影響しません。

速度制限ディスプレイ

オ n を選択したときは、現在の道路の速度制限が取得できる場合は、それが折り畳み式ドライバー ディスプレイに表示されます。

ナビゲーション



以下のナビゲーション設定を使用できます。

- 現在地、ページ 4.18
- ナビゲーション、ページ 4.19
- 交通情報、ページ 4.19
- Device (デバイス)、ページ 4.19

現在地

以下の設定を使用すると、地図上に表示される表示および詳細レベルを調整できます。

センターディスプレイ 設定

Driving Map View (運転地図表示)

トラックアップを選択すると、2D ビューが表示され、車両を示すアイコンが常に画面を上に向かって移動します。車両が方向転換すると、地図の向きも変わります。

ノースアップを選択すると、画面の上が常に北になる 2D ビューが表示されます。車両を示すアイコンは、実際の進行方向に従って地図上を移動します。例えば、車両が南方向に進行していれば、アイコンは下方向に移動します。

3Dを選択すると、地図は3D透視図で表示され、車両アイコンは画面の上に移動します。車両が方向を変更すると、地図の向きも変わります。

希望のビューを選択した後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Map Detail (地図詳細)

地図に表示される希望の詳細レベルを選択した後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Map Theme (地図テーマ)

希望の地図テーマを選択した後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Map Buttons (地図ボタン)

地図上に表示する追加のボタンを選択した後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Map Layers (地図レイヤー)

ルートに沿って追加の 3D 機能または施設 (POI) のビューを強調することができる追加のレイヤーを選択します。オプションにタッチしてオンまたはオフに切り替えた後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

自動拡大・縮小

また、車速に応じて、あらかじめ設定されたレベルまで自動的にズームインまたはズームアウトすることができます。オプションにタッチしてオンまたはオフに切り替えます。

Audible Speed Alerts (速度警告音)

マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) は、既知の固定速度カメラの位置に近づいた場合に警告音を発することができます。オプションにタッチしてオンまたはオフに切り替えます。

ナビゲーション

Faster Time (時間優先) またはShorter Distance (距離優先) を優先設定することで、ナビゲーションのルートを計算できます。希望のオプションにタッチして選択した後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Avoidances (回避) を選択すると、高速道路など、走行の一部を回避するために使用可能なオプションが表示されます。回避したいオプションにタッチしてオンまたはオフに切り替えた後、確定するには登録にタッチし、前のメニューに戻るにはキャンセルにタッチします。

Custom Avoidances (カスタム回避) を選択し、画面上の指示に従い、回避する地図の特定の道路または領域を選択します。

Voice Prompts (音声プロンプト) にタッチすると、計画されたルートの音声ガイダンスが有効になります。もう一度タッチすると、この機能は無効になります。

交通情報

交通関連機能およびVICS設定を変更するには、Traffic (交通) にタッチします。

Device (デバイス)

MIS に現在インストールされている地図の全詳細を表示するには、About (情報) を選択します。

センターディスプレイ 設定

カメラ



調整を選択し、ビデオ設定を変更します。以下の設定を調整できます。

- ブライトネス
- コントラスト
- 色の濃さ
- 色合い
- ガンマ

ビデオ録画を自動的に開始したり停止するように設定できます。ビデオ録画開始速度、停止速度、開始時間遅延、および停止時間遅延は必要に応じて調整できます。

Usable（使用可能）には、ビデオ録画に利用可能なストレージの容量が表示されます。

i 注意:ストレージ領域は、メディアを含む、マクラーレンインフォテイメントシステム(MIS) のすべての機能で共有されます。

センターディスプレイ 電話

概要

 マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用すると、Bluetooth® を使用して携帯電話を接続することにより、安全にハンズフリーで電話をかけたり受けたりすることができます。

接続すると電話に保存された連絡先や通話履歴にアクセスできます。

MIS では、会議通話を行うこともできます（接続した電話が対応している場合）。ただし、会議通話を開始することはできません。

 **警告: 運転中、電話に気を取られないよう注意してください。事故につながるおそれがあります。**

安全上の注意事項

 **警告: 車両の移動中は決して電話の操作を行わないでください。気を取られて事故につながるおそれがあります。**

 **警告: 電話は常に安全な場所に保管してください。安全な場所に保管されていない物品は、事故の際に急激に移動して危険が生じる場合があります。**



警告: 爆発の危険性が高いエリアでは、必ず電話の電源を切ってください。爆発の危険性が高いエリアには、ガソリンスタンド、燃料倉庫のエリア、化学薬品工場、また大気に燃料蒸気、化学薬品、金属粉塵などが含まれるエリアがあります。

電話の使用中は、心臓ペースメーカーや補聴器が正常に作動しない場合があります。医師または機器のメーカーに確認し、このような機器を使用している人が高周波エネルギーから十分に保護されるようにしてください。

干渉を避けるため、携帯電話と心臓ペースメーカーの間は少なくとも 15 cm (6 インチ) 空けることを推奨します。

Bluetooth®

Bluetooth® は、電子機器間でのワイヤレス通信を可能にする短距離無線周波 (RF) 技術です。

互換性のある Bluetooth® 搭載電話を MIS と連動させて使用することができます。

MIS システムは Bluetooth® Hands-Free Profile 1.6 (HFP 1.6) に対応しています。システムに接続されている携帯電話がこのプロファイルにも対応している場合、バッテリーメーターや信号強度が画面に表示されることがあります。

携帯電話は、操作する前に MIS とペアリングされ、接続されている必要があります。詳しくは、デバイスのペアリング/接続、ページ 4.22 および電話の接続、ページ 4.22 を参照してください。

センターディスプレイ 電話

デバイスのペアリング/接続

- 初期設定では、Bluetooth®はオンになり、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）は検索可能モードになります。Bluetooth®がオンでない場合は手動でオンにします。接続設定、ページ4.10を参照してください。
- 携帯電話を使用するには、Bluetooth®機器の検索機能を選択します。

- i** 注意: 電話によっては、これをペアリングされた新しいデバイスと呼ぶ場合もあります。正しい記述については、電話の操作説明書を参照してください。
- 利用可能なデバイスのリストからMISを選択します。
 - MISはパスキーを表示します。



- はいを選択し、MISに表示されているパスキーが電話に表示されているパスキーと一致することを確認します。
- 電話でペアリングを選択します。
- 一度電話をMISとペアリングして接続すると、電話が検出範囲内に入った場合は常に自動的に接続されます。
- 自動的に接続されない場合は、携帯電話のコントロールを使用して手動でMISに接続する必要があります。

- i** 注意: 電話によっては、手動で接続しなければならないものもあります。

電話によっては、接続を毎回認証する必要があるものもあります。これを避けるには、電話の既知のデバイスリストでMISを承認済みに設定します。

利用可能なすべてのオプションの詳細については、Bluetooth Phone設定、ページ4.13を参照してください。

追加デバイスのペアリング

追加デバイスを接続する手順は、最初の電話をペアリングしたときと同じです。デバイスのペアリング/接続、ページ4.22を参照してください。

MISには最大12台のデバイスをペアリングすることができますが、一度に接続できるのは2機のみです。

i 注意: 最大数のデバイスがすでにMISに接続されている場合、追加のデバイスのペアリングはできますが、接続はできません。元のデバイスはMISに接続されたままになります。

電話の接続

ペアリングした電話がすでにある場合、その電話が検出範囲内に入ると、他のデバイスが接続されていなければMISは自動的にその電話を再接続します。

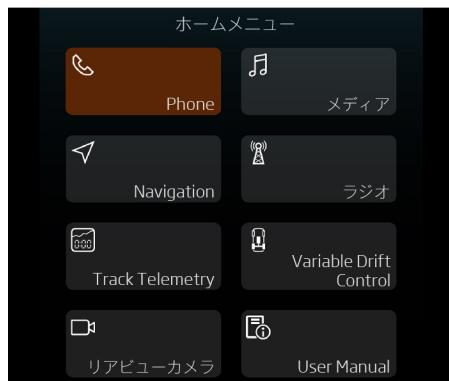
i 注意: 電話によっては、手動で接続しなければならないものもあります。

センターディスプレイ 電話

電話によっては、接続を毎回認証する必要があるものもあります。これを避けるには、電話の既知のデバイスリストで MIS を承認済みに設定します。

MIS または車両の電源がオフになると電話は切断されます。車両またはMISの電源を再びオンにすると、数秒間で自動的に再接続されます。

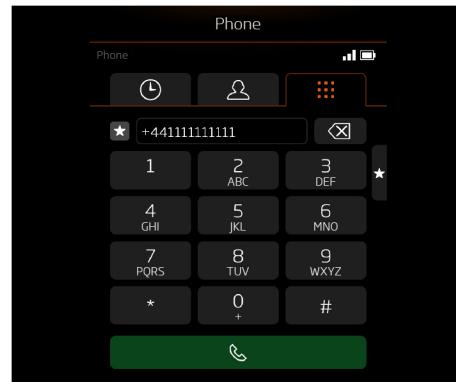
電話をかける



電話をかける方法は、以下のように複数あります。

電話アプリケーションに切り替えるには、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のホーム画面から電話アイコンにタッチするか、電話ボタンを押します。

キーボードを使用

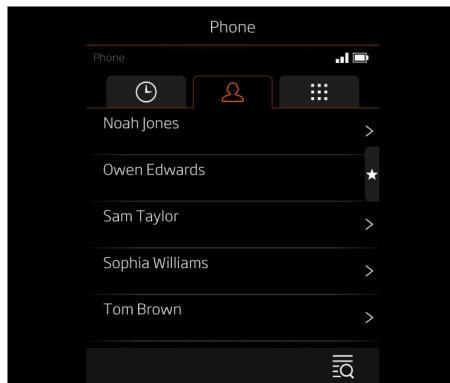


1. 電話画面で、キーパッドタブにタッチします。
2. オンスクリーンキーパッドを使用して電話番号を入力できます。
 番号または数字の入力を間違えた場合は、アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。
3. 画面にすべての番号が表示されたら、アイコンにタッチして通話を開始します。
4. アイコンまたは電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

センターディスプレイ 電話

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

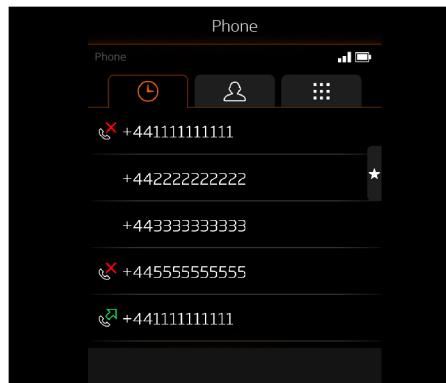
連絡先の使用



1. 電話画面で、連絡先タブにタッチします。
2. 連絡先が表示されたら、リストをスクロールして特定の人物を探すことができます。
3. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。
4. アイコンまたは電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

通話履歴の使用



1. 電話画面で、通話履歴タブにタッチします。
2. 通話記録のリスト（発信、不在着信、着信）が、一番新しい通話記録を一番上に日付順に表示されます。
3. 目的の連絡先にタッチして通話を開始します。
4. アイコンまたは電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

i 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

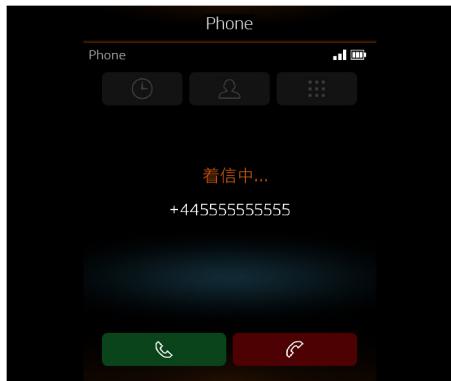
お気に入り

1. アイコンを押すと、お気に入りの連絡先リストが表示されます。

i 注意: 連絡先をお気に入りリストに表示するには、事前に を選択してその連絡先をお気に入りとして指定する必要があります。

センターディスプレイ 電話

通話を受信



着信通話があると、電話に保存されてマクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）と同期されている発信者の詳細が MIS に表示されます。

通話を受けるには、緑色のアイコンにタッチします。

注意: MIS では、新しい着信に自動的に応答することができます。Bluetooth Phone 設定、ページ 4.13を参照してください。

通話を拒否するには、赤色のアイコンにタッチします。

通話中のオプション

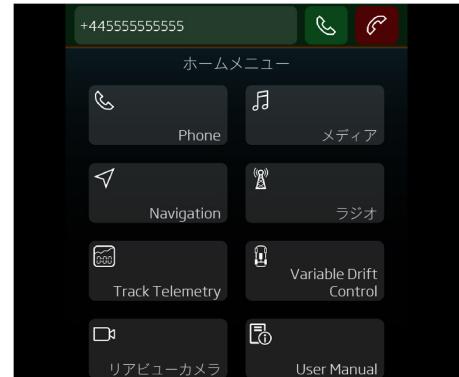
ミュートアイコンにタッチするとマイクが無効になります。もう一度タッチすると有効になります。

キーパッドアイコンにタッチするとオンラインキーボードが起動します。もう一度タッチすると無効になります。

電話に切り替えアイコンにタッチすると、通話が電話機に切り替わります。スピーカーに切り替えにタッチすると、元に戻ります。

通話の終了

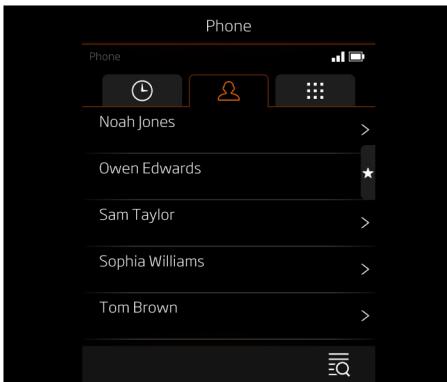
通話を終了するには、通話中画面で赤色の通話を終了アイコンにタッチします。



別のシステム画面を表示しているときに通話を終了するには、画面の上部に表示される通話中アイコンの横にあるアイコンにタッチします。

センターディスプレイ 電話

連絡先



1. 電話画面で、連絡先タブにタッチします。

- i** 注意: 電話機の種類によっては、電話に保存されている連絡先の写真が連絡先の名前とともに画面に表示されます。
2. 連絡先リストが1画面の表示範囲を超える場合は、画面上で指をスワイプして上下にスクロールします。

- i** 注意: 連絡先は名または姓で並べ替えることができます。詳しくは、Bluetooth Phone設定、ページ4.13を参照してください。

3. あるいは、オンスクリーンキーボードで連絡先を検索することもできます。詳しくは、検索、ページ4.26を参照してください。

4. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

- i** 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先がMISと同期されている場合）。

5. アイコンまたは電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

- i** 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

- i** 注意: 連絡先をお気に入りとして登録するには、にタッチします。もう一度にタッチすると、お気に入りから削除されます。

検索

1. 連絡先タブでアイコンを押します。
2. オンスクリーンキーボードを使用して少なくとも1文字を入力し、表示される連絡先をフィルター処理します。

番号または数字の入力を間違えた場合は、アイコンにタッチすると最後に入力した数字が削除されます。

- i** 注意: 連絡先は名または姓で並べ替えることができます。詳しくは、Bluetooth Phone設定、ページ4.13を参照してください。

3. 連絡先を選択すると、その連絡先のすべての電話番号が表示されます。目的の電話番号にタッチして通話を開始します。

- i** 注意: 電話機の種類に応じて、連絡先の写真が電話に保存されている場合は、通話中に画面に表示されます（連絡先がMISと同期されている場合）。

4. アイコンまたは電話ボタンにタッチすると、ダイヤル中に発信をキャンセルできます。

- i** 注意: 通話中は、メディアやラジオのサウンドはミュートになります。

センターディスプレイ メディア

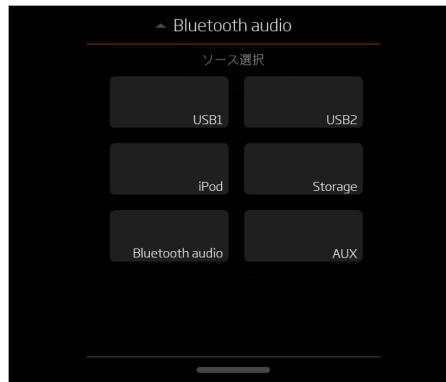
概要



メディアプレーヤーの機能には、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) のホーム画面からメディアアイコンにタッチするか、メディアボタンを押すとアクセスできます。

メディアを選択すると、利用可能なオーディオソースが表示されます。

オーディオソース



音楽デバイスがUSBポート、補助ソケット、またはBluetooth®に接続されている場合、すべてのソースが画面に表示され、それぞれの記号が画面の上部に表示されます。

i 注意: デバイスが利用できない場合、リストでグレーアウトされます。

サポートされているメディアデバイス

現在の互換性あるメディアデバイスのリストについては、マクラーレン代理店にご相談ください。

サポートされているメディアファイル

メディアシステムでは、以下の形式とエンコーディングを組み合わせたファイルを再生できます。

オーディオ:

- MP3
- AAC
- WMA
- OGG Vorbis
- AC3
- AMR
- FLAC
- WAV
- AIFF

動画:

- MPEG1
- MPEG2
- H.264/MPEG-4 AVC
- MPEG-4 ビデオ
- DivX 4/5
- XviD HT
- VC-1

センターディスプレイ メディア

メディアコントロール



内部ストレージまたは接続デバイスから再生される音楽は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) タッチスクリーンを使用して操作できます。

音楽の再生が始まると、アーティスト名、アルバムのタイトル、曲のタイトルが画面に表示されます。曲に関連するアートワークがあれば、それらも表示されます。アートワークがない場合は音符の画像が表示されます。

または アイコンをタッチし続けると、現在選択している曲を前に進めたり、元に戻したりできます。あるいは、プログレスバーにタッチしてドラッグすることで、曲の任意の位置に移動できます。

を1回タッチすると、次の曲にスキップします。 アイコンを1回タッチすると、現在の曲の先頭にスキップします。2回タッチすると、1つ前の曲にスキップします。

スワイプジェスチャーを使用して曲をスキップすることもできます。画面を左から右にスワイプすると、次の曲にスキップします。画面を右から左にスワイプすると、曲の先頭にスキップします。もう一度スワイプすると、1つ前の曲にスキップします。

次または前のフォルダにスキップするには、 または アイコンをタッチします。

曲を一時停止するには、 アイコンをタッチします。再生を再開するには、 アイコンをタッチします。画面をタップすることで、曲を一時停止または再開することもできます。

現在選択している音楽をランダム再生するには、アイコンを押します。ランダムがアクティブの場合、アイコンはアンバー色になります。

注意: この機能は、Bluetooth®デバイスでは使用できません。

リピート機能を有効にするには、アイコンを押します。リピートがアクティブの場合、アイコンはアンバー色になります。

注意: この機能は、Bluetooth®デバイスでは使用できません。

別の曲、プレイリスト、またはフォルダを参照するには、アイコンをタッチします。

注意: この機能は、Bluetooth®デバイスでは使用できません。

センターディスプレイ メディア

外部デバイスへの接続



USBポートはセンターコンソールにあります。
必要に応じてデバイスを接続してください。

走行前に、センターコンソールが閉じていることを確認します。

1. USB1 または iPod
2. USB2
3. 3.5 mm 補助ラインイン

Bluetooth® デバイスの接続に関する詳細については、デバイスのペアリング/接続、ページ 4.22 を参照してください。

i 注意: デバイスに取り付けられた内部バッテリーは、いずれかの USB ポートを介して充電されます。

i 注意: USB1 ポートは高出力でモバイル機器の充電に適しています。

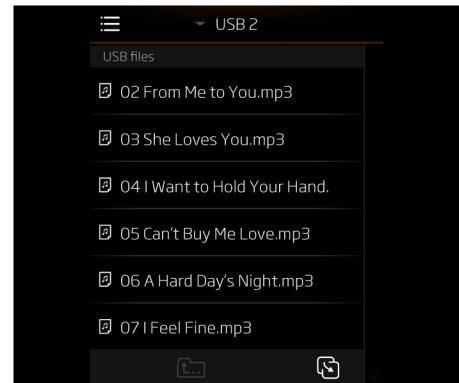
USB および iPod

USB デバイスを接続します。詳しくは、外部デバイスへの接続、ページ 4.29 を参照してください。

Media (メディア) 画面から、USB1、USB2、または iPod を選択します。

i 注意: デバイスに取り付けられた内部バッテリーは USB ポートを介して充電されます。

i 注意: USB1 ポートは高出力でモバイル機器の充電に適しています。



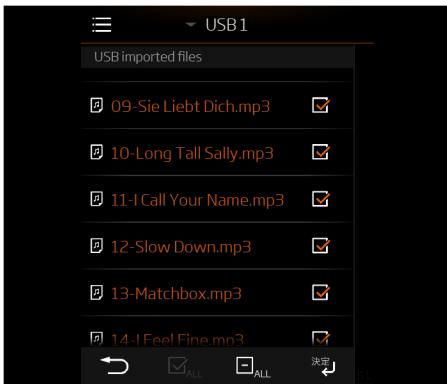
聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

センターディスプレイ メディア

複数のフォルダが存在する場合は、をタッチしてフォルダレベルを上に移動します。

ストレージへのコピー

コピーしたいファイルを参照し、アイコンをタッチします。



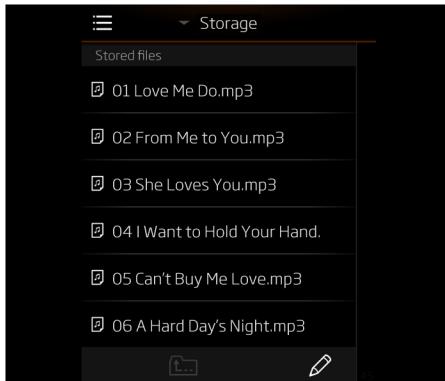
コピーするファイルを選択し、選択範囲を確定するには、をタッチします。保存先フォルダを選択すると、マクラーレンインフォティメントシステム (MIS) によって、ファイルのコピー中の進捗が表示されます。

ストレージ

Media (メディア) 画面から、ストレージを選択します。

聞きたいフォルダまたはプレイリストを参照し、再生を開始する曲を選択します。

ファイル管理



ファイル管理メニューにアクセスするには、アイコンをタッチします。このメニューを使用して、マクラーレンインフォティメントシステム (MIS) にフォルダを作成したり、ここに保存されているファイルを選択して移動したり削除したりします。

ファイルのインポート

ファイルは接続された USB デバイスからインポートできます。ストレージへのコピー、ページ 4.30 を参照してください。

ストレージの消去

ストレージの設定にアクセスするには、を選択します。MIS にインポートされているすべてのメディアを削除するには、ストレージの消去を選択します。

センターディスプレイ メディア

Bluetooth オーディオ

Bluetooth®デバイスを接続します。詳しくは、デバイスのペアリング/接続、ページ 4.22 を参照してください。

Media（メディア）画面から、Bluetooth オーディオソースを選択します。

接続されている Bluetooth® デバイスによっては、音楽の再生が自動的に開始される場合があります。

音楽の再生が自動的に開始されない場合は、デバイス本体で再生を選択します。

音楽の再生中は、 Bluetooth® 記号が画面の上部に表示されます。

音量は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用して調整できます。詳しくは、システムコントロール、ページ 4.02 を参照してください。

音量は取り付けられているデバイスの出力レベルと MIS レベルによって変化します。

AUX

デバイスを補助ソケットに接続します。外部デバイスへの接続、ページ 4.29 を参照してください。

Media（メディア）画面から、AUX オーディオソースを選択します。

補助ソケットを介して接続したデバイスからの再生は、デバイス自体で制御する必要があります。



補助ソケットに接続されたデバイスから音楽を再生するときは、画面にジャックプラグを表すグラフィックが表示されます。

i 注意: 補助ソケットに接続中、デバイスに取り付けられた内部バッテリーは充電されません。

音量は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) を使用して調整できます。詳しくは、システムコントロール、ページ 4.02 を参照してください。

音量は取り付けられているデバイスの出力レベルと MIS レベルによって変化します。

i 注意: 音量が一定のノイズまたはヒスノイズが聞こえる場合は、デバイスや MIS のレベルを調整し、補正してください。

センターディスプレイ ナビゲーション

概要

 本ナビゲーションシステムは、グローバルポジショニングシステム (GPS) 衛星からの信号と車両センサーからの情報、マップルインフォティメントシステム (MIS) に保存された地図データを使用して、車両の位置を正確に判断します。

システムはこのデータを使用して、設定した走行方法を考慮して目的地への最適なルートを作成します。

走行方法を設定するには、ナビゲーション、ページ 4.18 を参照してください。

特定のルートは、画面のメニューと MIS コントロールを使用して選択します。作成したルートは地図上でハイライトされます。

走行を開始すると、適切な位置で曲がり角の情報がセンターインフォティメントタッチスクリーンに表示され、必要に応じて音声ガイドも行われます。

予定しているルートから大きく外れた場合は、目的地までの別ルートを自動的に計算します。

安全性

 **警告:** 安全のため、ナビゲーションシステムの使用に気を取られ、走行操作がおろそかにならないよう注意してください。イグニッションをオンにした後、ナビゲーションシステムの使用を開始したときに表示される安全メッセージを読み、従ってください。

国の道路交通法と交通標識には必ず従ってください。

ナビゲーションシステムは最適なルートを決定する際の補助を目的とするものであり、決して視界が悪い場合の補助として考えてはなりません。

トンネル内やそれ以外の GPS 信号が遮断されるような状況での走行時には、GPS 信号が妨害される可能性があります。GPS 信号が再取得されるまで、ナビゲーションはそのままルート案内を続けます。

 GPS 信号強度はステータスバーのアイコンで表示されます。

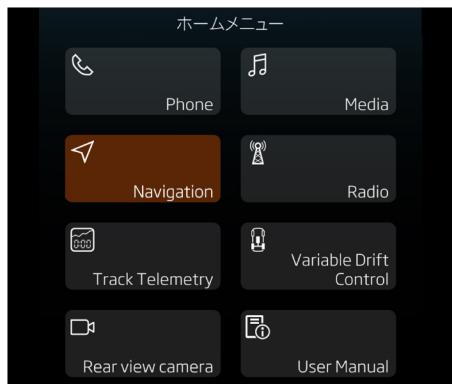
車両位置のエラーは、前述した状況下や以下の状況でも起こる可能性があります。

- 立体駐車場など、建物内を走行する。
- 並行する道路が非常に近い位置にある道路を走行する。

- ターンテーブルを使用して車両を回転させる。
- 車両が異なる場所へ輸送された。

センターディスプレイ ナビゲーション

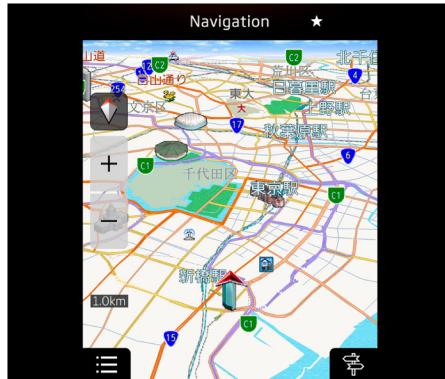
ナビゲーションの使用



マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面からナビゲーションアイコンをタッチするか、ナビゲーションボタンを押します。

イグニッションをオンにした後、ナビゲーションに初めてアクセスすると、MISに安全警告メッセージが表示されます。これらのメッセージをよくお読みください。

ナビゲーションシステムのロードが完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。



車両の現在位置を示すマップがセンターインフォテイメントタッチスクリーン画面に表示されます。

▲ 車両の位置と進行方向は、進行方向を示す矢印で表示されます。

地図の表示部分をコントロールするには、画面をタッチして、ゆっくりと指を地図内の任意の方向に動かします。

ナビゲーションシステムをお好みに設定するには、ナビゲーション、ページ4.18を参照してください。

iii 目的地を設定するためのオプションにアクセスするには、地図画面からアイコンをタッチします。メニューの使用、ページ4.34を参照してください。

MISはマルチタッチスクリーンを備えており、ピンチジェスチャーによるズームインおよびズームアウトが簡単にできます。親指と人差し指で画面をタッチし、指の間隔を狭めるとつまむと縮小できます。指の間隔を広げると再び拡大できます。

+と-アイコンを使用して、ズームイン/ズームアウトすることもできます。

ズーム設定に応じて、画面の詳細度も変わります。例えば、大きくズームインすると、道路名やいくつかの施設が表示されますが、ズームアウトすると表示されなくなります。

また、車速に応じて、あらかじめ設定されたレベルまで自動的にズームインまたはズームアウトされます。この機能は、設定メニューでオンまたはオフにできます。詳しくは、ナビゲーション、ページ4.18を参照してください。

時刻に合わせて視認性を高めるために、画面カラーが昼間モードと夜間モードに自動的に切り替わります。

センターディスプレイ ナビゲーション

メニューの使用



以下のオプションを利用できます。

履歴

以前の場所のリストから目的地を選択します。

自宅

自宅を選択すると、自宅の住所に直接移動できます。

i 注意: 自宅の住所がまだ保存されていない場合は、ナビゲーションの開始前に、画面上の指示に従って自宅の住所を保存してください。

Categories (カテゴリー)

利用可能なカテゴリー内の施設 (POI) から目的地を選択します。

Street address (番地)

場所の名前、住所、または郵便番号で検索機能を使用し、目的地を見つけます。

名称

名前を使用して施設や目的地を検索するには、検索機能を使用します。

登録地点

保存した場所から目的地を選択します。

番号

電話番号を使用して施設や目的地を検索するには、検索機能を使用します。

ジャンル

利用可能なカテゴリー内の目的地を選択します。

画面を使用

地図を手動で動かして、目的地の一般的なエリアを探すのに最も効果的な縮尺で地図を表示します。

地図をタッチして、希望の目的地の位置をマークします。

ルートの概要

目的地を選択した後、ルートの概要が表示され、ルートがハイライト表示されます。開始位置、現在の位置、中間地点、および目的地は、ハイライト表示されたルートに沿って表示されます。

目的地をお気に入りとして保存するには ★ を選択し、ナビゲーションを開始するには Go! (実行) を選択します。

センターディスプレイ ラジオ

概要



ラジオは、マクラーレンインフォテイメントシステム（MIS）のホーム画面から選択するか、ラジオボタンを使用すると起動し、以前に選択した局にチューニングされます。

周波数帯

ラジオはAM、FM、およびDAB局の受信およびチューニングができます。

現在選択されている周波数帯は、画面上部に表示されます。

周波数帯を変更するには、このアイコンに短くタッチします。AM、FM、またはDABが画面の上部に表示され、選択している周波数帯の変更を示します。

ラジオコントロール



放送局は、手動チューニングで選択するか、お気に入りを選択します。周波数は、可能な場合は放送局名とともに画面に表示されます。

i 注意:放送局の周波数が変更された場合は、お気に入りプリセットを再度設定する必要があります。

前または次の利用可能な局に自動的にチューニングするには、**◀** または **▶** アイコンをタッチします。

手動でチューニングする場合は、**◀** または **▶** アイコンをタッチして、周波数を徐々に移動します。

センターディスプレイ ラジオ

スワイプジェスチャーを使用すると、手動と自動の両方のチューニングモードでラジオのチューニングが行えます。

 放送局をお気に入りとして保存するには、アイコンをタッチします。

ラジオデータシステム (RDS)

RDSは、デジタルデータをFM信号と同時にラジオ受信機に送信できるシステムです。

次の2種類のデジタルデータを受信し、それらのステータスを画面に表示できます。代替周波数と交通アラート。

代替周波数 (AF)

AF機能では、最も強い信号を自動的に選択して受信します。

車両がある送信機から遠ざかり、別の送信機に近づくと、AFは受信を最良の状態に保つために送信機を切り替えます。

AFは、設定メニューでオンとオフを切り替えることができます。詳しくは、ラジオおよびメディアの設定、ページ4.12を参照してください。

交通アラート (TA)

交通アラートは、ラジオおよびメディア再生に割り込み、ドライバーに交通状況を知らせます。

TAは、設定メニューでオンとオフを切り替えることができます。詳しくは、ラジオおよびメディアの設定、ページ4.12を参照してください。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

概要

- ⚠️ 警告: 安全のため、これらのシステムの使用によって運転操作が散漫にならないようしてください。**
- ⚠️ 警告: マクラーレントラックテレメトリはサーキットでの使用のみを目的としています。ドライバーには常に安全に運転し法令を遵守する責任があります。**

マクラーレントラックテレメトリは、サーキット走行やヒルクライム走行でのタイミングデータ記録をグラフィック表示します。

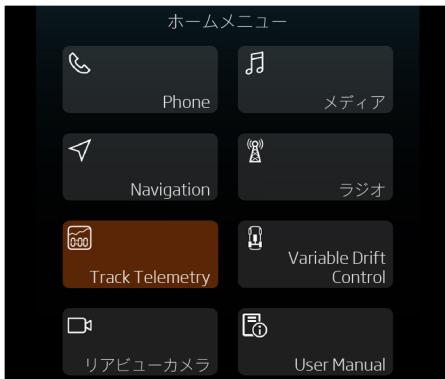
セッションまたはトラックの記録中は、タイミングデータ、パフォーマンスのデルタ、コースマップ、車速がグラフィック表示されます。

サーキットパフォーマンスはデータビューアで分析が可能で、ラップ番号、走行位置、走行距離順に表示できます。

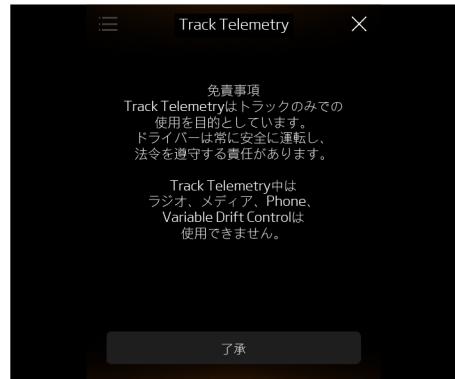
カスタムコースマップが自動的に作成され、手動で編集が可能です。サーキットごとに複数のコースレイアウトや設定を保存できます。

それぞれの記録に別のドライバーを関連付けることができます。

アプリケーションの起動



1. ホームメニューでトラックテレメトリを選択するか、センターインフォテインメントタッチスクリーンのカルーセルでマクラーレントラックテレメトリアプリケーションまでスクロールします。



2. 免責事項をお読みになり、同意します。

マクラーレントラックテレメトリはサーキットでの使用のみを目的としています。ドライバーには常に安全に運転し法令を遵守する責任があります。

- ℹ️ 注意:** マクラーレントラックテレメトリの使用中、他のアプリケーションは利用できなくなります（ナビゲーション、メディア、電話、ラジオ、可変ドリフトコントロールなど）。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

設定

マクラーレントラックテレメトリーを開いてセッションを定義します。

- ドライバーの名前
- 天気
- トラックの名前
- 比較対象
- ラップ数

セッションを始める前に  を押して、ビデオ録画用にカメラのレイアウトを調整します。

必要なトラックがまだ保存されていない場合、システム内で作成する必要があります。Add newtrack（新しいトラックの追加）を押して、画面に表示される指示に従ってください。

- i** 注意: クローズドサーキット走行とヒルクライム走行の両方を録画できます。
- i** 注意: マ克拉ーレントラックテレメトリアプリケーションは、サーキットのオープン/クローズドの違いを自動的に認識します。

必要なトラックが保存されている場合、Start（開始）を押してトラックに出ると、すぐにセッションを開始できます。



注意: クローズドサーキットが記録されると、自動的にセッションが開始します。マクラーレントラックテレメトリアプリケーションによる記録がトラックからセッションに変わります。

ドライブ

セッションを開始すると、折り畳み式ドライバーディスプレイとセンターインフォディメントタッチスクリーンの両方で重要データを確認できます。

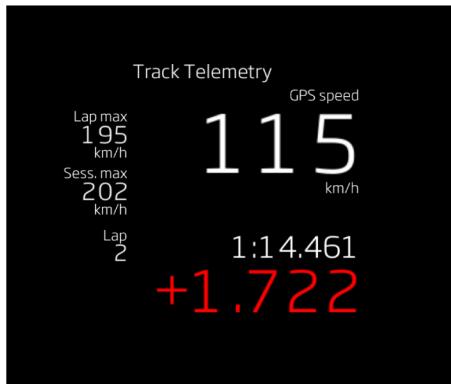
折り畳み式ドライバーディスプレイをフルディスプレイモードにしているときは、左レバーを使ってディスプレイの内容を変更します。

ラップタイム（現在、前周、基準）

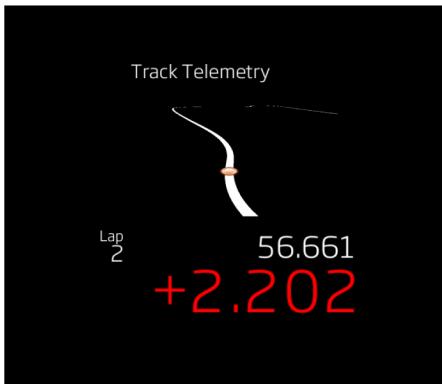


センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

最高速度（現在の速度、最高速度など）



トラック地図（トラック前方の2D/3D表示）



ラップタイムの表

	Lap2	Lap1	Ref.	Theoretical
-	-	2:15.643	2:15.643	2:15.643
SEC2	-	1:31.440	1:31.440	1:31.440
SEC1	-	44.203	44.203	44.203

Lap 2 30.804 +2.961 Ref. 2:15.643

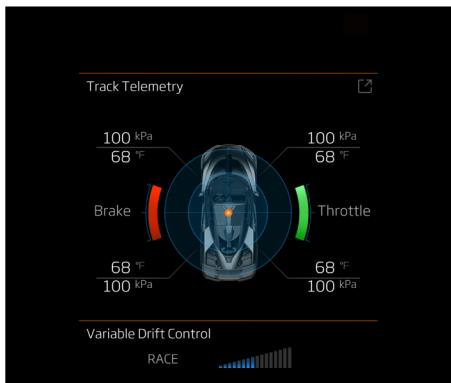
Discard **Finish**

折り畳み式ドライバーディスプレイをスリムディスプレイモードにしているときは、セクターとラップを完了するたびにスプリットタイムとデルタが表示されます。

センターインフォディテイメントタッチスクリーンでは、タブを使って以下の表示を切り替えます。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリー

G マップとペダル位置



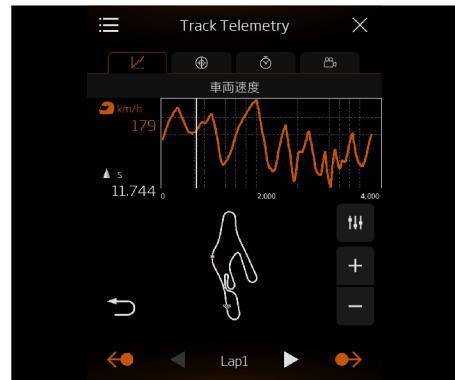
セッションの終了

Finish (終了) を押してセッションを終了します。

i 注意: 設定中に指定したラップ数が完了すると、セッションは自動的に終了します。

データの確認

i 注意: マクラーレントラックテレメトリーにはパワフルな解析ツールがあります。さらにパワフルで柔軟性のあるツールをご希望の場合は、オフボードアプリケーションをご使用ください (Mac、PC および iPad で使用できます)。



セッションを開いて解析するには、以下の手順を実行します。

1. を押して解析を開きます。
2. トラックとセッションを選択します。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

- タブとコントロールを使ってデータやビデオ映像を確認します。

セッションの中を移動するには、以下の手順を実行します。

- 特定のラップを選択するには、ラップ番号を押してから新しいラップを選択します。
- ラップ内をスクロールするには、トラックの該当部分を押すか、またはを押してラップを前後に動かします。

テレメトリデータのインポート

注意: トラックとセッションは、車両間で共有できます。

- 車両のいずれかのUSBポートにUSBストレージデバイスを挿入します。
- を押して解析を開きます。
- を押して、USBストレージデバイスからデータをインポートします。

テレメトリデータのエクスポート

注意: トラックとセッションは、車両間で共有できます。

- 車両のいずれかのUSBポートにUSBストレージデバイスを挿入します。
- を押して解析を開きます。
- エクスポートするセッションを選択して、 を押します。

センターディスプレイ マクラーレントラックテレメトリ

トラックの編集

保存されているトラックは、センターインフォメイメントタッチスクリーンを使って編集できます。を押してから、編集するトラックを選択します。

以下の項目を編集できます。

- トラックの名前
- スタート/フィニッシュの位置（クローズドサーキットのみ）
- トラックの方向
- セクター（番号と位置）

 注意:最大で15個のセクターを保存できます。

センターディスプレイ 音声認識

概要



音声認識機能を使用するには、事前に携帯電話をMISとペアリングし、接続しておく必要があります。デバイスのペアリング/接続、ページ4.22および電話の接続、ページ4.22を参照してください。

左コントロールレバーの端のボタンを押して、接続されているデバイスの音声認識機能を作動させます。



i 注意: 音声認識機能により提供される機能レベルは、Bluetooth® 経由で接続されているデバイスによって異なります。



快適機能と便利機能

ウインドウ	5.02
安全性.....	5.02
開閉.....	5.02
クライメートコントロール	5.04
概要.....	5.04
調節ダイヤル.....	5.04
動作モード.....	5.05
A/C (画面) ボタン.....	5.06
曇り取り/デフロスト.....	5.06
温度調整ダイヤル.....	5.07
内気循環モード	5.08
ブロアー速度調節ダイヤル.....	5.08
エアディストリビューション設定.....	5.09
熱線入りミラー.....	5.10
インテリア機能	5.11
室内照明.....	5.11
乗車照明.....	5.12
降車照明.....	5.12
オーナー文書.....	5.12
サンバイザー.....	5.13
アクセサリー電源ソケット	5.13
USB ソケット	5.14
MSO プッシュトゥドリンクシステム.....	5.14

快適機能と便利機能 ウィンドウ

安全性

⚠️ 警告: ウィンドウの開閉時は手などを挟まることがないように注意してください。体の一部をウィンドウに触れたまま操作しないでください。ウィンドウの動きによって挟まれるおそれがあります。挟み込みの危険がある場合はウィンドウの動作を止めてください。

開閉

⚠️ 警告: リモコンキーはエンジンを始動可能にする他、車両のその他の機能を有効にする場合も使用します。車両を離れる際は、気づかぬうちにウィンドウが作動して怪我の原因になるのを防止するため、リモコンキーを携帯してください。

オーバーヘッドコンソールには両側のウィンドウのスイッチがあります。



1. 左側ウィンドウのスイッチ
2. 右側ウィンドウのスイッチ

スイッチ（1）または（2）を押します。ウィンドウはスイッチを押している間だけ開きます。

スイッチ（1）または（2）を引きます。スイッチを引いている間はウィンドウが閉じ続けます。

ℹ️ 注意: 車両がアウェイクモードの場合、ウィンドウコントロールは使用できません。

ウィンドウのリセット

バッテリーが放電してしまった場合や取り外した場合は、ウィンドウをリセットしなければならない場合があります。

両方のドアが閉じておらず、イグニッションスイッチがオンになっていることを確認します。



快適機能と便利機能 ウィンドウ

スイッチ (1) および (2) をウィンドウが開くまで押し、全開後さらに5秒間スイッチを押し続けます。

ウィンドウが完全に閉じるまで両方のスイッチを引き、さらに5秒間引き続けます。

ウィンドウのリセットが完了しました。

この方法で問題が解決しない場合は、直ちにマクラーレン代理店にご連絡ください。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

概要

このシステムはオートマチックモードによる動作と、マニュアルによる設定の調節ができます。

コンビネーションフィルターによって車内に侵入する粉塵や汚染の量を低減しています。

警告: 暖房や冷房の推奨設定に従ってください。ウィンドウが曇ると道路や交通状況を確認できなくなり、事故につながるおそれがあります。

i 注意: クライメートコントロールシステムはドアやウィンドウを閉じた方が効率良く動作します。ただし、暑い場所に長時間駐車した場合は、短時間ウィンドウを開けて換気を行ってください。

i 注意: 室温センサーはステアリングホイールとセンターコンソールの間に設置されています。このセンサーへの空気の流れを妨げないでください。妨げた場合、クライメートコントロールシステムのパフォーマンスが低下します。

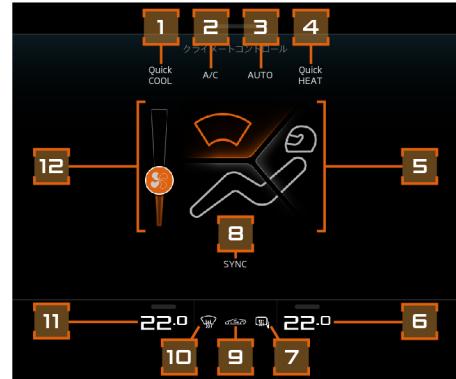
i 注意: 車両のイグニッションスイッチをオフにしても、現在のクライメートコントロールの設定は保持されます。

調節ダイヤル



クライメートコントロールシステムは、センターインフォテイメントタッチスクリーンを使用して操作します。ボタンを押すと、室内温度制御画面がオンになります。

クライメートコントロール



1. Quick COOL（クイッククール）ボタン
2. エアコン（A/C）ボタン
3. AUTO（オート）ボタン
4. Quick HEAT（クイックヒート）ボタン
5. エアディストリビューションボタン
6. 温度調節 - 右側
7. 熱線入りミラー
8. SYNC（同期）ボタン
9. 内気循環ボタン
10. 曇り取りボタン
11. 温度調節 - 左側

快適機能と便利機能

クライメートコントロール

12. プロアー速度調節ダイヤル

動作モード

オートマチックモード

オートマチックモードでは、クライメートコントロールシステムは様々なプロアー速度と内気循環およびエアディストリビューションを組み合わせ、設定された室温を維持します。

コントロールパネルでは、色によって動作状態が示されます。

- アンバー色はオンを示しています。
- 白はオフになっているが、使用可能であることを示します。
- グレーは、使用できないことを示します。

オートマチックモードをオンにするにはAUTOボタンをタッチします。

ボタンが点灯し、車両の左右両側のエアディストリビューション、温度およびプロアー速度が自動的に調節されます。

AUTO モードでは、プロアー速度やエアディストリビューションを調節する必要はありません。システムが設定された温度を維持するため必要な調節を行います。

それでもクライメートコントロールシステムのエアディストリビューションを変更したい場合は、希望するボタンをタッチしてください。これでシステムは AUTO ファンモードになります。

これは、プロアー速度スライダーの色によって示されます。プロアーがオートマチックコントロールになっている場合、バーはグレーで表示され、スライダーが自動的に移動します。この場合、システムはプロアー速度を調節して、設定温度を維持します。

AUTO がアクティブなときにプロアー速度を調整すると、デフォルトでマニュアルモードが選択されます。その後、AUTO (オート) ボタンを押すと、AUTO モードが再度アクティブになります。

必要に応じ、システム設定をマニュアルで調節できます。マニュアルモード、ページ 5.05 を参照してください。

マニュアルモード

室温をマニュアルで調節するには、温度調整ダイヤル、ページ 5.07 を参照してください。

プロアー速度をマニュアルで調節するには、プロアー速度調節ダイヤル、ページ 5.08 を参照してください。

SYNC モード

SYNC モードにより、運転席側で行った室温設定の変更を、自動的に助手席側の室温設定に適用することができます。

画面上のSYNC (同期) ボタンをタッチすると、ボタンが点灯し、運転席側の室温設定が自動的に助手席側に適用されます。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

ドライバーはSYNC（同期）ボタンに1回タッチすることで随時SYNCモードを終了できます。その後、画面上のSYNC（同期）ボタンが消えます。

A/C（画面）ボタン

A/Cにより、さらに温度を下げたり除湿効果を高めることができます。これは最大冷却およびデフロストモードで使用されます。

A/C画面ボタンはオン/オフスイッチとして使用します。

曇り取り/デフロスト



画面の曇り取り機能をアクティブにするには、曇り取りボタンをタッチします。機能がアクティブになると、ボタンが点灯し、画面の上部にアイコンが表示されます。エアコンのスイッチがオフになっていた場合はオンになります。プロアーが最高速度で動作し、エア温度がHIに設定されます。

i 注意: プロアー速度を手動で遅くすることもできます。プロアー速度調節ダイヤル、ページ 5.08 を参照してください。

i 注意: 曇り取りモードを選択しているとき、内気循環は使用できません。

快適機能と便利機能

クライメートコントロール

曇り取りモードを終了するには、もう一度曇り取りボタンをタッチします。ボタンのアイコンが消灯し、温度とブロアー速度が元の設定に戻ります。

温度調整ダイヤル



温度を上げるには **▲** ボタンをタッチし、下げるには **▼** ボタンをタッチします。または、温度調節スライダーをタッチし、ドラッグして目的の設定にします。温度調節スライダーを閉じるには、**×** ボタンをタッチします。

i 注意: 温度は $16^{\circ}\text{C} \sim 28^{\circ}\text{C}$ ($61^{\circ}\text{F} \sim 83^{\circ}\text{F}$) の範囲内で、 0.5°C (1°F) 刻みで調節できます。
温度を 22°C (72°F) に設定することをお勧めします。

▲ 最高温度に設定するには、**HI**と表示されるまでボタンをタッチし続けます。AUTOモードでは、クライメートコントロールシステムによって室温が最高に、ブロアー速度が最大に設定され、空気がフットウェルに吹き出されます。

▼ 最低温度に設定するには、**LO**と表示されるまでボタンをタッチし続けます。AUTOモードでは、クライメートコントロールシステムによって室温が最低に、ブロアー速度が最大に設定され、空気がセンターエアベントから吹き出されます。

設定された温度がセンターアンフォディメントタッチスクリーンに表示されます。

i 注意: LOが選択された状態で、エアコンをオフにすることはできません。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

内気循環モード



不快な臭いやガスが車内に入ってきたときは内気循環を選択します。外気が車内に取り込まれなくなります。

⚠ 警告: 外気温が低い場合は、内気循環モードを長時間使用しないでください。ウィンドウが曇り、視界が失われる可能性があります。結果として、道路や交通状況への注意が散漫になり、事故につながるおそれがあります。

i 注意: ウィンドウの曇りを防止するため、エアコンをオンにしてください。

内気循環をアクティブにするには、内気循環ボタンをタッチします。ボタンが点灯します。内気循環をオフにするには、再度ボタンをタッチします。ボタンが消灯します。

プロアー速度調節ダイヤル



i 注意: エンジンが冷えた状態で始動したときはエンジンが暖まるまでプロアー速度が制限され、空気はフロントウィンドウに吹き出されます。

i 注意: エンジンが暖まった状態で再始動した場合は、プロアーが低速で動作することがあります。これによってベントから暖かい空気を取り除き、その後に要求された設定までプロアー速度が上がります。

プロアー速度を上げるには+ボタンをタッチし、下げるには-ボタンをタッチします。または、ファンアイコンをタッチして、目的の設定にドラッグします。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

オートマチックモードになっている場合にブロ
ワー速度を調節すると、AUTOボタンが消えま
す。

オートマチックモードに戻るには、AUTOボタ
ンを押します。

エアディストリビューション設定



エアディストリビューションはエアディストリ
ビューションボタンを使用して設定できます。

空気をフロントウィンドウに吹き出すには、画
面上部を押します。センターエアベントから吹
き出すには、画面中央部を押します。フット
ウェルベントから吹き出すには、画面下部を押
します。

3つのすべての領域、任意の2つの領域の組み
合わせ、あるいは1つの領域をいつでも選択で
きます。

エアディストリビューション領域を押すと、画
面のアイコンが点灯します。

ダッシュボードエアベント



ベントが開くか閉じるまで、いずれかの方向に
4分の1回転させます。

快適機能と便利機能 クライメートコントロール

熱線入りミラー



! 警告: 热線を作動させる前に、ミラー や
ウインドウに付着した氷や雪を取り除いて
ください。視界が遮られるとドライバー や
周囲の者にとって危険です。

外部ミラーを加熱するには、ボタンをタッチします。ボタンのアイコンが点灯します。スイッチをオフにするには、ボタンを再度タッチします。ボタンのアイコンが消灯します。

热線入りミラーは、外気温に応じて設定時間が
経過すると自動的にオフになります。

快適機能と便利機能 インテリア機能

室内照明



1. 左側リーディングランプオン/オフ/調光タッチパッド
2. 室内照明オン/オフタッチパッド
3. 右側リーディングランプオン/オフ/調光タッチパッド

すべてのインテリアランプを点灯させるには、タッチパッド (2) をすばやく押します。

i 注意: 車両を離れる際は、すべてのインテリアランプが消灯していることを確認してください。

インテリアランプを消灯させるには、タッチパッド (2) をもう一度押します。

リーディングランプ

リーディングランプを点灯させるには、目的のランプのタッチパッド (1) または (3) を押します。

リーディングランプを調光するには、タッチパッド (1) または (3) を目的の明るさになるまで押し続けます。

それぞれのリーディングランプを消灯させるには、タッチパッド (1) または (3) をもう一度押します。

車内灯

McLarenのインテリアには以下の場所に照明があります:

- ドアを開けた際の運転席および助手席のフットウェル
- センターコンソール（オーバーヘッドコンソール内のランプにより照明）。イグニッションをオンにすると点灯します
- インテリアドアハンドル。イグニッションをオンにすると点灯します

車内灯はドアを閉じるかイグニッションをオンにしてから 60 秒後に消灯します。

ムードライト

ムードライトの色と輝度は、マクラーレンインフォテイメントシステム (MIS) 設定メニューを使用して調整できます。ライト設定、ページ 4.13を参照してください。

快適機能と便利機能 インテリア機能

乗車照明

乗車照明は、車両に近づいたときの視界と安全性を改善します。

車両のロックを解除すると、ヘッドライトとテールランプが一定時間、またはイグニッションスイッチをオンにするまで点灯します。

乗車照明の点灯時間の設定方法はライト設定、ページ 4.13 を参照してください。

降車照明

降車照明は、ヘッドライトとテールランプを一定時間点灯し、車両を離れる際の視界と安全性を改善します。

降車照明の点灯時間の設定方法はライト設定、ページ 4.13 を参照してください。

降車照明は、方向指示器レバーを手前に 3 回瞬間に引くことによっても作動させることができます。車両はアウェイク状態で、イグニッションがオフである必要があります。

降車照明が作動中に方向指示器レバーを引くと、1 回引く度に 15 秒ずつ時間が延長されます。

車両から降車してロックし、設定した作動時間が過ぎると、降車照明が消灯してこの機能は使用できなくなります。再度作動させるにはマクラレンインフォテイメントシステム (MIS) でオンにするか、方向指示器レバーを使用して手動で作動させます。

オーナー文書

McLaren 車には以下の文書が備え付けられています:

- サービスおよび保証ガイド - 問題発生時の対処方法と連絡先が記載されています。
- オーナーズハンドブック - マクラレンの操作方法について説明します。



サービスおよび保証ガイドは、助手席側のダッシュボード下のスロットに収納することができます。

快適機能と便利機能 インテリア機能

サンバイザー



運転の際に直射日光から目を守るために、サンバイザーを下ろしてください。

バニティミラー

この個人用ミラーを使用するには、サンバイザーのパネルをスライドさせます。

アクセサリー電源ソケット

フロントサービスエリアのアクセサリーソケット



フロントサービスエリアにアクセスするには、フロントサービスカバー、ページ 1.08 を参照してください。

フロントサービスエリアにあるアクセサリーソケットの最大負荷電流は 20 アンペアで、このソケットのみがマクラーレンのバッテリー チャージャーを接続するために使用することができます。

i 注意: 車両から電力の供給を受ける機器は、エンジンをかけている場合を除き、このソケットに接続したまま長時間放置しないでください（マクラーレンのバッテリー チャージャーを除く）。バッテリーの過放電の原因となります。

インテリアアクセサリーソケット



インテリアアクセサリーソケットは、センター コンソールの中にあり、最大負荷電流は 15 アンペアです。

i 注意: バッテリー チャージャーをインテリア アクセサリーソケットに接続しないでください。

快適機能と便利機能 インテリア機能

USB ソケット

メディア USB ソケット



メディアUSBソケットは、センターコンソールの収納ボックス内側にあります。

USB フラッシュドライブ、iPod などの互換性のある MP3 プレーヤーを接続するために、2つのメディアUSBソケットを使用することができます。

これらのソケットは、互換性のある携帯電話やメディアデバイスを充電するために使用することができます。

i 注意: USB1 ポートは高出力でモバイル機器の充電に適しています。

MSO プッシュトウドリンクシステム

MSO プッシュトウドリンクシステムを使用すると、ドライバーはヘルメットを着用して車両を走行しているときでも飲料を補給することができます。

運転席シートと助手席シートの間にドリンクディスペンサー単位が装備されており、要求に応じてドライバーに飲料を送り出します。シートハーネスにドリンクディスペンサーボタンが備えられており、ベルクロストラップの位置を変えることで、ドライバー好みに合わせて調節することができます。

必要に応じてクイックリリースコネクターと粘着クリップを使用すれば、ドライバー好みに合わせて供給ホースをヘルメットに取り回すこともできます。必要であれば、ホースをヘルメットの中に入れて固定することもできます。

⚠ 警告: ケーブルと供給ホースは、ドライバーが車両をコントロールするのを妨げない位置に必ず配置してください。

ドリンクボトルを取り外す



- ボトルリリースボタン (1) を押します
- ボトルを引き上げて、ディスペンサー (2) から外します

ドリンクボトルを固定する

- ボトル全体をディスペンサーに差し込みます。所定の位置にボトルが収まると、カチッという音が聞こえます。

快適機能と便利機能 インテリア機能

システムを清掃する

i 注意: 使用後は毎回、ドリンクボトル、供給ホースおよびコネクターの状態を点検してください。損傷している物品は再使用しないでください。

中身が残った状態でドリンクボトルを保管しないでください。

システムは、消毒してから中身を空にして保管し、使用する再はその前にもう一度消毒します。

ドリンクボトルはキャップを取り外して保管してください。

1. ドリンクボトルをすすぎ、清涼飲料を入れます。

i 注意: ドリンクボトルを完全に空の状態にはしないでください。

2. ドリンクボトルをディスペンサーに差し込み、システムを操作して飲料を流します。

システムを空にする

1. 空のドリンクボトルをディスペンサーに差し込みます。

2. ドリンクチューブを接続し、容器に差し込みます。

3. 30秒間、または飲料がすべて排出されるまでシステムを操作します。

i 注意: 供給ホースを外すと、乾燥時間を短縮できます。

McLaren

メンテナンス

フルードの補充.....	6.02	マニュアルでロックを解除しドアを開ける.....	6.19
エンジンオイル.....	6.02	ロック解除・放電したバッテリー.....	6.19
ギアボックスオイルレベル.....	6.04	車両の始動.....	6.20
クーラント.....	6.04	車内からドアを開ける - 放電したバッテリー.....	6.21
パワーステアリングフルード.....	6.05	リモコンキーの電池の交換.....	6.21
ブレーキフルード.....	6.06	フロントサービスカバーを開く - 電池が放電した場合.....	6.22
フロントウィンドウウォッシャー.....	6.07		
非常用装備.....	6.08	ウォッシャーとワイパー.....	6.25
安全性.....	6.08	ワイパーフレードの交換.....	6.25
概要.....	6.08		
タイヤシーラント.....	6.08	ホイールとタイヤ.....	6.27
けん引フック.....	6.09	ホイールとタイヤ.....	6.27
燃料フィラーパイプ.....	6.09	タイヤがパンクした場合.....	6.31
リアサービスカバー取り外しツール.....	6.09		
センターロックナットトルクツール.....	6.10	車両のお手入れ.....	6.32
ロッキングリング取り外しツール.....	6.10	McLaren 車の洗車.....	6.32
マニュアルドアリリースキーホルダー.....	6.10	インテリアのクリーニング.....	6.33
バッテリーの点検と保守.....	6.11	車両カバー.....	6.34
安全性.....	6.11		
バッテリーの充電.....	6.11	車両のリフト.....	6.35
他車両からのブースト始動.....	6.12	車両のリフトポイント.....	6.35
ヒューズ.....	6.13		
ヒューズの交換.....	6.13	McLaren アシスタンス.....	6.36
メインヒューズボックス.....	6.13	McLaren アシスタンス.....	6.36
セカンダリヒューズボックス.....	6.15	交換用バッテリー.....	6.36
バッテリーヒューズボックス.....	6.17	故障時.....	6.36
照明.....	6.18	回収のためのけん引.....	6.37
車両のランプ.....	6.18		

メンテナンス フルードの補充

エンジンオイル



このエンジンは、運転方法にもよりますが、1,000 km (625 マイル) につき約 0.1 リットルのオイルを消費します。車両が新しいうちや、高回転で走行することが多い場合は、オイルの消費量はこれよりも多くなることがあります。

オイルの消費量は、数千マイルあるいは数千キロメートルを走行した後でないと、測定することはできません。

i 注意: 潤滑油添加剤はエンジンやギアボックスを損傷するおそれがあります。添加剤によって生じた損傷は車両保証の範囲外となります。詳しい情報はマクラーレン代理店から入手できます。

エンジンオイルの点検

- 以下の条件を満たしていることを確認します。
 - 車両が静止状態で、水平な地面に置かれている。
 - ニュートラルを選択し、フットブレーキを（左足で）踏んでいる。



i 注意: オイルレベル点検中は常にフットブレーキを踏んでいる必要があります。



- オイルレベルは折り畳み式ドライバーディスプレイの車両情報セクションに表示されます。オイルの状態、ページ 3.07 を参照してください。
- エンジンを始動し、エンジン回転数を 2,000 rpm に 120 秒間保ちます。エンジンオイル温度が 90 °C (194 °F) になるまで待ちます。



i 注意: スロットルペダルを完全に踏み込んでも、電子制御によりエンジン回転数は 2,000 rpm に抑制されます。

- タイマーが 0 になると、オイルレベルが説明とともに折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されます。



i 注意: ディスプレイ上の線は、オイルレベルの読み取り後 19 秒間の最大オイルレベルを示しています。



- エンジンオイルが目標オイルレベル未満の場合、次の手順に従ってオイルを補充します。

メンテナンス フルードの補充

i 注意: オイルレベル点検が完了して結果が表示されたら、システムのテストを終了してください。そのままテストを続けると、オイルに空気が混入し、誤った値が返される可能性があります。オイルレベル点検を終了するには、スロットルペダルを放し、メニュー レバーを後ろに動かして車両情報メニューに戻ります。

エンジンオイルの補充

- リアサービスカバーを開きます。
リアサービスカバー, ページ 1.09 を参照してください。



- エンジンオイルフィラーキャップを取り外します。

3. 正しい分量の Mobil 1 FS 0W-40 エンジンオイルを補充します。補充する量, ページ 6.03 を参照してください。

4. 折り畳み式ドライバーディスプレイでレベルが適正であることを確認します。

i 注意: 誤ってエンジンオイルを入れ過ぎてしまった場合は、マクラーレン代理店に入れ過ぎたオイルの抜き取りを依頼する必要があります。エンジンや触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

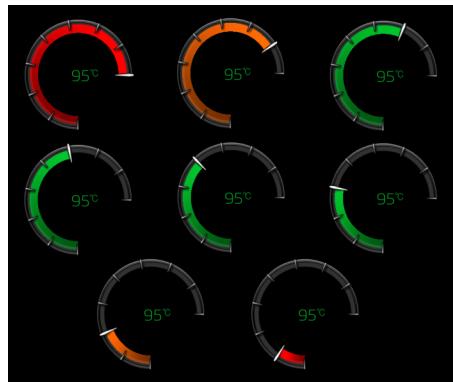
5. エンジンオイルフィラーキャップを取り付けます。

i 環境: オイルを補充する際は、オイルをこぼさないように注意してください。オイルを地面や水路に流してはなりません。

i 注意: オイルフィラーキャップが正しく取り付けられていることを確認してください。

- リアサービスカバーを閉めます。
リアサービスカバー, ページ 1.09 を参照してください。

補充する量



折り畳み式ドライバーディスプレイに表示されるオイルの量に従って、以下の表で示されているように必要な量のオイルを追加してから、またエンジンオイルレベルを点検します。

ディスプレイ上のセグメント	必要なオイルの量
1 - 赤 - 不足	0.90 リットル
2 - アンバー - 最小値	0.70 リットル
3 - 緑 - OK	0 リットル

メンテナンス フルードの補充

ディスプレイ上のセグメント	必要なオイルの量
4 - 緑 - OK	0 リットル
5 - 緑 - OK	0 リットル
6 - 緑 - OK	0 リットル
7 - アンバー - 最大値	0 リットル
8 - 赤 - 過多	マクラーレン代理店にお問い合わせください

オイル温度

オイル温度が高すぎる場合、折り畳み式ドライバーディスプレイに警告が表示されます。警告メッセージが消えるまで、車速とエンジン回転数を下げます。

ギアボックスオイルレベル

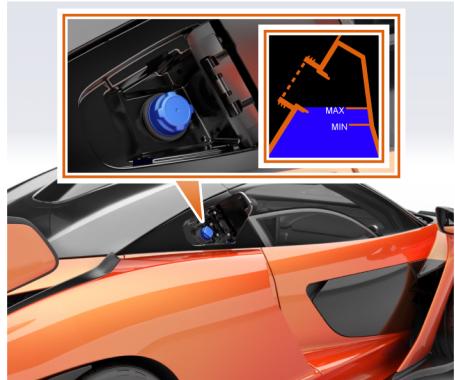
オイルの減少、あるいはギアシフトの問題が生じた場合は、マクラーレン代理店にギアボックスの点検を依頼してください。

i 注意: クラッチオイルとギアボックスオイルの整備間隔は走行距離によって決まります。このメンテナンスは、マクラーレン代理店のみが行えます。

クーラント

クーラントは水と凍結防止剤/防錆剤の混合液です。クーラントの点検時は必ず車両を水平な場所に停車し、エンジンが冷えた状態で行ってください。

クーラントの補充



1. クーラントフィラーフラップの上端を押すと、ラッチが解除されてフラップが開きます。
2. キャップを反時計回りにゆっくりと半回転させ、圧力を逃がします。
3. キャップを完全に開けて取り外します。

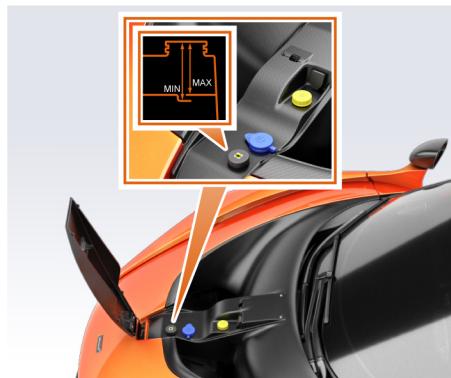
メンテナンス フルードの補充

- MAX マーカーの上部にある場合は、クーラントレベルは正常です。
- 必要に応じ、必ず Mobil Antifreeze Extra を補充してください。
- キャップを時計回りに止まるまで回して取り付けます。
- クーラントフィラーフラップを閉めます。

パワーステアリングフルード

⚠ 警告: パワーステアリングフルードは高い引火性があります。パワーステアリングフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

⚠ 警告: パワーステアリングフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。



フルードレベルの点検

- イグニッションをオンにしてエンジンを始動します。コンフォートハンドリングモードを選択します（ハンドリングコントロール、ページ 2.22を参照）。
- フルードレベルを点検する前に、エンジンを 20 秒間アイドリングします。
- フロントサービスカバーを開けます。フロントサービスカバー、ページ 1.08を参照してください。
- キャップを反時計回りに回して取り外します。
- MAXマーカーの上部にある場合は、パワーステアリングフルードレベルは正常です。
- 必要に応じて補充します。必ず Pentosin CHF202 パワーステアリングフルードを補充してください。マクラーレン代理店にお問い合わせください。
- キャップを元に戻します。
- フロントサービスカバーを閉じます。フロントサービスカバー、ページ 1.08を参照してください。

メンテナンス

フルードの補充

ブレーキフルード

! 警告: ブレーキフルードは高い引火性があります。ブレーキフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

! 警告: ブレーキフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

! 警告: 必ず密封された容器に入った新品のフルードを使用してください。

i 注意: ブレーキフルードは塗装面に有害であるため、こぼさないように注意してください。こぼしてしまったときは、すぐにカーシャンプーの水溶液で洗い落してください。

i 注意: ブレーキフルードの点検と補充を行う前には、必ずエンジンを停止してください。



6. フロントサービスカバーを閉じます。フロントサービスカバー、ページ 1.08を参照してください。

フルードレベルの点検

1. フロントサービスカバーを開けます。フロントサービスカバー、ページ 1.08を参照してください。
2. キャップを反時計回りに回して取り外します。
3. ブレーキフルードは、フィラーネック内のフィルターのベースがちょうど浸る程度であれば適正レベルです。
4. 必要に応じて、必ず新品の Pentosin DOT 5.1 ブレーキフルードを補充してください。
5. キャップを元に戻します。

メンテナンス フルードの補充

フロントウィンドウウォッシャー

⚠ 警告: 一部のウォッシャーフルードは高い引火性があります。ウォッシャーフルードを取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です。

⚠ 警告: ウォッシャーフルードは有毒です。容器は密封し、お子様の手の届かない場所に保管してください。フルードを誤飲した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

i 注意: マクラーレンは Mobil スクリーンウォッシュ濃縮液を使用することを推奨します。

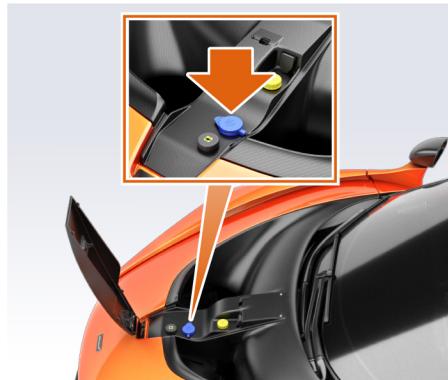
i 注意: 一年間を通じてウォッシャーフルードをリザーバーに補充してください。

フロントウィンドウウォッシャーのリザーバーはフロントサービスエリアにあります。

リザーバーの容量は約 1.1 リットルです。

フルードレベルの点検

1. フロントサービスカバーを開けます。フロントサービスカバー、ページ 1.08 を参照してください。
2. リザーバーに補充する前に、クリーンウォッシュ濃縮液と水を容器で混合します。ウォッシャー溶液は気温に適した濃度になるように混合する必要があります。



3. リザーバーのキャップを開けてウォッシャーフルードを補充し、キャップを閉めます。
4. フロントサービスカバーを閉じます。フロントサービスカバー、ページ 1.08 を参照してください。

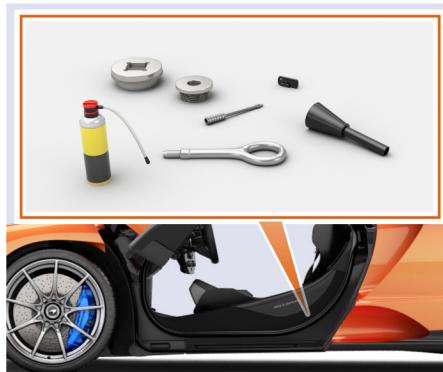
メンテナンス 非常用装備

安全性

非常用装備を使用する前に、以下の安全情報を良くお読みください。

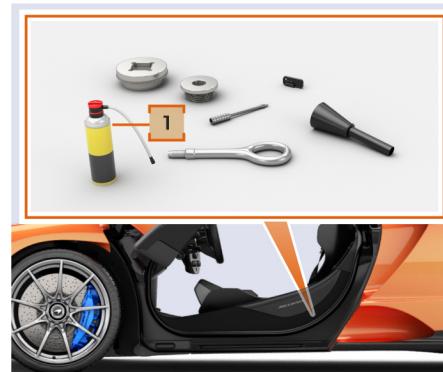
警告: 非常用装備を使用する際には必ず、適切な使用法を確認し、本来の目的にのみ使用してください。非常用装備は必ず、安全かつ責任ある方法により、他の交通に注意して使用してください。

概要



i 注意: けん引フックは救急キットケースに入っています。燃料フィラーパイプは車両に付属しています。

タイヤシーラント



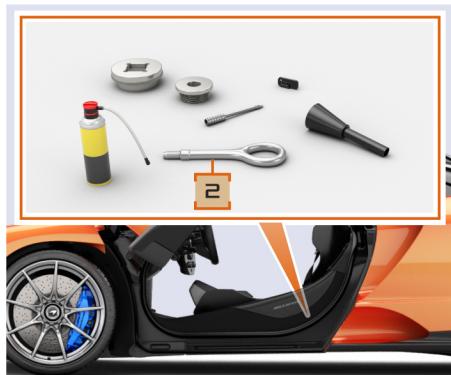
タイヤシーラント（1）は運転席シートの背面にあります。

タイヤシーラントの使用法の説明はタイヤがパンクした場合、ページ6.31を参照してください。

i 注意: タイヤシーラントの使用期限を12か月ごとに確認し、必要に応じて交換してください。

メンテナンス 非常用装備

けん引フック



けん引フック（2）は、運転席シートの背面にある救急キットケースの中に入ります。

i 注意: お客様のマクラーレンには、フロントけん引フックマウントのみが装備されています。他の車両をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方法についてはけん引フックとマウント、ページ 6.37 を参照してください。

燃料フィラーパイプ

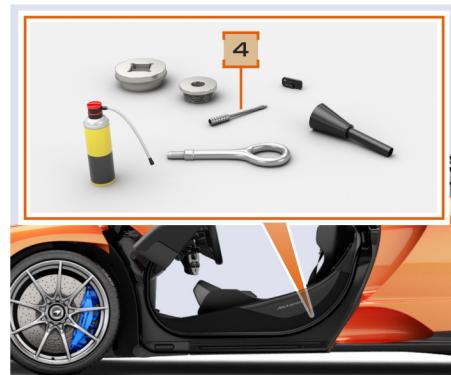


燃料フィラーパイプ（3）は車両に付属しています。

i 注意: 燃料フィラーパイプはガソリンスタンドの給油機以外から燃料を給油する際にのみ使用してください。

クーラント、エンジンオイル、その他のフルードの補充に燃料フィラーパイプを使用しないでください。

リアサービスカバー取り外しツール



リアサービスカバー取り外しツール（4）は、運転席シートの背面にある救急キットケースの中に入ります。

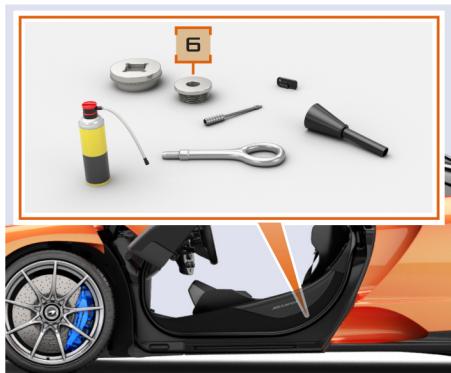
メンテナンス 非常用装備

センターロックナットトルクツール



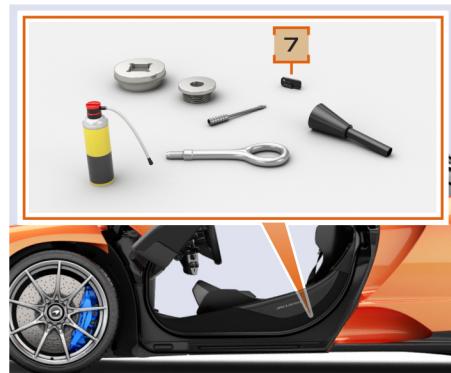
センターロックナットトルクツール（5）は、運転席シートの背面にあるアクセサリーバッグの中にあります。

ロックリング取り外しツール



ロックリング取り外しツール（6）は、運転席シートの背面にあるアクセサリーバッグの中にあります。

マニュアルドアリリースキーholder



マニュアルドアリリースキーholder（7）は車両に付属しています。

i 注意: 車両バッテリーまたはリモコンキーの電池が放電してしまった場合にマニュアルドアリリースキーholderを使用すると、車両へのアクセスを確保する機械式キーが回しやすくなります。そのため、マニュアルドアリリースキーholderは車内に保管しないでください。

メンテナンス

バッテリーの点検と保守

安全性

バッテリーチャージャーを使用する前に、以下の安全情報をよくお読みください。

⚠ 警告: お客様のマクラーレンにはリチウムイオンバッテリーが搭載されています。リチウムイオンバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

⚠ 警告: お客様のマクラーレンに搭載されているリチウムイオンバッテリーはシールドタイプです。バッテリーセルの点検のためにバッテリーシールを破壊してはなりません。

⚠ 警告: 車両を長期間使用しない場合は、リチウムイオンバッテリーを適切なリチウムイオンバッテリーチャージャーに接続し、電源を入れておいてください。そうすることでバッテリーを維持し、寿命を延ばすことができます。

⚠ 警告: 使用する前にすべてのケーブルが正常な状態であることを確認してください。傷んだケーブルは使用しないでください。すべてのケーブルが鋭利なものに触れたり、何かに挟まったり、高温の部分に触れたり水に浸かったりしていないことを確認してください。

損傷したバッテリーは決して充電しないでください。バッテリーの充電は必ず風通しの良い場所で行ってください。決してチャージャーに覆いをかけたり、チャージャーをバッテリーの上に置いたりしてはなりません。

バッテリーの上に金属製のものを置かないでください。バッテリーがショートし、発火するおそれがあります。チャージャーは常にお子様の手の届かない場所に保管してください。

バッテリーの充電

i 注意: リチウムイオンバッテリーを最適な状態に維持するため、車両を長期間運転しない場合、その間は常にマクラーレンのバッテリーチャージャーをバッテリーに接続し、電源を入れておいてください。

i 注意: バッテリーチャージャーをインテリアアクセサリーソケットに接続しないでください。



バッテリーチャージャーの取扱説明書を参照してください。チャージャーはフロントサービスカバー下のアクセサリーソケットに接続します。フロントサービスカバー、ページ 1.08 を参照してください。

メンテナンス バッテリーの点検と保守

他車両からのブースト始動

マクラーレン代理店にお問い合わせください。

メンテナンス ヒューズ

ヒューズの交換

⚠ 警告: ヒューズは車両の電気システムを保護しています。ヒューズが故障すると、各ヒューズが保護しているシステムが動作不能になります。

同一の定格と種類の交換用ヒューズを使用してください。誤った定格のヒューズを使用するとシステムに過負荷がかかり、火災や故障の原因になります。切れたヒューズは必ず交換し、決して修理して使用しないでください。

i 注意: ヒューズを取り外す前にすべての電装品のスイッチを切り、イグニッションスイッチをオフにしてください。

この車両には、以下の3つのヒューズボックスがあります。

ヒューズボックス	場所
メインヒューズボックス	左シート後部のリアバルクヘッド内のパネルの裏側
セカンダリヒューズボックス	助手席側ダッシュボードの下
バッテリーヒューズボックス	バッテリーの上

メインヒューズボックス

メインヒューズボックスへのアクセス



1. メインヒューズボックスにアクセスするには、次の手順に従います。
 - シートを前方にスライドさせます。

2. パネルをバルクヘッドに固定している2つの下側クリップを外し、パネルを取り外します。

3. 作動しなくなった電気システムを保護しているヒューズを判別するには、ヒューズ規格一覧表を参照してください（メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表、ページ6.14を参照）。

i 注意: アクセスパネルの内側に、ヒューズを識別するラベルが貼付されています。

4. 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください。

メンテナンス ヒューズ

5. アクセスパネルの2つの上部保持クリップをバルクヘッドに挿入して取り付け、2つの下部クリップで固定します。

i 注意: ヒューズを交換しても電気系統の問題が解決しない、またはすぐに切れてしまう場合は、マクラーレン代理店にご相談ください。

メインヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	60	右側セカンダリエアポンプ
F2	60	左側セカンダリエアポンプ
F3	-	-
F4	-	-
F5	30	トランスマッisionコントロールユニット
F6	30	トランスマッisionコントロールユニット
F7	30	スターター
F8	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
F9	-	-
F10	-	-
F11	-	-
F12	20	排出ポンプ
F13	5	エンジンコントロールモジュール
F14	5	永久バッテリー
F15	10	リレー
F16	15	オーディオアンプ
F17	3	ドアロックスイッチ
F18	50	ECU メインリーフィード
F19	40	燃料ポンプ
F20	-	-
F21	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
F22	40	燃料リレー
F23	5	チルトセンサー
F24	20	インフォテインメントコントロールユニット
F25	10	運転席/助手席ドアラッチ
F26	3	補助 USB ボード
F27	15	オーディオアンプ
F28	-	-
F29	-	-
F30	-	-
F31	50	左側クーリングファン
F32	50	右側クーリングファン
F33	-	-
F34	-	-

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F35	-	-
F36	20	バッテリーリレー
F37	15	キャニスタークーラー、ラムダセンサー、クーリングファンリレーコイル
F38	15	燃料インジェクション/イグニッション-左バンク
F39	15	燃料インジェクション/イグニッション-右バンク
F40	10	エンジン補機類
R41	-	排出ポンプ
R42	-	-
R43	-	-
R44	-	-
F45	10	電動サーモスタット、カムシャフトアクチュエーター

No.	アンペア	保護対象回路
F46	3	出力シャフト速度、偶数ギアシャフト速度
F47	3	インプットシャフトスピード、奇数ギアシャフト速度
F48	20	ESIB
F49	5	スターター
R50	-	-
R51	-	-
R52	-	フューエルポンプリレー
R53	-	トランスミッションコントロールユニット
R54	-	トランスミッションコントロールユニット
R55	-	スターター
R56	-	右側セカンダリエアポンプ
R57	-	-
R58	-	ECU メインリレーフィード

セカンダリヒューズボックス

セカンダリヒューズボックスへのアクセス

- セカンダリヒューズボックスは、助手席側ダッシュボード下のクロージングパネルを下すことによりアクセスが得られます。



- 正面の 2 本のねじ (1) を取り外します。
- 側面の固定クリップ (2) を取り外します。

i 注意: クロージングパネルを完全に下げるには、さらに背面のクリップ (3) 2 個を取り外します。

メンテナンス ヒューズ

- ヒューズボックスにアクセスできるように、クロージングパネルを十分に下げます。

i 注意: クロージングパネルが傷つかないように、必要以上には下げるでください。



- 該当するヒューズを取り外し、同じ値のヒューズに交換します。不確実な場合はヒューズ規格一覧表で確認してください（セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表、ページ 6.16を参照）。
- クロージングパネルを元の位置に戻してクリップを取り付け、正面の2つのねじを締め付けます。

セカンダリヒューズボックスヒューズ規格一覧表

No.	アンペア	保護対象回路
F1	20	運転席ドア
F2	20	助手席ドア
F3	25	ランプ
F4	35	ランプ
F5	35	ボディ
F6	35	ボディ
F7	35	アラーム
F8	-	-
F9	-	-
F10	-	-
F11	-	-
F12	-	-
F13	-	-

No.	アンペア	保護対象回路
F14	5	トランスマッisionコントロールユニット
F15	10	エアコン
F16	3	アラームコントロールユニット
F17	3	トラッカー
F18	7.5	アラーム
F19	5	センターディスプレイ
F20	3	トランスマッisionコントロールユニットリレー
F21	15	コントロールディスプレイユニット
F22	-	-
F23	5	ドライバーディスプレイ
F24	10	開発コネクター
F25	10	OBD2 診断

メンテナンス ヒューズ

No.	アンペア	保護対象回路
F26	-	-
F27	-	-
F28	-	-
R29	-	トランスマッショントロールユニット
R30	-	トランスマッショントロールユニット

バッテリーヒューズボックス

バッテリーヒューズボックスへのアクセス
マクラーレン代理店にお問い合わせください。

メンテナンス

照明

車両のランプ

照明は車両の安全上重要な局面です。すべてのライトがいつでも点灯することを保証する必要があります。

マクラーレン車のすべての外部ランプは最新の発光ダイオード (LED) 技術を使用しています。

従来のフィラメント式電球とは異なり LED ランプは寿命が長く、低消費電力でありながら同等の照度を実現できます。

ヘッドライト

お客様のマクラーレンには発光ダイオードのヘッドライトが装備されています。これらのランプは、特に悪天候時や走行条件の悪いときに、ロービームでもハイビームでもより広い視界を提供します。

i 注意: 発光ダイオードをご自分で交換しないでください。車両の照明システムを損傷するおそれがあります。故障の場合は、最寄りのマクラーレン代理店にお問い合わせください。

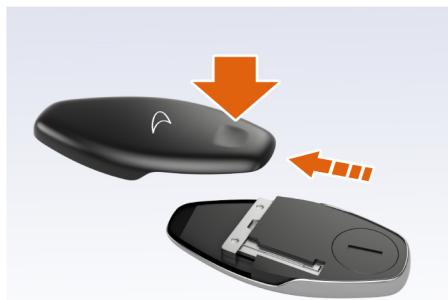
メンテナンス

マニュアルでロックを解除しドアを開ける

ロック解除 - 放電したバッテリー

車両のバッテリーが放電した場合、またはリモコンキーの電池の放電によって車両をロックまたはロック解除できなくなった場合は、機械式キーを使用してください。

ロックを解除しドアを開ける手順



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。



2. 機械式キーをリモコンキーから取り外します。



3. 機械式キーをマニュアルドアリリースキー ホルダーに挿入します。
マニュアルドアリリースキー ホルダー、ページ 6.10 を参照してください。

メンテナンス

マニュアルでロックを解除しドアを開ける



4. 機械式キーをロックに挿入し、マニュアルドアリリースキーholderをてこ代わりに使い、機械的抵抗がなくなりドアが完全にリリースされる位置までキーを反時計回りに回します。
5. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。
6. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。



注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。ドアを開けたら、10秒以内に、リモコンキーをスイッチパネルのすぐ後ろのセンターコンソールのセクションに置いてください。車両がリモコンキーを認識し、アラームの鳴動を中止します。

7. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（リモコンキーの電池の交換、ページ 6.21を参照）。
8. マニュアルドアリリースキーholderを安全な保管場所に戻します。

車両の始動



リモコンキーの電池が放電しており、エンジンが始動しない場合は、スイッチパネルのすぐ後ろにあるセンターコンソールのセクションにリモコンキーを置きます。

この場所に置くと車両は有効なリモコンキーの存在を感じでき、車両を始動し、走行することができます。

できるだけ早い機会にリモコンキーの電池を交換してください。リモコンキーの電池の交換、ページ 6.21を参照してください。

メンテナンス

マニュアルでロックを解除しドアを開ける

車内からドアを開ける - 放電したバッテリー



車内からドアをリリースするには、マニュアルドアリリースストラップリテーナを外し、ストラップを引きます。

ドアラッチが外れると、ドアが少し持ち上がり、外側上方に自動的に回転します。

リリースストラップを取り付けるには、ストラップをホルダー内に入れ、リテーナを元の場所にはめ込みます。

i 注意: このストラップは、バッテリーが放電したとき以外は使用しないでください。

i 注意: 使用後は、マニュアルドアリリースストラップの両方のリテーナがドア開口部の正しい位置に正しく取り付けられていることを確認してください。

i 注意: リテーナをドア開口部の所定の位置に取り付ける前に、マニュアルドアリリースストラップが完全に巻き取られていることを確認してください。

リモコンキーの電池の交換



1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。

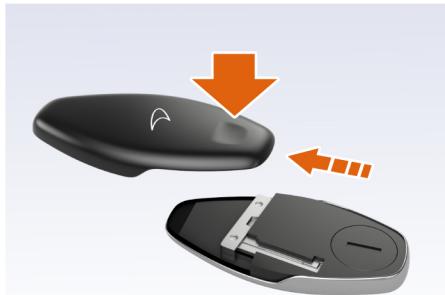
メンテナンス

マニュアルでロックを解除しドアを開ける



フロントサービスカバーを開く - 電池が放電した場合

ラゲッジルームを開ける手順



2. バッテリーカバーのネジを外し、放電したバッテリーを取り出します。
3. 極性が正しいことを確認し、新しいバッテリーを取り付けます。

i 注意: 電池にはできるだけ触れないでください。指の水分と油分によって電池の寿命が縮んだり、接点が腐食したりするおそれがあります。電池を持つ場合は、端のみを持ってください。

4. しっかりと密封されていることを確認して、バッテリーカバーを取り付けます。
5. リモコンキーにバックカバーを取り付けます。

1. 親指でインデントを押してリモコンキーからバックカバーをスライドさせます。

2. 機械式キーをリモコンキーから取り外します。

メンテナンス マニュアルでロックを解除しドアを開ける

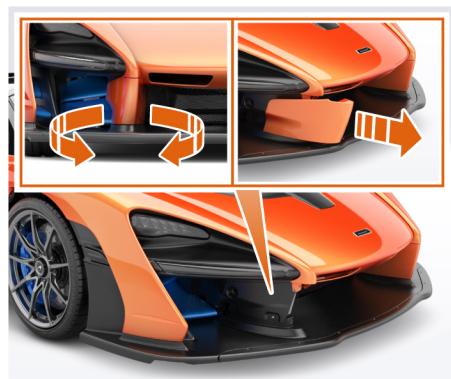


3. 機械式キーをマニュアルドアリリースキー ホルダーに挿入します。
マニュアルドアリリースキー ホルダー、ページ 6.10 を参照してください。



4. 機械式キーをロックに挿入し、マニュアルドアリリースキー ホルダーをてこ代わりに使い、機械的抵抗がなくなりドアが完全にリリースされる位置までキーを反時計回りに回します。
5. ドアのラッチ部分に圧力をかけ（ドアシールの圧力に対抗するため）、さらにキーを回してドアをリリースします。
6. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。

i 注意: 機械式キーを用いて車両のロックを解除すると盗難防止システムが作動し、アラームが鳴ることがあります。ドアを開けたら、10秒以内に、リモコンキーをスイッチパネルのすぐ後ろのセンターコンソールのセクションに置いてください。車両がリモコンキーを認識し、アラームの鳴動を中止します。



7. 後端を外し、カバーを前方に引いてフロントバンパーから取り外します。

メンテナンス

マニュアルでロックを解除しドアを開ける



8. 機械式ロックは右側フロントエアダクトにあります。

機械式キーをロックに挿入し、マニュアルドアリリースキーholderをてこ代わりに使ってキーを反時計回りに回して、フロントサービスカバーのロックを解除して外します。

9. フロントサービスカバーを開けると、完全に開いた位置でカバーがヒンジによって支持されます。
10. マニュアルドアリリースキーholderを安全な保管場所に戻します。
11. 機械式キーを元通りリモコンキーに取り付けます。
12. リモコンキーの電池が放電している場合は、できるだけ早い機会にバッテリーを交換してください（リモコンキーの電池の交換、ページ 6.21を参照）。



メンテナンス ウォッシャーとワイパー

ワイパーブレードの交換

⚠ 警告: ワイパーブレードを交換する際は、イグニッションスイッチがオフになっていることを確認してください。フロントウィンドウワイパーが作動した場合、負傷するおそれがあります。

⚠ 警告: ワイパーブレードは 12か月ごとに交換してください。そうしないと、フロントウィンドウを十分に拭き取ることができなくなります。その結果、道路や交通状況が十分に把握できず、事故につながるおそれがあります。

ワイパーブレードの停止

- STOP/START（始動/停止）ボタンを1回押してイグニッションをオンにします。ブレーキペダルは踏まいでください。
- ワイパーコントロールストロークを手前に2回引くと、ワイパーは冬季用停止位置に移動し、その後サービス停止位置に向かいます。

冬季用停止位置では、ワイパーアームが垂直になり、水はけを良くして雪が積もらないようにします。

サービス停止位置では、ワイパーアームがワイパーブレードの交換に便利な位置になります。

メインワイパーブレードの取り外し方



- ワイパーブレードをフロントウィンドウのサービス停止位置に合わせます。ワイパーブレードの停止、ページ 6.25 を参照してください。
- ウィンドウからメインワイパーarmを持ち上げます。
- ワイパーブレードを 90 度回転させ、矢印の方向に取り外します。

i 注意: ワイパーブレードを装着せずにワイパーarmをフロントウィンドウに下ろさないでください。

新しいメインワイパーブレードの取り付け方

- ワイパーarmにワイパーブレードをスライドさせ、90 度回転させます。
- 注意: ワイパーブレードが確実にワイパーarmに装着されていることを確認します。
- ワイパーarmをフロントウィンドウに下ろします。
- ワイパーコントロールストロークを手前に1回引くと、ワイパーは通常の停止位置に戻ります。

スモールワイパーブレードの取り外し方



メンテナンス ウォッシャーとワイパー

1. ワイパーブレードをフロントウィンドウのサービス停止位置に合わせます。ワイパー ブレードの停止、ページ 6.25 を参照してください。
2. ウィンドウからスマートワイパー アームを持ち上げます。
3. ワイパーブレードクリップを押し下げる、アームから引き抜きます。

i 注意: ワイパーブレードを装着せずにワイパー アームをフロントウィンドウに下ろさないでください。

新しいスマートワイパー ブレードの取り付け方

1. ワイパーブレードをワイパー アームにスライドさせ、クリップがアームとかみ合ったことを確認します。
2. ワイパー アームをフロントウィンドウに下ろします。
3. ワイパー コントロールストロークを手前に1回引くと、ワイパーは通常の停止位置に戻ります。

メンテナンス ホイールとタイヤ

ホイールとタイヤ

- ⚠ 警告: すり減ったタイヤはアクスルごとに一対で交換し、タイヤが指定通りに取り付けられていることを確認してください。すり減ったタイヤで走行すると、特に高速走行時に車両の安定性に悪影響が生じます。新しいタイヤを装着した場合は、運転スタイルに合わせた適切なベディングについて、マクラーレン代理店にご相談ください。**
- 新品タイヤの装着後は、高速でのコーナリングやスピードの出し過ぎは避けてください。
 - 必ず同一タイプおよびメーカーのホイールとタイヤを装着してください。
 - パンクを修理したタイヤは決して使用しないでください。
 - 必ず正しいサイズのタイヤを装着してください。
 - タイヤは紫外線、極度の高温や低温、高荷重、環境条件の影響により時間とともに劣化します。タイヤは6年ごと、もしくは必要に応じてそれより短い期間で交換することを推奨します。

マクラーレンはPirelli サマータイヤまたはウィンタータイヤを使用することを推奨します（ホイールおよびタイヤサイズ、ページ 7.07を参照）。

これらのタイヤはMcLarenが特別に認定したタイヤであり、車両の安全システムとの組み合せによって最高のパフォーマンスを最大限に提供します。

McLarenは他のタイヤおよびホイールの使用によって生じた損傷については責任を負いません。ホイールおよびタイヤに関する詳しい情報は、マクラーレン代理店から入手できます。

⚠ 警告: マクラーレンの推奨タイヤ以外を使用した場合、タイヤが車体に接触して、ハンドリングに悪影響が生じる可能性があります。その結果、車両をコントロールできなくなり、死亡または重傷を負う可能性があります。騒音レベルおよび燃費にも悪影響が生じる可能性があります。さらに、荷物を積載した場合、またはスノートラクションデバイスを使用した場合、走行中にそれらが車体やアクスルコンポーネントに接触する可能性があります。その結果、タイヤもしくは車両が損傷するおそれがあります。

i 注意: 更正タイヤは決して使用してはなりません。中古タイヤは以前の使用状況に関する情報がない限り装着しないでください。

i 注意: ブレーキシステムおよびホイールの改造は認められていません。スペーサープレートやブレーキダストシールドの使用についても同様です。こうした改造を行った場合は、改造箇所に関する車両保証は無効となります。

i 注意: ホイールの交換は、必ずマクラーレン代理店で行ってください。不適切にジャッキアップした場合、車両を損傷するおそれがあります。

i 注意: タイヤは涼しく乾燥した、できれば光の当たらない場所に保管してください。タイヤにオイル、グリス、ガソリンが付着しないように保護してください。

タイヤのマーク



- ミリメートル単位のタイヤの幅。
- タイヤ幅のパーセンテージで示されたタイヤの扁平率。
- ラジアルタイヤであることを示します。

メンテナンス ホイールとタイヤ

- ホイールリムの直径をインチで示します。
- 数字はロードインデックスを、文字は速度規格を示します。91は615 kg (1,350 ポンド) を示し、Yは300 km/h (186 mph) 以上の速度を示します。
- タイヤの最大耐荷重を示します。
- トレッド摩耗等級番号。数字が大きいほどタイヤの耐久性が高いことを示します。
- 英字は耐熱規格を示します。A規格タイヤの耐熱性は最高です。
- タイヤの製造に関する情報。製造場所と製造日を表示しています。

タイヤ

警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。ホイールに装着する際、タイヤ外縁のOUTSIDEの文字が外側に表示されるようにしなければなりません。そうしないと、特に高速走行時に車両の走行安定性が損なわれます。

非対称タイヤ



非対称タイヤはトレッドの片側が反対側とは違うパターンになっています。このトレッドの組み合わせによって、濡れた路面と乾燥した路面のどちらでも高いグリップ性能を発揮します。

外側のトレッドはより大きく固いトレッドパターンとなっており、高いコーナリング安定性を実現します。内側のトレッドパターンは濡れた路面での安定性を高めます。タイヤの一部の溝は直進安定性に寄与します。

警告: 本車両にはマクラーレン推奨タイヤ以外は装着しないでください。

⚠ 警告: タイヤはタイヤウォールの標示に従って取り付けてください。非対称タイヤのメリットを得るためにには、タイヤを正しく装着してください。

Trofeo R タイヤ

安全上のリスクが高いため、ドライビングスキルと車両の性能レベルの上限を一致させる必要があります。

i 注意: これらのタイヤは超高性能設計で特別な製造工程で製造されるため、摩耗や走行距離にかかわらず、常に車軸単位（フロントおよびリア）で交換してください。車軸単位で交換しないと、車両のハンドリング特性に悪影響を及ぼす可能性があります。

Trofeo R タイヤの主な特徴は、他のタイヤよりも浅いトレッドと専用のトレッドパターンおよびカーカスです。

⚠ 警告: 摩耗したタイヤで走行すると事故のおそれがあります。Trofeo R タイヤはトレッドが浅いので、早い段階で摩耗限度に達します。摩耗したタイヤによる死亡または重傷を負う危険性を避けるには、タイヤの摩耗状態を頻繁に点検することが重要です。

メンテナンス ホイールとタイヤ

⚠ 警告: 路面との接触、車両のコントロール、およびブレーキ能力が失われることで事故の危険が高まり、重傷や死亡に至るおそれがあります。タイヤのトレッドが浅いため、濡れた路面でのハイドロブレーニング現象のリスクも高まります。濡れた道路や泥が浮いた路面を走行する場合は、スピードを大幅に抑えてください。

i 注意: 車両を使用するすべての人々に、これらの特性と想定される影響を必ず伝えてください。

ホイールとタイヤの点検

少なくとも7日ごとにタイヤに切れ目、パンク、亀裂、瘤、変形、ひび割れなどがないか確認してください。ホイールに著しい腐食がないか確認してください。ホイールが損傷していると空気圧低下の原因になります。

定期的にタイヤトレッドの深さとタイヤ全体のトレッドの状態を点検してください。ハンドルをいっぱいに切り、内側のトレッドまで点検してください。



トレッドが1.6 mmまで摩耗すると、トレッドパターンの表面にスリップマークが現れ、タイヤ幅に渡ってゴムの帯ができます。スリップマークが現れたときはすぐに、（あるいは法によりこれより深いトレッドが必要な場合はその前に）タイヤを交換してください。

i 注意: タイヤは必ずマクラーレン代理店で交換することを推奨します。各ホイールには、タイヤバルブに接続されたタイヤ圧力センサーが装着されています。センサーの損傷を防止するために、正しい手順でタイヤを交換する必要があります。

⚠ 警告: 濡れた路面や凍結路では、特にトレッドの深さが最低限に近いときはタイヤのグリップが急激に低下します。タイヤグリップの低下のため車両のコントロールを失い、事故に至るおそれがあります。速度を落とし、いつも以上に注意深く運転してください。

i 注意: トレッドの摩耗がタイヤ全体で偏りがある場合や異常に摩耗している場合は、ホイールアライメントを検査する必要があります。

すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて調整してください。タイヤ空気圧、ページ7.08を参照してください。

バルブを泥や水分から守るために、すべてのホイールにバルブキャップを装着する必要があります。

走行時の注意事項

車両を駐車する際には、タイヤが縁石や他の障害物に触れていないことを確認してください。縁石や減速ブロック、壅みを乗り越える必要がある場合は減速し、浅い角度で障害物に接近してください。そうしないと、タイヤを損傷するおそれがあります。

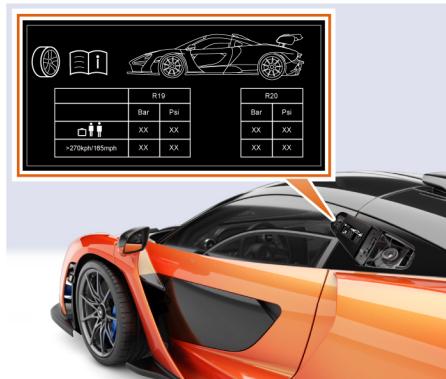
メンテナンス ホイールとタイヤ

走行中は振動、異音、ハンドルが取られるなどの異常がないか注意してください。もしそのような異常がある場合は、タイヤもしくはホイールが損傷している可能性があります。異常を感じた場合は、安全に速やかに減速して停車し、タイヤやホイールが損傷していないか点検してください。損傷が見られない場合でも、マクラーレン代理店に点検を依頼してください。

タイヤ空気圧

警告: タイヤ空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると車両のアクティブセーフティに悪影響が生じ、事故につながるおそれがあります。すべてのタイヤの空気圧を高い頻度で、特に長距離ドライブに出かける際などに点検し、必要に応じて調整してください。

警告: タイヤの空気圧が繰り返し低下する場合は、タイヤに異物やパンクの兆候がないか、バルブにエア漏れがないか点検してください。



異なる運転条件でのタイヤの空気圧については、**タイヤ空気圧**、ページ 7.08を参照してください。空気圧は燃料フィラーフラップに貼付されているラベルにも記載されています。

高速走行する際は必ずタイヤの空気圧を点検し、必要に応じて調整する必要があります。

i 注意: 一部の市場では、タイヤ空気圧ラベルは運転席側ドア下部に貼付されています。

i 注意: 低負荷走行用に指定されているタイヤ空気圧は、最適な乗り心地が得られるよう最低限の値となっています。

負荷が大きいときは空気圧を上げても車両の走行に悪影響を与えることはありませんが、乗り心地は悪くなります。

空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤが暖まっているときに点検する必要がある場合は、より高い空気圧が必要です。タイヤが暖まっているときに、タイヤが冷えた状態のときの推奨空気圧に合わせてタイヤの空気を抜かないでください。

タイヤの空気圧が高過ぎたり低過ぎたりすると以下の不具合が生じるおそれがあります：

- タイヤが破損し、死傷事故につながる。
- タイヤの寿命が縮まる。
- タイヤの損傷が増大する。
- ハンドリング特性に悪影響が生じる（ハイドロプレーニング現象などが起こる）。

i 環境: 少なくとも週に 1 回はタイヤ空気圧を点検してください。

ホイールの相互交換

警告: お客様のマクラーレンに代替として装着できるのは、ウインターフィーを装着した認定ホイールのみです。

メンテナンス ホイールとタイヤ

タイヤがパンクした場合

お客様のマクラーレンは運転席シートの背面にタイヤシーラントの容器を備えています。

パンクの際は以下の手順に従ってご自身、他の乗員および他の通行者の安全を確保してください。

パンクの修理

- 他の交通からできる限り離れた、固く水平な場所に車両を停止します。
- 高速道路の場合はハザード警告灯を点灯してください。ハザード警告灯、ページ 1.28 を参照してください。
- パーキングブレーキをかけ、ニュートラルを選択します。
- 乗員は安全に注意しながら車両を降り、車両や他の交通から離れた安全な場所に待避する必要があります。

タイヤシーラントの使用法



タイヤシーラントは、特にタイヤトレッドの小さなパンクを密閉するために使用することができます。タイヤシーラントは気温が最低 -20 °C (-4 °F) 以上のときには使用できます。

⚠️ 警告: タイヤシーラントは次のようなパンクに使用することはできません。

- ・ タイヤに 4 mm 以上の切れ目や刺し傷がある場合
- ・ ホイールリムが損傷している場合
- ・ タイヤの空気圧が低過ぎる状態やパンクした状態で走行した場合

直ちにマクラーレン代理店にご相談ください。

運転席シートの背面からタイヤシーラントを取り出し、容器に記載されている説明に従ってください。

i 注意: 可能であればパンクの原因を突き止め、シーラントの効果を高めるためにパンクした箇所が一番下の位置になるようにホイールを配置してください。

パンクしたタイヤは速やかに交換を依頼してください。

⚠️ 警告: パンクしたタイヤは交換を依頼してください。マクラーレンはパンクしたタイヤの修理は推奨しません。

⚠️ 警告: タイヤシーラントが目や皮膚に付いた場合は直ちにきれいな水で完全に洗い流し、タイヤシーラントが付着した衣服は交換してください。アレルギー反応が出た場合は直ちに医師の診察を受けてください。

⚠️ 警告: タイヤシーラントはお子様の手の届かない場所に保管してください。タイヤシーラントを誤飲した場合は直ちに口を十分にすすぎ、大量の水を飲んでください。無理に吐こうとしないでください。直ちに医師の診察を受けてください。タイヤシーラントの蒸気を吸い込まないでください。

i 注意: タイヤシーラントを使用した場合、タイヤ空気圧モニタリングシステムが組み込まれたタイヤバルブは交換する必要があります。

メンテナンス

車両のお手入れ

McLaren 車の洗車

i 環境: 一部の洗剤には環境に有害な化学物質が含まれています。フルードをこぼさないように常に注意し、必要以上には使用しないでください。

手洗いによる洗車

i 注意: 洗車を行う際は、エキゾーストシステムに水が入らないようにしてください。

- はじめにホースパイプを用いて浅い角度でボディ全体に水をかけ、泥などを浮かせてから、塗装面を濡らして洗車の準備をします。エンジンカバーベントやエキゾーストパイプには直接水をかけないでください。
- バケツ一杯のお湯と良質のカーシャンプーを用意します。希釀率はシャンプーメーカーの説明書を参照してください。
- 車両の上から下に、できればスポンジではなくウールの洗車ミットを使用して洗車します。特に泥がたまりやすい場所に注意し、多量の水を使用して洗います。車両の上部（ホイールアーチラインより上の部分）に1つの洗車ミット、ホイールアーチラインより下の部分に別のミットを使用してください。

i 注意: これらの洗車ミットでホイールを洗わないでください。

i 注意: シャンプーを乾燥させないでください。塗装面に色むらが生じる原因になります。

- タールスポットやしつこいグリスの付着は、揮発油もしくは変性アルコールを使用すると取り除くことができます。取り除くことができたらすぐに石けん水で洗い、すべての揮発油またはアルコールを取り除いてください。
- 車両のクリーニングが終わったら、上部から下に向かってホースパイプにより浅い角度で完全にすいでください。エンジンカバーベントやエキゾーストパイプには直接水をかけないでください。
- セーム皮または乾燥用タオルを用いて車両を乾かします。

i 注意: エンジンルームに水が残っていると思われる場合は、車両を運転して動作温度までエンジンを暖めて、エンジンに残った水分を乾燥させることをお勧めします。

ホイールの洗浄

i 注意: ホイールは頻繁に洗浄してください。ブレーキダストがホイールリムの塗膜に深く染み込まないようにしてください。

お湯、良質のカーシャンプーおよびホイールブラシまたはホイール専用の洗浄用ミットを使用してホイールを洗浄します。無塗装仕上げのホイールには、ホイールをきれいに保つためにつや出しを行います。

i 注意: 塗装仕上げのホイールには決してつや出しを行わないでください。つや出しを行うと、ホイールの表面に光沢のある部分とない部分の斑模様が生じてしまいます。

i 注意: 酸ベースのホイールクリーナーはホイールリムの仕上げを損傷し、腐食の原因になるため使用しないでください。

i 注意: ホイールのクリーニングを行った後、車両を車庫に入れる前に、ブレーキが完全に乾いていることを確認してください。

ワイパークリーナーとラバーシール

ワイパークリーナーとラバーシールは、お湯と良質のカーシャンプーのみでクリーニングします。石油系またはアルコールベースのクリーナーは使用しないでください。

メンテナンス 車両のお手入れ

フロントウィンドウ、ウィンドウ、ミラー

すべてのウィンドウの内外面を、ウィンドウ用洗浄液を用いて定期的にクリーニングしてください。自動車用ガラスクリーナーを推奨します。ワックスを含有するカーシャンプーで車両を洗車した後は、フロントウィンドウ外面をガラスクリーナーでクリーニングしてください。研磨剤入りクリーニングコンパウンドは使用しないでください。ミラーガラスは特に傷つきやすくなっています。

サテンカーボンファイバー

サテンカーボンファイバー部分をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。洗剤、水、糸くずの出ない布のみを使用してください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

アンダーボディのクリーニング

冬季に道路の融雪や凍結防止に使われる塩分は車両のアンダーボディに蓄積します。これを放置すると腐食が発生します。冬季は特にホイールアーチや泥がたまりやすい場所に注意しながら、ホースを用いてアンダーボディを定期的に水洗いしてください。

つや出し

ときどき、良質のつや出し剤を用いて塗装のつや出しを行い、その後に保護用ワックスをかけてください。

i 注意: カッティングコンパウンド、カラー再生剤、強力な研磨剤を含むつや出し剤は使用しないでください。これらの製品は塗装に傷をつけ、回復不可能な損傷を与えるおそれがあります。

塗装の損傷と修正

塗装に損傷がないか、定期的に点検してください。跳ね石による傷や深い擦り傷は速やかに修理する必要があります。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。

インテリアのクリーニング

i 注意: マクラーレン代理店は、お客様の車両のインテリアクリーニングに合った製品を推奨できます。

カーペットとファブリック

シート表皮をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。希釈した表皮クリーナーと清潔な布でクリーニングします。

レザー

レザーをクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。お湯と天然石けんまたは専売特許のレザークリーナーを用いてクリーニングしてください。乾いた、清潔なリントフリークロスで乾燥させます。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

ダッシュボードの表面はつや出しをしないでください。つや出しを行った表面は光を反射し、ドライバーの視界を遮るおそれがあります。希釈した表皮クリーナーでクリーニングした後、固く絞った布で拭きます。

メンテナンス 車両のお手入れ

カーボンファイバー

カーボンファイバー部分をクリーニングする場合は、必ず事前に目立たない場所で洗浄液のテストをしてください。適切なつや消しダッシュボードクリーナーでクリーニングしてください。詳細については、マクラーレン代理店にお問い合わせください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

Alcantara®

注意して埃を払います。柔らかい布またはスポンジを水で湿らせ、完全に水を絞り、Alcantara®素材全体を拭きます。湿らせ過ぎないように注意してください。布またはスポンジをすぎぎ、必要に応じて繰り返し拭きます。

一晩放置して素材を乾かします。

素材が乾いたら、元の風合いになるように柔らかい短毛ブラシで軽くブラッシングします。

シートベルト

ベルトを伸ばし、お湯に溶かした石けん水のみでクリーニングします。合成洗剤や化学洗浄剤は種類にかかわらず使用しないでください。ベルトを伸ばしたまま、できれば直射日光を避けて自然乾燥させます。

インストルメントとディスプレイ画面

折り畳み式ドライバーディスプレイおよびセンターインフォテイメントタッチスクリーンのクリーニングには湿った布を使用してください。研磨剤入りのクリーニング剤やつや出し剤は使用しないでください。

車両カバー

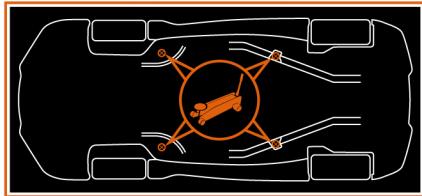
マクラーレン代理店では、ガレージ内での使用に適した車両カバーを販売しています。

マクラーレンでは、車両を2週間以上使用しない場合、カバーをかけておくことを推奨しています。カバーをかける前に車両の内外を清掃し、十分に乾かしてください。

i 注意: カバーは車両が十分に冷えてからかけてください。高温になったエキゾーストパイプによりカバーが損傷するおそれがあります。

メンテナンス 車両のリフト

車両のリフトポイント



正しいリフト位置は図と車両に貼付されているラベルを参照してください。

お客様のMcLarenの回収に関する第三者にこの情報を提供してください。

i 注意: これ以外のポイントで車両をリフトした場合、車両が損傷します。

i 注意: ジャッキを使用する場合は、平らなリフト用プラットフォームとシャシー表面の損傷を防止するラバーパッドとともに使用してください。ボディパネルの下はリフトしないでください。



警告: 車両を作業が可能な高さまでリフトする前に、車両がジャッキまたは車両リフトの上に正しく配置されていることを確認してください。車両の下で作業する場合は必ず車両リフト安全ロックをかけるか、適切なスタンドを使用して安全を確保してください。

メンテナンス

McLaren アシスタンス

McLaren アシスタンス

お客様のマクラーレンが動かなくなった場合は、ご自分で解決しようとしてください。サービスおよび保証ガイドを参照してください。必要なすべての情報が記載されています。

交換用バッテリー

お客様のマクラーレンが車両バッテリーの不具合で動かなくなった場合、正しい仕様のリチウムイオンバッテリーと交換する必要があります。

故障時

車両が故障した場合は、マクラーレン代理店にご連絡ください。近くにマクラーレン代理店がない場合は、年中無休、24時間対応のロードサイドアシスタンス業者にご連絡ください。

 注意: ロードサイドアシスタンス業者の詳しい連絡先は、サービスおよび保証ガイドに記載されています。

マクラーレン代理店またはロードサイドアシスタンス業者は、お客様およびお客様の車両IDを確認して、お客様の正確な現在地を判断します。

その後に、お客様と問題について話し合い、お客様の承諾のもとで最良の解決策を決定します。

メンテナンス

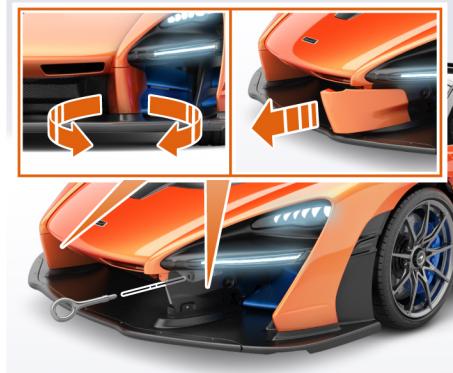
McLaren アシスタンス

回収のためのけん引

お客様のマクラーレンは、車両の両側にフロントけん引フックマウントが装備されています。

i 注意: 車両をけん引しないでください。けん引した場合、ギアボックスを損傷するおそれがあります。けん引フックは回収のために車両をトレーラーまたは輸送車に積載する場合以外には使用してはなりません。リジッドバーを使用して車両をけん引してはなりません。

けん引フックとマウント



1. 後端を外し、カバーを前に引いてフロントバンパーから取り外します。

2. けん引フックを時計方向に回し、ねじ山の根元まで完全にマウントホールに取り付けます。

i 注意: けん引フックと車両の損傷を防止するため、けん引フックがフロント構造の合わせ面に完全に密着したことを確認することが重要です。

i 注意: ウインチケーブル/ストラップはけん引フック以外の場所に固定してはなりません。車両が損傷するおそれがあります。

3. 車両を回収したらすぐにけん引フックを取り外して運転席シートの背面に収納し、けん引フックマウントにカバーを取り付けます。

メンテナンス 海外での走行

海外での走行

マクラーレン代理店は、海外を旅行する際にもご利用いただけます。

海外で走行する際の法的要件は国によって異なり、また常に変動しています。旅行先の国の法律に準拠するためには何が必要となるか、必ずマクラーレン代理店にお問い合わせください。

一部の国では低オクタン燃料以外は入手できません。燃料グレードについての詳細は、推奨燃料、ページ 2.51を参照してください。

i 注意:ヘッドラントの非対称ロービームは、路肩に近い側を明るく照らすように設計されています。お客様のマクラーレンは、道路の左側または右側のどちらを走行しても同一のロービームヘッドラント設定が適用されます。



車両データおよび用語集

純正 McLaren 部品およびアクセサリー	7.02
概要	7.02
車両識別	7.03
車両識別番号（VIN）	7.03
データ	7.04
概要	7.04
車両動作温度	7.04
エンジン	7.04
各ギアの最大速度	7.05
ギアレシオ	7.05
車体寸法	7.05
車両重量	7.07
ホイールおよびタイヤサイズ	7.07
旋回半径	7.08
タイヤ空気圧	7.08
サービス製品、フルードと容量	7.09
サービス製品	7.09
エンジンオイル仕様	7.09
燃料	7.09
クーラント	7.10
パワーステアリングフルード	7.10
ブレーキフルード	7.11
技術用語集	7.12
技術用語集	7.12

車両データおよび用語集

純正 McLaren 部品およびアクセサリー

概要

マクラーレンはマクラーレンの純正交換部品およびアクセサリー以外は使用しないことを推奨します。非純正部品を使用した場合、車両の動作や安全に悪影響を及ぼす可能性があります。

McLarenは交換部品およびアクセサリーの信頼性、安全性および適合性をテストしています。

McLaren車における非純正部品の使用については、たとえ当該部品が単独では認定品であったとしても、McLarenは責任を負いません。

多くの国では、交換部品およびアクセサリーは、当該製品が法的要件に適合している場合のみ取り付けることが公式に認められています。McLarenのすべての純正交換部品およびアクセサリーは、これらの要件に適合しています。

マクラーレンの純正部品およびアクセサリーは、専門技術が部品を取り付けるマクラーレン代理店から入手できます。

アクセサリーを使用する際は、お客様の McLarenに適合したものであることを確認してください。車両の改造に当たるアクセサリーを使用した場合、車両の保証が無効になることがあります。以下の場合がこれに該当します:

- 保証書で承認されている車種に変更が生じる場合。
- 道路使用者に危険を及ぼす可能性がある場合。

- 車両の排出ガスおよび騒音レベルが悪化する場合。

必ず車両識別番号を提示してください。この番号は、車両の識別プレートおよびフロントウィンドウの左下隅に記載されています。

車両データおよび用語集

車両識別

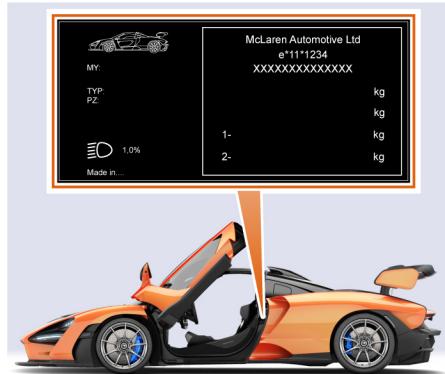
車両識別番号（VIN）



車両識別番号はフロントウィンドウの左下隅に記載されています。

また、この番号は右側シート下のボディと運転席側ドア開口部下部のプレートに刻まれております。折り畳み式ドライバーディスプレイの車両情報セクションにも表示されます。車両識別、ページ 3.08を参照してください。

VIN プレート



車両識別番号プレートには以下の情報も記載されています:

- 最大許容積載量
- トレーラーを含めた最大許容積載量
- 最大許容フロントアクスル荷重
- 最大許容リアアクスル荷重

車両データおよび用語集 データ

概要

本節にはお客様の車両に関して必要な技術データをすべて記載します。このデータは車両の標準装備に適用されます。したがって、オプション装備を装着した車両ではデータが異なる場合があります。マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

車両動作温度

最低動作気温	-10°C (14°F)
最高動作気温	+35 °C (+95 °F)



注意: 最低気温から最高気温までの範囲外で車両を使用した場合、性能が低下することがあります。車両を標準温度範囲外で使用した場合、もしくは高地において使用した場合に表示エンジン出力を達成できなかつたとしても、マクラーレンは責任を負いません。

エンジン

定格出力 (kW) @rpm	588 @ 7,500
定格出力 (PS) @rpm	800 @ 7,500
定格トルク (Nm) @rpm	800 @ 5,500 ~ 6,500
定格トルク (lb-ft) @rpm	590 @ 5,500 ~ 6,500
気筒数	8
排気量 (cm ³)	3,994
最大回転数 (rpm)	8,415
パワーウェイトレシオ (PS/トン)	668

車両データおよび用語集

データ

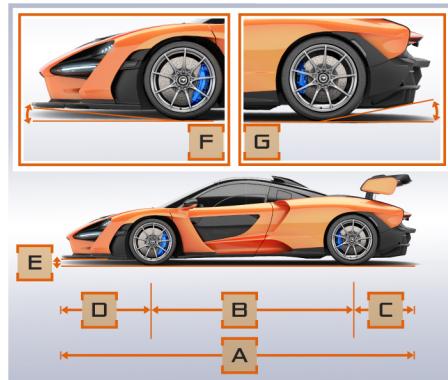
各ギアの最大速度

ギア	mph (km/h)
1速ギア	50 (80)
2速ギア	76 (122)
3速ギア	105 (169)
4速ギア	136 (218)
5速ギア	173 (278)
6速ギア	211 (340)
7速ギア	197 (317)

ギアレシオ

1速ギア	3.982:1
2速ギア	2.612:1
3速ギア	1.905:1
4速ギア	1.479:1
5速ギア	1.160:1
6速ギア	0.906:1
7速ギア	0.686:1
ファイナルドライブ	3.308:1

車体寸法

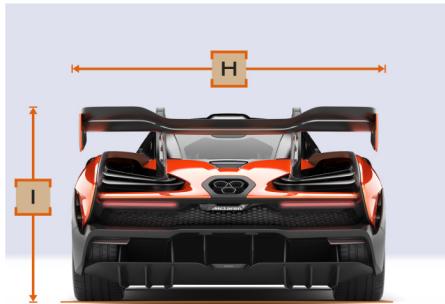


A	全長	4,743 mm (15 フィート 7 インチ)
B	ホイールベース	2,670 mm (8 フィート 10 インチ)
C	リアオーバーハング	860 mm (2 フィート 10 インチ)
D	フロントオーバーハング	1,214 mm (3 フィート 12 インチ)

車両データおよび用語集

データ

E	地上高（通常）	115 mm (5 インチ)
	地上高（車両リフト）	162 mm (6 インチ)
	地上高（レースモード）	65 mm (3 インチ)
F	アプローチアンダーグル（通常）	5.6✉
	アプローチアンダーグル（車両リフト）	9✉
	アプローチアンダーグル（レースモード）	3.02✉
G	脱出角度（通常）	11.7✉
	デパーチャーアングル（車両リフト）	12.27✉
	デパーチャーアングル（レースモード）	6.65✉



H	全幅（ドア閉、ミラーを含む）	2,153 mm (7 フィート)
I	全高（ドア閉）（通常）	1,228 mm (4 フィート)
	全高（ドア閉）（車両リフト）	1,238 mm (4 フィート)
	全高（ドア閉）（レースモード）	1,131 mm (3 フィート 9 インチ)

J	全幅（ドア開、最大幅）	2,893 mm (9 フィート 6 インチ)
K	全高（ドア開）（通常）	1,817 mm (6 フィート)
	全高（ドア開）（車両リフト）	1,827 mm (5 フィート 12 インチ)
	全高（ドア開）（レースモード）	1,767 mm (5 フィート 10 インチ)

注意: 寸法はすべて近似値です。

車両データおよび用語集 データ

車両重量

重量	Kg (lb)
車両重量（燃料、乗員等含まず）	1,198.0 (2,641.0)
空車重量（すべてのフルードと 90% の燃料）	1,309.0 (2,885.9)
車両重量 (+ 75 kg のドライバー)	1,389.0 (3,062.2)
車両重量配分-フロントアクスル	583.4 (1,286.1)
車両重量配分-リアアクスル	805.6 (1,776)
最大車両総重量 (GVW)	1,581.9 (3,487.5)
最大車両総重量配分-フロントアクスル	664.4 (1,464.8)
最大車両総重量配分-リアアクスル	917.5 (2,022.7)

ホイールおよびタイヤサイズ

ホイールサイズ

フロントホイール	9J x 19
リアホイール	11.5J x 20

リアタイヤ

- Pirelli P Zero™ MC	315/30 R20
- Pirelli P Zero™ Trofeo R	315/30 R20

ウィンタータイヤ

フロントタイヤ
- Pirelli SottoZero™ MC 245/35 R19

リアタイヤ

- Pirelli SottoZero™ MC	305/30 R20
-------------------------	------------

車両データおよび用語集

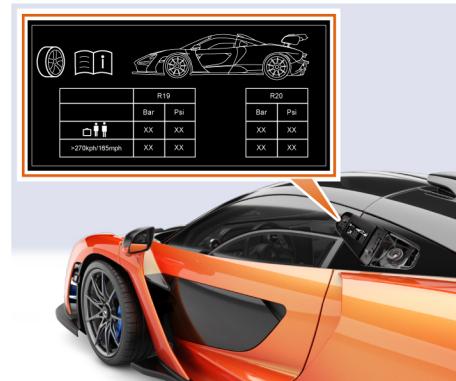
データ

旋回半径

最小回転直径（タイヤ外縁）	12.9 m (42 フィート 4 インチ)
---------------	------------------------

タイヤ空気圧

荷重条件	フロントホイール		リアホイール	
通常使用時	Bar	Psi	Bar	Psi
Pirelli P Zero™	2.2	32	2.2	32
Pirelli SottoZero™	2.2	32	2.2	32
Pirelli P Zero™ Trofeo R	2.0	29	2.0	29



荷重条件	フロントホイール		リアホイール	
270 km/h (165 mph) を超える速度	Bar	Psi	Bar	Psi
すべてのタイヤ	3.0	44	3.2	46

i 注意: 一部の市場では、タイヤ空気圧ラベルは運転席側ドア開口部下部に貼付されています。

タイヤ空気圧はフューエルフィラーフラップ内側のラベルにも記載されています。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

サービス製品

サービス製品には燃料、エンジンオイル、クーラント、ブレーキフルードがあります。マクラーレンはテスト済みのマクラーレン用に認定された製品のみの使用を推奨します。未認定サービス製品を使用した結果生じた損害は、材料欠陥に関する保証責任の対象外となります。

⚠️ 警告: サービス製品の取り扱い、保管および処分を行う際は、関連する法規を遵守してください。これを怠った場合、人や環境に危険を生じるおそれがあります。サービス製品が目や傷口に直接触れることがないようにしてください。サービス製品を誤飲した場合は直ちに医師の診察を受けてください。

i 環境: サービス製品は環境に責任ある方法で処分してください。

エンジンオイル仕様



エンジンオイル容量	9.0 リットル
-----------	----------

i 注意: マクラーレンは Mobil 1 FS 0W-40 エンジンオイルのみの使用を推奨します。

マクラーレン代理店から詳細な情報を入手できます。

i 注意: 潤滑油添加剤は使用しないでください。使用すると機械アセンブリの摩耗や損傷を増大させるおそれがあります。未認定添加剤が原因で生じた損害は、マクラーレンの保証の対象外となります。

燃料

⚠️ 警告: 燃料は高い引火性があります。燃料を取り扱う際には、火気、裸火、喫煙は厳禁です

給油の前にエンジンを停止してください。

⚠️ 警告: 燃料が皮膚や衣服に付着しないようしてください。

燃料が直接皮膚に触れたり、燃料蒸気を吸い込んだりすると健康に害を及ぼすことがあります。

燃料に関する詳しい情報は推奨燃料、ページ2.51を参照してください。

燃料タンク

総容量	72 リットル (15.8 UK ガロン)
燃料警告灯点灯時の燃料残量	11 リットル (2.4 UK ガロン)

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

クーラント

クーリングシステムの容量	25.2 リットル (5.5 UK ガロン)
不凍液/防錆剤	Mobil Extra Antifreeze
-20°C (-4°F)までの保護用不凍液容量	12.6 リットル (2.8 UK ガロン)

クーラントは水、不凍液、防錆剤の混合液です。クーラントはクーリングシステム内で以下の役割を果たします:

- ・ 凍結防止保護
- ・ クーリングシステムの効率改善
- ・ 腐食防止保護

i 注意: 季節にかかわらず一年間を通じて Mobil Extra Antifreeze を使用してください。クーラントを使用しなかった場合、クーリングシステムは腐食に対する十分な保護が得られず、冷却効率が低下します。

i 注意: エンジンの損傷を防ぐために、目標水準の凍結防止能力を備えた混合済みクーラントを使用してください。

不凍液/防錆剤が正しい濃度で入っていれば、クーラントの沸点は約 130 °C (266 °F) となります。クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、約 50 % ± 5 % とする必要があります。それによって、クーリングシステムは -40 °C (-40 °F) まで凍結から保護されます。

クーリングシステム内の不凍液と防錆剤の濃度は、-45 °C (-49 °F) まで凍結を防止できる 55 % を超えてはなりません。なぜなら、それ以上の濃度では放熱効果が低下するためです。

車両のクーラントが減っているときは、運転を止め、マクラーレン代理店にご連絡ください。

パワーステアリングフルード

必ず Pentosin CHF202 パワーステアリングフルードを使用してください。

車両データおよび用語集

サービス製品、フルードと容量

ブレーキフルード

必ず Pentosin DoT 5.1 ブレーキフルードを使用してください。

ブレーキフルードは時間とともに空気中の水分を吸収し、その結果沸点が下がります。

 **警告:** ブレーキフルードの沸点が下がり過ぎると、ブレーキを強くかけたとき（長い下り坂やサークット走行時など）にブレーキシステム内にベーパーポケットができ、ブレーキ効率が低下します。そのため、推奨するサービス間隔でブレーキフルードを交換してください。

車両データおよび用語集

技術用語集

技術用語集

アクティブダイナミクスコントロール

ドライバーが車両のハンドリング特性やパフォーマンス特性を切り替え可能にするシステムです。

アクティブリーウィング

アクティブリーウィングは可動ウィングです。リアのダウンフォースを高めることで、車両の走行安定性とブレーキング性能を向上させます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSは、ブレーキングによるホイールのロックを防止します。これによって、ブレーキをかけながら車両を操舵することが可能になります。

ドライバー自動認証カード

車両に乗車する人が所持している必要があるカード、または車両が許可無く動かされていることを知らせるトラッカーシステム信号です。

ブレーキアシストシステム

ブレーキアシストシステムは、急ブレーキを踏んだ状況で作動します。急ブレーキを踏むと、ブレーキアシストシステムによりブレーキの踏力が自動的に増大し、停止距離が短縮されます。

ブレーキディスクワイピング

ブレーキディスクワイピングは、フロントウインドウワイパーのスイッチをオンにすると作動します。パッドがディスクに触れるように瞬間にブレーキをかけることによって、強雨時にブレーキディスクに水分が付着するのを防止します。

ブレーキステア

ブレーキステアはトルクベクトリングディファレンシャル効果を実現しますが、軽量化と反応速度の改善のためにブレーキシステムに組み込まれています。

コーナリング時に車両がアンダーステアになりつつあることを検知すると、システムはリアの内輪に軽くブレーキをかけます。これによって車両のヨーレートが増大し、車両のアンダーステアに対する抵抗力が増します。横方向のGも増大し、ハンドリング特性が向上します。

ドライバーがコーナーからの立ち上がりでスロットルを開け過ぎると、リアの内輪の速度が増し、ブレーキステアが作動しなければ車両が不安定になるおそれがあります。この状況でも、ブレーキステアが再びリアホイール内側に軽くブレーキをかけることによって、トラクションと走行安定性を回復します。

シリンドーカット

シリンドーカットは、スポーツおよびトラックパワートレインモードのオートマチックアップシフトおよびコンフォートパワートレインモードのマニュアルアップシフトで作動します。

急加速時にシフトアップが必要なときに、指定された数のエンジンシリnderで燃料供給が中断（カット）されます。こうすることで、エンジントルクおよびエンジン回転数が急速に減少して、よりすばやくアップシフトを達成できます。この結果、通常のシフトアップより、シフトアップ時の音が明確になります。

デュアルクラッチギアボックス

デュアルクラッチギアボックスは7速です。ギアチェンジをフルオートマチックで行ったり、ドライバーが操作したりすることができます。ギアチェンジはほとんど一瞬で行われます。切れ目の無い加速を提供するエンジンからの連続したトルク供給と組み合わさっています。

エレクトロニックスタビリティコントロール（ESC）

ESCは走行安定性と、タイヤと路面間のトラクションを監視します。

グローバルポジショニングシステム（GPS）

適切なレシーバにより、衛星信号から車両の地理的位置情報を取得します。これらの信号をデジタルマップと照合し、車両の位置判定とルート案内に利用します。

車両データおよび用語集

技術用語集

ハンドリングコントロール

ハンドリングコントロールスイッチは、RaceActive Chassis Control II システムに対して効果を発揮します。

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、坂道発進時に車両が後退するのを防ぎます。アクセルペダルが踏まれるまで、ブレーキシステムが自動的にブレーキをかけます。

イグニッションカット

イグニッションカットは、パワートレインモードでのマニュアルシフトアップ中に動作します。

急加速時にシフトアップが必要なときに、指定された数のエンジンシリnderでイグニッションが中断（カット）されます。こうすることで、エンジントルクおよびエンジン回転数が急速に減少して、よりすばやくアップシフトを達成できます。

慣性プッシュ

Non-Active（ノンアクティブ）を選択している際、またはTrack（トラック）パワートレインモードで急加速時に、エンジン回転数が高い状態でシフトアップ操作を行うと、慣性プッシュによって加速力が上がります。通常の走行条件で、最大のパフォーマンスを必要としない慣性プッシュの範囲外であれば、エンジンヒートランスマッシュションの回転数を合わせてスムーズでシームレスなシフトアップを行います。一方、慣性プッシュの場合は、次のギアを保持しているクラッチがより強い力でつながり、エンジン回転数が完全には落ちないので、内部回転マスの慣性を利用できます。この場合、ギアがつながるときにトルク衝撃が発生しますが、加速性能が向上し、最大のパフォーマンスが得られます。

キーレスエントリー

キーレスエントリーを使用すると、リモコンキーがドアセンサーから 1.2 m（3 フィート 11 インチ）以内にあれば、ドアを開けるだけでロックを解除し、アラームシステムを停止させることができます。

発進コントロール

発進コントロールは、スタンディングスタート時に最大加速が得られるように設計されています。

高速道路ファンクションライティング

高速道路ファンクションライティングは、車速が事前設定したしきい値を超える場合に、ヘッドライト照明を強くします。

パーキングセンサー

パーキングセンサーシステムは、フロントバンパー内の2個の超音波センサー、リアバンパー内の4個の超音波センサー、2個の音響器で構成されています。運転操作時にパーキングセンサーが障害物を検知すると、音響器が警告音を鳴らします。

ギアシフトモード（PSC）

PSCは音が鳴るシフトインジケーターで、最適な性能を維持するためにシフトアップが必要になると音を鳴らして知らせます。

リアビューカメラ（RVC）

RVCは、リアバンパーの中央に取り付けられています。機能をアクティブにすると、ライブビデオ画像が折り畳み式ドライバーディスプレイまたはセンターインフォテイメントタッチスクリーンに表示されます。

スタティックアダプティブヘッドライト

スタティックアダプティブヘッドライトは、ヘッドライトを点灯しながら旋回するとき、進行方向をより明るく照らします。

車両データおよび用語集

技術用語集

補助拘束装置（SRS）

SRSは、事故の際に自動的に展開して付加的な乗員保護を提供する多数のエアバッグで構成されています。

タイヤ空気圧監視システム（TPMS）

TPMSは常に4本のタイヤの空気圧と温度を監視しています。1本または複数のタイヤの空気圧が下がったり温度が上昇したりすると警告を行います。

車両識別番号（VIN）

VINは一意の17桁の数字で、車両に関する情報や製造日、製造場所を示します。

VIN（代表例）=SBM15ACA0KW999999



適合性に関する情報

法令遵守 8.02
McLaren Infotainment System (MIS) 8.02

適合性に関する情報

法令遵守

McLaren Infotainment System (MIS)

All regions/markets

Model: ECI1-MC100E, ECI1-MC100J,
ECI1-MC100K, ECI1-MC100M

Speaker Impedance: 4-8Ω

Operating Voltage: 14.2V (9V – 16V allowable)

Japan



T
R

007-AE0307
D160088007

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています（受けた部品を使用しています）。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。日本国内のみで使用してください。日本国外以外で使用すると各国の電波法に抵触する可能性があります。また、本機は、電気通信事業法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

● 本機は2.4GHz帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。ほかの無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

使用上のご注意

本機の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、当社カスタマーサポートセンターにご連絡頂き、混信回避の処置等についてご相談ください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して、有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、当社カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

製品に表示している周波数表示の意味は下記の通りです。

- Bluetooth



2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

FH : FH-SS 変調方式を表します。

1 : 電波与干渉距離は10m です。

■■■ : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

- Wi-Fi



2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線機器です。

DS/OF : DS-SS、OFDM 変調方式を表します。

4 : 電波与干測距離は40m です。

■■■ : 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域回避可能です。

適合性に関する情報

法令遵守

● 使用可能距離は見通し距離約 10 m (Bluetooth)、約40 m (Wi-Fi) です。鉄筋コンクリートや金属の壁等をはさんでトランスミッターとレシーバーを設置すると電波を遮りてしまい、音楽が途切れたり、出なくなったりする場合があります。本機を使用する環境により伝送距離が短くなります。

● 下記の電子機器と本機との距離が近いと電波干渉により、正常に動作しない、雑音が発生するなどの不具合が生じことがあります。

- 2.4GHzの周波数帯域を利用する無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話などの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることができます。
- ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CS チューナー、VICS などのアンテナ入力端子を持つAV機器の近く。音声や映像にノイズがのることがあります。

● 本機は電波を使用しているため、第3者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。

McLaren

アイルトン・セナ財団

概要.....	9.02
情報.....	9.02

アイルトン・セナ財団

概要

情報

Ayrton
Senna
Institute



これまでマクラーレンは、数ある偉大な専属ドライバーのひとりからインスピイヤーされたロードカーやレーシングカーを開発したことはありませんでしたが、このほど伝説のFormula TM

1 ドライバーであった Ayrton Senna の名を冠した McLaren Senna を発表します。マクラーレンでは、彼の名は究極のトラックカーの名前にはふさわしいと考えています。McLaren Senna は、マクラーレンのロードカーの中でも唯一無二の存在になり、また世界中のモータースポーツファンの注目を集めることは間違いないでしょうが、同時にこの新型マクラーレンは、レース場以外の場所で Ayrton Senna がこの世界に残した功績、アイルトン・セナ財団 (IAS) に人々の目を向けさせるきっかけにもなるでしょう。IAS は、ブラジルの子供たちに総合的な教育を提供する称賛に値する慈善活動に取り組んでいます。

IAS の歩み

Ayrton Senna は、誰もが夢を叶える機会を持つる国を思い描いていました。ほとんどのブラジルの人々にとってこのようなことを実現させる可能性はごくわずかであることを、彼は認識していましたが、それでも果敢に現実を変えることに挑戦しました。彼の命を奪ったサンマリノ GP での悲劇的な事故が起こる 2 か月前、ブラジルの未来のために、特にブラジルの子供たちのために何かをしたいという熱い思いを、彼は姉の Viviane に打ち明けていました。当時心理学者として人材開発に取り組んでいた Viviane もまた、新しい世代のためにもっと何かをしたいと考えており、二人はブラジルの若い世代を支援したいという願いを叶えることを共に夢見していました。悲しいことに、Ayrton Senna は自身が思い描いていた人々の人生を変える取り組みを実現する前にこの世を去りました。しかし、大切な弟を失った悲しみの中、Viviane と Senna 一家は Ayrton の夢を叶えることを決断し、IAS を立ち上げました。

アイルトン・セナ財団

概要

IAS の主な取り組み

IAS の成功は、ブラジルの子供たちや若者たちがポルトガル語や数学、その他の教科で優れた成績を取れるようになることだけではありません。なぜなら、学校や学校以外での成功は、様々な能力、物事に関する理解、人の命全体に関連する価値によるからです。IAS は教育を受けられない環境や不登校の問題を解決するため尽力していますが、新たな世代に教育を提供し、人生の課題に対応できるように育成するため、これらの問題に限らず様々な問題に取り組んでいます。社会生活や専門分野の世界で子供たちがうまく生きていくために必要なスキルと能力を伸ばすことで、IAS は常に変化している世界に向か、今を生きる若者を育成しています。

世界的に認められた団体

2004年、IAS は、ユネスコ（UNESCO、国際連合教育科学文化機関）から教育と人材開発のユネスコチェアの認定を受けた初の非営利団体となりました。2012年には、経済協力開発機構（OECD）より、パートナー機関の団体への参加に招待されました。また IAS は、OECD の開発のための財団に関するネットワーク（NetFWD）に参加したブラジル初の団体となりました。NetFWD の世界規模のネットワークは、社会的影響を後押しするための取り組みを行っています。

Senna の遺志を引き継ぐマクラーレン

Ayrton Senna の不屈の精神は今でもマクラーレンの中に生きています。そして McLaren Senna は、世界中に Ayrton Senna の遺志を知つてもらうきっかけとなるマシンとなるでしょう。マクラーレンは IAS との正式なコラボレーションを発表します。また、マクラーレンはブラジルの恵まれない子供たちにために現在行われている取り組みを支援するため多大な寄付を行います。創設一年目に IAS は何万人もの子供たちを援助しましたが、現在はブラジルのほぼすべての州で必須教育を提供することで、年間最大100万人の子供たちを支援しています。マクラーレンは今後も引き続き、この子供たちの人生を変える取り組みを支援していきます。



索引

B

Bluetooth Phone 設定.....4.13

C

Compliance

 McLaren Infotainment System (MIS).....8.02

Conformity Information

 McLaren Infotainment System (MIS).....8.02

D

DRS.....2.39

E

ECO モード.....2.39

M

McLaren Infotainment System (MIS)

 Compliance.....8.02

McLaren Infotainment System (MIS)

 Conformity Information.....8.02

McLaren アシスタンス.....6.36

McLaren アシスタンス.....6.36

 故障時.....6.36

S

START/STOPボタン.....2.03

SYNC モード - 室内温度制御.....5.05

T

Trofeo R タイヤ.....6.28

U

USB ソケット.....5.14

 メディア.....5.14

ア

アイルトン・セナ財団.....9.02, 9.02

アクセサリー

 概要.....7.02

アクセルペダル位置.....2.18

アクティブエアロ.....2.37, 2.39

アクティブスピードリミッター

 速度上限の設定.....2.46, 2.47

アクティブダイナミクスパネル.....2.21

 ACTIVE (アクティブ) ボタン.....2.21

 パワートレインコントロール.....2.23

 ハンドリングコントロール.....2.22

 発進コントロール.....2.26

 アクティブフロントエアロブレード.....2.39

 アクティブブリアウイング.....2.38

アラーム.....1.10

 パニック.....1.28

 解除.....1.10

 有効化.....1.10

アンチロックブレーキシステム.....2.33

イ

イグニッション-スイッチをオンにする.....2.03

イグニッションのスイッチをオンにする....2.03

イモビライザー.....1.10

インストルメント.....3.14

 エレクトロニックスタビリティコントロール

 モードの表示.....3.16

 オイル温度表示.....3.16

 ギア位置インジケーター.....3.15

 クーラント温度表示.....3.17

 クリーニング.....6.34

 コンフォートモード.....3.14

 シフトライト.....3.02

 スピードメーター.....3.03

 スポーツモード.....3.14

 タコメーター.....3.02

 ディスプレイ.....3.14

 ディスプレイウィンドウ.....3.14

 ドライバー-ディスプレイの概要.....2.04

 トラックモード.....3.14, 3.15

 トリップコンピューター.....3.05

 ハンドリングおよびパワートレインディスプ

 レイ.....3.16

 メッセージの表示.....3.10

 右側ディスプレイの概要.....2.05

索引

概要.....	3.02
左侧ディスプレイの概要.....	2.05
車両情報.....	3.06
到達可能距離表示.....	3.18
燃料残量表示.....	3.18
インストルメント - レースモード.....	2.32
インテリアアクセサリー電源ソケット.....	5.13
インテリアミラー.....	1.22

ウ

ウィンタータイヤ.....	7.07
ウインドウ 安全性.....	5.02
開閉.....	5.02
ウインドウの曇り取り - クライメートコントロール.....	5.06
ウインドウを開ける.....	5.02
ウインドウを閉じる.....	5.02
ウォッシャー.....	6.07
フロントウインドウ.....	6.07

エ

エアコンのオン/オフの切り替え.....	5.06
エアディストリビューション - クライメートコントロール.....	5.09
エアバッグ.....	1.16
サイドヘッドエアバッグ.....	1.17
システムの修正.....	1.17
チャイルドバッセンジャー.....	1.20

フロントエアバッグ.....	1.17
交換.....	1.17
乗員分類システム.....	1.18
正規外着座 (OOP) テスト.....	1.19
展開.....	1.19

エアベント ダッシュボード.....	5.09
エアロ.....	2.37, 2.39
エコスタート-ストップシステム.....	2.09
エラーメッセージ.....	3.06
エレクトロニックスタビリティコントロール ダイナミックモード.....	2.35
再開.....	2.37
非アクティブにする.....	2.35
エンジン.....	2.08
イモビライザー.....	1.10
エコスタート-ストップシステム.....	2.09
パワー出力.....	7.04
慣らし運転.....	2.48
技術データ.....	7.04
警告灯.....	2.10
始動.....	2.08
停止.....	2.08
エンジンオイル.....	6.02
レベルの警告.....	6.02
温度警告.....	6.04
仕様.....	7.09
使用状況.....	6.02
点検.....	6.02
補充.....	6.03
容量.....	7.09

エンジンオイルの点検.....	6.02
エンジンの始動.....	2.08
リモコンキーの電池が切れた場合.....	6.20
エンジンの停止.....	2.08
エンジン回転計.....	3.02

オ

オイル - エンジン.....	6.02
ステータス.....	3.07
レベル.....	6.02
レベルの警告.....	6.02
温度警告.....	6.04
温度表示.....	3.16
仕様.....	7.09
点検.....	6.02
補充.....	6.03
容量.....	7.09
オイル - ギアボックス.....	6.04
オーディオと音量.....	4.11
オートマチックモード - クライメートコントロール.....	5.05
オートマチックモード - トランスマッision	2.18
オートマチックランプコントロール.....	1.25
オーナー文書.....	5.12
オドメーター.....	3.06

カ

カバー - フロントサービス.....	1.08
---------------------	------

索引

開ける.....	1.08
閉じる.....	1.08
カバー - リアサービス.....	1.09
開ける.....	1.09
閉じる.....	1.09
カメラ.....	2.13, 4.20
パーキングアシスト.....	2.14
レビュー.....	2.13

ギ

ギアシフトインジケーター.....	2.11
ギアシフトモード.....	4.16
ギアでの速度.....	7.05
ギアボックス.....	2.17
オイルの補充.....	6.04
ギアシフトパドル.....	2.20
ギア位置.....	2.17
キックダウン.....	2.18
マニュアル/オートマチックモード.....	2.18
ギアレシオ.....	7.05
ギア位置.....	2.06
ギア位置インジケーター.....	3.15

キ

キーレスエントリー.....	1.02
キックダウン.....	2.18
キット - タイヤリペア.....	6.31

ク

クーラント.....	7.10
補充.....	6.04
クーラント温度表示.....	3.17
クライメートコントロール.....	5.04
SYNC モード.....	5.05
エアコン調節ダイヤル.....	5.04
エアディストリビューション.....	5.09
エアベント.....	5.09
オートマチックモード.....	5.05
オン/オフの切り替え.....	5.06
プロア速度.....	5.08
マニュアルモード.....	5.05
温度.....	5.07
調節ダイヤル.....	5.04
曇り取り.....	5.06
内気循環モード.....	5.08
熱線入りミラー.....	5.10
クリーニング.....	6.32
インストルメントとディスプレイ画面.....	6.34
インテリア.....	6.33
エクステリア.....	6.32
センターディスプレイ.....	6.34
ドライバーディスプレイ.....	6.34
ホイール.....	6.32
クルーズコントロール.....	2.42
キャンセル.....	2.43
設定.....	2.42
速度の呼び出し.....	2.45
速度を下げる.....	2.44
速度を上げる.....	2.44

け

けん引.....	6.37
フック.....	6.09
けん引防止.....	1.11

サ

サーキットでの使用.....	2.49
サービスカバー	
閉じる.....	1.09
サービスカバー - フロント	
閉じる.....	1.08
サービスカバー取り外しツール.....	6.09
サービス製品.....	7.09
サイドヘッドエアバッグ.....	1.17
サイドランプ.....	1.25
サイレントドアロック.....	4.16
サポートと保証.....	5.12
スマータイヤ.....	7.07
サンバイザー.....	5.13

シ

シート	
レーシングシート調整.....	1.12
安全性.....	1.12
シートベルト	
テンショナー.....	1.16
フォースリミッター.....	1.16
安全性.....	1.15

索引

装着.....	1.15	Bluetooth Phone 設定.....	4.13	電話をかける.....	4.23
シートベルトの装着.....	1.15	Bluetooth オーディオ.....	4.31	補足情報.....	4.02
シートベルト警告灯.....	1.16	USB および iPod.....	4.29	目的地の設定.....	4.34
シーラント - タイヤ.....	6.08	オーディオと音量.....	4.11	連絡先.....	4.26
システムコントロール.....	4.02	カメラ.....	4.20	センターロックナットトルクツール.....	6.10
シフトライト.....	3.02	システムコントロール.....	4.02		
ジ		ストレージ.....	4.30		
ジャンプスタート.....	6.12	デバイスのペアリング/接続.....	4.22	ダイナミック ESC モード.....	2.36
ス		ナビゲーション.....	4.18	ダイナミックヘッドライト.....	1.26
スイッチ - 照明.....	1.24	ナビゲーションの使用.....	4.33		
ステアリングコラム		はじめに.....	4.04		
マニュアル調整.....	1.14	マクラーレントラックテレメトリ.....	4.37		
ステアリングホイール		メディアコントロール.....	4.28		
ホーン.....	1.14	ライト設定.....	4.13		
マニュアル調整.....	1.14	ラジオおよびメディアの設定.....	4.12		
スノーソックス.....	2.53	ラジオコントロール.....	4.35		
スピードメーター.....	3.03	ラジオデータシステム.....	4.36		
spoイラー.....	2.38	安全性.....	4.32		
セ		一般設定.....	4.05		
セカンダリヒューズボックス.....	6.15	音声認識.....	4.43		
ヒューズ.....	6.15	外部デバイスへの接続.....	4.29		
センサー		概要 - ナビゲーション.....	4.32		
パーキング.....	2.12	概要 - メディア.....	4.27		
センターディスプレイ		概要 - ラジオ.....	4.35		
AUX.....	4.31	概要 - 電話.....	4.21		
		接続設定.....	4.10		
		設定.....	4.05		
		地域設定.....	4.07		
		著作権.....	4.02		
		通話の終了.....	4.25		
		通話を受信.....	4.25		
		通話中のオプション.....	4.25		

索引

チ

チャイルドシートシステム.....	1.20
KISI チャイルドシート機能.....	1.21
チャイルドパッセンジャー.....	1.20

デ

ディスプレイ.....	3.14
インストルメントクラスター.....	3.04
エレクトロニックスタビリティコントロールの表示.....	3.16
オイル温度.....	3.16
ギア位置インジケーター.....	3.15
クーラント温度.....	3.17
スポーツモード.....	3.14
トラックモード.....	3.14, 3.15
トリップコンピューター.....	3.05
ハンドリングおよびパワートレインディスプレイ.....	3.16
メッセージ.....	3.10
車両情報.....	3.06
到達可能距離（燃料）.....	3.18
燃料残量.....	3.18
ディスプレイ画面のクリーニング.....	6.34
デフロスト-クライメートコントロール.....	5.06
デュアルクラッチギアボックス.....	2.17
ギアシフトパドル.....	2.20
ギア位置.....	2.17
キックダウン.....	2.18
マニュアル/オートマチックモード.....	2.18

テ

テンショナー - シートベルト.....	1.16
----------------------	------

デ

データ 概要.....	7.04
----------------	------

ド

ドア ロック.....	1.05
自動ロック.....	1.08
社内から開ける - 放電したバッテリー.....	6.21
車外から開ける.....	1.04
車外から開ける - 放電したバッテリー.....	6.19
車内からロック/ロック解除する.....	1.06
車内から開ける.....	1.07
車内から手動で開く.....	6.21
閉じる.....	1.07
ドアミラーヒーター.....	1.23
ドアロック解除.....	4.16
ドアを開ける 車外から.....	1.04
車内から.....	1.07
ドライバーディスプレイ.....	3.04, 3.14
ギア位置インジケーター.....	3.15
クーラント温度.....	3.17
コンフォートモード.....	3.14
シフトライト.....	3.02

スピードメーター.....	3.03
スポーツモード.....	3.14

タコメーター.....	3.02
-------------	------

トラックモード.....	3.14, 3.15
--------------	------------

トリップコンピューター.....	3.05
------------------	------

ナビゲーション.....	3.10
--------------	------

メッセージ.....	3.10
------------	------

メディア.....	3.09
-----------	------

右側ディスプレイの概要.....	2.05, 2.05
------------------	------------

概要.....	3.02
---------	------

車両情報.....	3.06
-----------	------

電話.....	3.08
---------	------

燃料残量.....	3.18
-----------	------

ドライバーディスプレイの概要.....	2.04
---------------------	------

ト

トラクションコントロールシステム.....	2.35
-----------------------	------

ド

ドラッグリダクションシステム.....	2.39
---------------------	------

ト

トラック走行.....	5
-------------	---

ナ

ナビゲーション.....	3.10, 4.18
--------------	------------

索引

ナビゲーションの使用.....	4.33
安全性.....	4.32
概要.....	4.32
目的地の設定.....	4.34

八

ハイビーム.....	1.25
ハザード警告灯.....	1.28

は

はじめに.....	2
概要.....	4.04
保存データ.....	6

パ

パッセンジャー - チャイルド.....	1.20
----------------------	------

バ

バッテリー.....	6.11
バッテリーの安全性.....	6.11
バッテリーの状態.....	3.07
バッテリーの点検と保守 バッテリーの充電.....	6.11, 6.11
バッテリーヒューズボックス ヒューズ.....	6.17

パ[°]

パニックアラーム.....	1.28
---------------	------

バ

バニティミラー.....	5.13
バルブの交換.....	6.18
バレットモード.....	4.17

パ[°]

パワーステアリングフルード.....	7.10
補充.....	6.05
パワートレインコントロール.....	2.23
パワー出力.....	7.04
エンジン.....	7.04
パンクリペアキット.....	6.31

ハ

ハンドリングコントロール.....	2.22
-------------------	------

パ[°]

パークリングアシスト.....	2.14
パークリングアシストカメラ.....	2.14
パークリングセンサー.....	2.12
パークリングブレーキ.....	2.06
パークリングランプ.....	1.28

ピ

ピットレーン発進.....	2.29
---------------	------

ヒ

ヒューズ	
セカンダリヒューズボックス.....	6.15
バッテリーヒューズボックス.....	6.17
メインヒューズボックス.....	6.13
交換.....	6.13

ヒューズボックス

セカンダリ.....	6.15
バッテリー.....	6.17
メイン.....	6.13
ヒルホールドコントロール.....	2.34

フ

フィラーパイプ - 燃料.....	6.09
フェイルセーフ.....	2.11
フォースリミッター - シートベルト.....	1.16
フック - けん引.....	6.09

プ

ブッシュトウドリンク ドリンク.....	5.14
-------------------------	------

索引

フ

フットブレーキ.....	2.07
フルード - パワーステアリング.....	7.10
補充.....	6.05
フルード - ブレーキ.....	7.11
補充.....	6.06

ブ

ブレーキ	
アンチロックブレーキシステム.....	2.33
アンチロックブレーキシステム警告灯.....	2.33
バーキング.....	2.06
ヒルホールドコントロール.....	2.34
フット.....	2.07
ブレーキアシストシステム.....	2.34
ブレーキステア.....	2.35
ブレーキディスクワイピング.....	2.34
ペダル.....	2.07
警告灯.....	2.08
摺り合わせ.....	2.48
ブレーキアシストシステム.....	2.34
ブレーキステア.....	2.35
ブレーキディスクワイピング.....	2.34
ブレーキフルード.....	7.11
補充.....	6.06
ブレーキペダル.....	2.07
プロア-速度 - クライメートコントロール.....	5.08

フ

フロントウィンドウウォッシャー.....	6.07
フロントウィンドウワイパー.....	1.30
ウォッシャー/ワイパー.....	1.31
シングルワイパー.....	1.30
ワイパー刃の交換.....	6.25
ワイパーモード.....	4.18
ワイパー感度.....	4.18
雨滴センサー.....	1.30
フロントエアバッグ.....	1.17
フロントサービスカバー.....	1.08
開ける.....	1.08
開ける - バッテリーが放電した場合.....	6.22
手動で開ける.....	6.22
フロントサービスカバーを開ける.....	1.08
フロントサービスカバーを閉じる.....	1.08

ブ

ブーストスタート.....	6.12
---------------	------

△

ヘッドライト.....	1.25
ダイナミックヘッドライト.....	1.26
ハイビーム.....	1.25
パッシング.....	1.25

ベ

ベルト - シート.....	1.15
ベント	
ダッシュボード.....	5.09
ベントの開閉	
ダッシュボードエアベント.....	5.09

ホ

ホイール	
検査.....	6.29
交換.....	6.30
ホイールおよびタイヤサイズ.....	7.07
ホイールサイズ.....	7.07
ホイール - ステアリング	
マニュアル調整.....	1.14
ホイールスピンドル.....	2.28
ホイールとタイヤ.....	6.27
ホイールの交換.....	6.30
ホイールの取り外し	
センターロックナットトルクツール.....	6.10
ロッキングリング取り外しツール.....	6.10
ホイールの相互交換.....	6.30
ホイールの点検.....	6.29
ホーン.....	1.14

マ

マクラーレンインフォテイメントシステム	
AUX.....	4.31

索引

Bluetooth Phone 設定.....	4.13
Bluetooth オーディオ.....	4.31
USB および iPod.....	4.29
オーディオと音量.....	4.11
カメラ.....	4.20
システムコントロール.....	4.02
ストレージ.....	4.30
デバイスのペアリング/接続.....	4.22
ナビゲーション.....	4.18
ナビゲーションの使用.....	4.33
はじめに.....	4.04
メディアコントロール.....	4.28
ライト設定.....	4.13
ラジオおよびメディアの設定.....	4.12
ラジオコントロール.....	4.35
ラジオデータシステム.....	4.36
安全性.....	4.32
一般設定.....	4.05
音声認識.....	4.43
外部デバイスへの接続.....	4.29
概要 - ナビゲーション.....	4.32
概要 - メディア.....	4.27
概要 - ラジオ.....	4.35
概要 - 電話.....	4.21
接続設定.....	4.10
設定.....	4.05
地域設定.....	4.07
著作権.....	4.02
通話の終了.....	4.25
通話を受信.....	4.25
通話中のオプション.....	4.25
電話をかける.....	4.23



補足情報.....	4.02
目的地の設定.....	4.34
連絡先.....	4.26
マクラーレントラックテレメトリ	
アプリケーションの起動.....	4.37
セッションの終了.....	4.40
テレメトリデータのインポート.....	4.41
テレメトリデータのエクスポート.....	4.41
データの確認.....	4.40
ドライブ.....	4.38
トラックの編集.....	4.42
概要.....	4.37
設定.....	4.38
マニュアルドアリリース	
キーホルダー.....	6.10
マニュアルドアリリースキーホルダー.....	6.10
マニュアルモード - トランスマッision.....	2.18
マニュアルモード - 室内温度制御.....	5.05
マニュアルロック解除.....	6.19



メインインストルメントの概要.....	2.04
メインヒューズボックス.....	6.13
ヒューズ.....	6.13
メッセージ.....	3.06
メッセージの表示.....	3.10
メディア	
AUX.....	4.31
Bluetooth オーディオ.....	4.31
USB および iPod.....	4.29
ストレージ.....	4.30
メディアコントロール.....	4.28
外部デバイスへの接続.....	4.29
概要.....	4.27
メディア USB ソケット.....	5.14



ライト設定.....	4.13
ラウドスタート.....	2.15
ラジオ	
ラジオコントロール.....	4.35
ラジオデータシステム.....	4.36
概要.....	4.35
ラジオおよびメディアの設定	
概要.....	4.12
ランプ - サイド.....	1.25
ランプスイッチ.....	1.24

索引

リ

リアサービスカバー.....	1.09
開ける.....	1.09
リアサービスカバーを開ける.....	1.09
リアサービスカバーを閉じる.....	1.09
リアスポイラー.....	2.38
リアビューカメラ.....	2.13
リアフォグランプ.....	1.26
リーディングランプ.....	5.11
リバースミラーディップ.....	4.15
リフトポイント - 車両.....	6.35
リモコンキー.....	1.02
エントリー.....	1.02
バッテリーの交換.....	6.21
収納.....	1.03
放電したバッテリー.....	1.04
リモコンキーの収納.....	1.03
リモコンキーの電池が切れた場合.....	6.21
エンジンの始動.....	6.20
ロック解除.....	6.19

レ

レーシングシート.....	1.12
調整.....	1.12
レースモード.....	2.30
アクティブにする.....	2.30
インストルメント.....	2.32
概要.....	2.30
車両設定.....	2.32
非アクティブにする.....	2.31

レースモードをアクティブにする.....	2.30
レースモードを非アクティブにする.....	2.31
レシオ - ギア.....	7.05

ロ

ロービームヘッドライト.....	1.25
ロッキングリング取り外しツール.....	6.10
ロック.....	1.05
ミスロック.....	1.05
自動.....	1.08
車外から.....	1.05
車内から.....	1.06
ロック解除 - 放電したバッテリー.....	6.19

ワ

ワイパーブレードの交換.....	6.25
ワイパーモード.....	4.18
ワイパー感度.....	4.18

安

安全性.....	1.15, 5.02
エアバッグ.....	1.16
エアバッグシステムの修正.....	1.17
エアバッグの交換.....	1.17
シート.....	1.12
シートベルト.....	1.15
バッテリー.....	6.11
ミラー.....	1.22

正規外着座 (OOP) 対応エアバッグ.....	1.19
燃料.....	7.09
安全装置.....	6.08

一般.....	2.33
一般設定.....	4.05

雨

雨滴センサー.....	1.30
-------------	------

温

温度 - クライメートコントロール.....	5.07
温度表示.....	3.04

音

音声認識.....	4.43
-----------	------

海

海外での走行.....	6.38
-------------	------

外

外気温表示.....	3.04
------------	------

索引

外部ミラー	1.22
ヒーティング	1.23
ミラーの自動折りたたみ	1.23
ミラー折りたたみ	1.23
リバースディップ	1.23
外部照明	1.24

慣

慣らし運転	2.48
-------------	------

機

機能	
12V ソケット	5.13
USB ソケット	5.14
サンバイザー	5.13
降車後ライト	5.12
室内照明	5.11
乗車前ライト	5.12

記

記号	4
----------	---

技

技術データ	7.04
エンジン	7.04
ギアレシオ	7.05

タイヤ空気圧	7.08
ホイールおよびタイヤサイズ	7.07
車体寸法	7.05
車両重量	7.07
車両動作温度	7.04
旋回半径	7.08
速度 - ギア	7.05
技術用語集	7.12

給

給油	2.50
----------	------

緊

緊急給油フィラーパイプ	6.09
-------------------	------

空

空気圧 - タイヤ	6.30, 7.08
-----------------	------------

経

経済走行	2.11
------------	------

警

警告 - エンジンオイルのレベル	6.02
警告 - エンジンオイル温度	6.04

警告灯	2.03
アンチロックブレーキシステム	2.33
エンジン	2.10
シートベルト	1.16
ブレーキ	2.08
補助拘束装置	1.19

個

個人用アンロック設定	1.06
------------------	------

故

故障	6.36
----------	------

交

交換	
バルブ	6.18
ヒューズ	6.13
リモコンキーの電池	6.21
ワイパークリーナー	6.25
車両バッテリー	6.36
交換用バッテリー	6.36

工

工具	6.08, 6.09
----------	------------

索引

拘

拘束装置.....	1.16
KISI チャイルドシート機能.....	1.21
チャイルド.....	1.20
補助.....	1.16

降

降車照明.....	5.12
-----------	------

最

最低地上高.....	5
------------	---

仕

仕様.....	7.04
仕様 - エンジンオイル.....	7.09

始

始動および走行 イグニッションのスイッチをオンにする	2.03
インストルメントと警告灯.....	2.03
エンジンの始動.....	2.08
ギア位置.....	2.06
パーキングブレーキ.....	2.06
フットブレーキ.....	2.07

メインインストルメント	2.04
ラウドスタート.....	2.15
警告灯.....	2.03
通知灯.....	2.04

時

時計.....	3.04
---------	------

自

自動アラーム.....	4.16
自動ドアロック.....	4.16
自動ミラー開閉.....	4.16
自動ロック.....	1.08
自動ワイパー.....	1.30

識

識別番号 - 車両.....	7.03
----------------	------

室

室内照明.....	5.11
ムードライト.....	5.11
車内灯.....	5.11

車

車外からのロック解除 キーレス.....	1.04
リモコンキー.....	1.02
車高の下降.....	1.32
車高の上昇.....	1.32
車速.....	7.05
車体寸法.....	7.05
車内からロック解除.....	1.06
車両カバー.....	6.34
車両のジャッキアップ.....	6.35
車両のリフトポイント.....	6.35
車両の移送.....	6.37
車両の回収.....	6.36, 6.36
車両の使用.....	2.48
車両の始動 リモコンキーの電池が切れた場合.....	2.08
車両の電気的状態.....	2.02
車両リフト 下降.....	1.32
上昇.....	1.34
操作.....	1.33
車両識別.....	1.32
車両識別番号.....	3.08
車両重量.....	7.03
車両情報.....	3.06
エラーメッセージ.....	3.06
オイルの状態.....	3.07
タイヤ監視.....	3.07
バッテリーの状態.....	3.07
車両識別.....	3.08

索引

整備間隔.....	3.08
車両設定	
ギアシフトモード.....	4.16
サイレントドアロック.....	4.16
タイヤタイプ.....	4.17
ドアロック解除.....	4.16
パレットモード.....	4.17
リバースミラーーディップ.....	4.15
ワイパー モード.....	4.18
ワイパー 感度.....	4.18
自動アラーム.....	4.16
自動ドアロック.....	4.16
自動ミラー開閉.....	4.16
速度制限.....	4.18
車両設定 - レースモード.....	2.32

重

重量.....	7.07
---------	------

循

循環モード - クライメートコントロール.....	5.08
---------------------------	------

純

純正 McLaren 部品およびアクセサリー	
概要.....	7.02

消

消耗した電池.....	1.04
-------------	------

照

照明

インテリア.....	5.11
エクステリア.....	1.24
オートマチックコントロール.....	1.25
サイドランプ.....	1.25
スイッチ.....	1.24
ダイナミックヘッドライト.....	1.26
ハイビーム.....	1.25
ハザード警告灯.....	1.28
パッキングランプ.....	1.25
パークリングランプ.....	1.28
ムードライト.....	5.11
リアフォグランプ.....	1.26
ロービーム.....	1.25
車内灯.....	5.11
方向指示器.....	1.27

乗

乗車照明.....	5.12
-----------	------

触

触媒コンバーター.....	2.11
---------------	------

高温.....	2.11
---------	------

推

推奨燃料品質.....	2.51
-------------	------

寸

寸法.....	7.05
---------	------

整

整備間隔.....	3.08
-----------	------

製

製品 - サービス.....	7.09
----------------	------

接

接続設定	
概要.....	4.10

折

折り畳み式ドライバー ディスプレイ.....	3.04
右側ディスプレイの概要.....	2.05, 2.05
折り畳み式ドライバー ディスプレイの概要.....	2.04

索引

設

設定

概要	4.05
設定 - 個人用アンロック	1.06

洗

洗車	6.32, 6.32
エクステリア	6.32
ホイール	6.32

旋

旋回半径	7.08
------	------

走

走行安全システム	
一般	2.33
走行時の注意事項	6.29

速

速度 - ギア	7.05
速度上限	2.46, 2.47
設定	2.46, 2.47
速度制限	4.18

地

地域設定	4.07
------	------

注

注意事項 - 走行	6.29
-----------	------

駐

駐車日数	2.02
------	------

著

著作権	3, 4.02
-----	---------

通

通知灯	2.04
-----	------

展

展開 - エアバッグ	1.19
------------	------

電

電気的状態	2.02
電子ユーザー マニュアル	3
電池の交換 - リモコンキー	6.21

電動式 ウィンドウ

安全性	5.02
-----	------

電話	3.08
----	------

デバイスのペアリング/接続	4.22
---------------	------

概要	4.21
----	------

通話の終了	4.25
-------	------

通話を受信	4.25
-------	------

通話中のオプション	4.25
-----------	------

電話をかける	4.23
--------	------

連絡先	4.26
-----	------

冬

冬季の走行	2.53, 2.53
-------	------------

到

到達可能距離表示	3.18
----------	------

動

動作温度 - 車両	7.04
-----------	------

曇

曇り取り - クライメートコントロール	5.06
---------------------	------

索引

内

内気循環モード - クライメートコントロール	5.08
------------------------	------

熱

熱線入りミラー	1.23, 5.10
---------	------------

燃

燃料	2.50
タンク	7.09
フィラーパイプ	6.09
安全性	7.09
品質	2.51
燃料の給油	2.50
燃料残量表示	3.18

排

排気ガス	2.11
温度監視	2.11

発

発進	2.10
発進コントロール	2.26

非

非常用装備	6.08
けん引フック	6.09
センターロックナットトルクツール	6.10
タイヤシーラント	6.08
マニュアルドアリリースキー・ホルダー	6.10
リアサービスカバー取り外しツール	6.09
ロッキングリング取り外しツール	6.10
安全性	6.08
概要	6.08
燃料フィラーパイプ	6.09
非常用装備の安全性	6.08

部

部品	
概要	7.02
部品およびアクセサリー	
概要	7.02

保

保存データ	6
-------	---

補

補充	6.02
エンジンオイル	6.03
ギアボックスオイル	6.04

クーラント	6.04
パワーステアリングフルード	6.05
ブレーキフルード	6.06
フロントウィンドウウォッシャー	6.07
補助拘束装置	1.16
補足情報	4.02

方

方向指示器	1.27
-------	------

容

容量	7.09
エンジンオイル	7.09
クーリングシステム	7.10
燃料タンク	7.09

用

用語集 - 技術	7.12
----------	------

